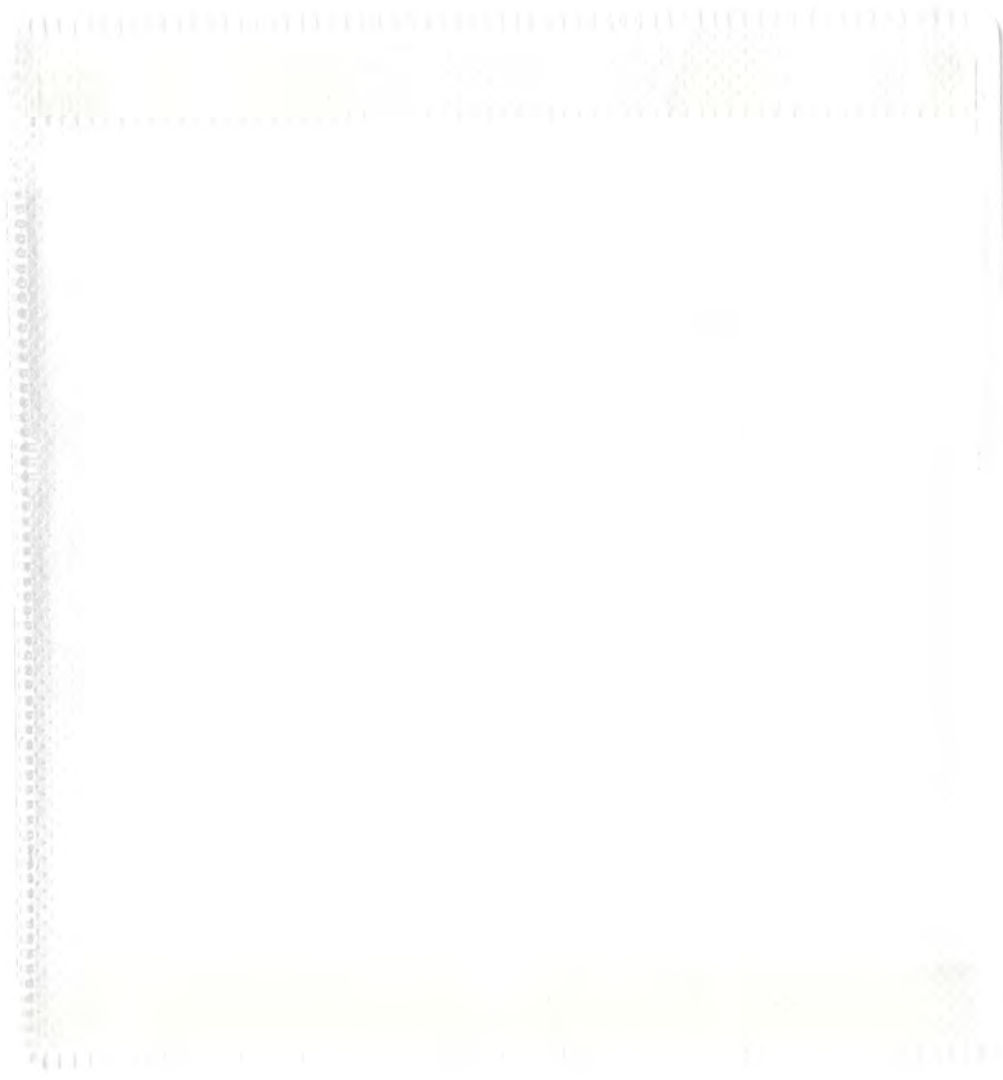


資料編

- I 映像記録関連資料
- II 明治座改修工事関連資料
- III 制作・広報活動
- IV 広告・パンフレット
- V 新聞記事

付録資料Ⅰ 映像記録関連資料

- ①制作映像 DVD
(全国育樹祭用 ラッシュ映像)
- ②制作映像 構成台本
- ③映像記録シーン一覧
- ④映像記録制作部会 共有情報
- ⑤映像記録 構想・申請資料



制作：遠藤協氏

2015年10月4日(日) 全国育樹祭 森の恵みフォーラム基調講演「平成の大改修と地域で支える人々」	
映像『かしも明治座耐震改修工事の1年 ラッシュ映像』	
映像	ナレーション(音声)
①森の加子母と明治座	
<p>○タイトル</p> <p>全国育樹祭 なかつがわ森林文化伝承</p> <p>森の恵みフォーラム</p> <p>かしも明治座耐震改修工事の1年</p> <p>ラッシュ映像</p> <p>○霧けぶる加子母の全景</p> <p>○山 PAND 明治座</p> <p>○明治座フル</p> <p>○明治座正面 PAND</p> <p>○観客席 PANU 舞台</p> <p>○観客席 PAN 舞台</p> <p>○回り舞台</p>	<p>・雲の間に浮かぶ加子母の風景です。</p> <p>・今日の主役、かしも明治座です。</p> <p>・日清戦争の年の明治27年に建てられ、今年で満121年を迎えます。</p> <p>・今、みなさんが座ってらっしゃる客席。広々とした平土間で、伝統的な芝居小屋の形式を踏んでいます。</p> <p>・2階の棧敷席を含めて多いときは600人くらいはいるということです。舞台は奥行き8メートル幅20メートルと、思った以上に広いですね。</p> <p>・こちらは場面転換に使う回り舞台。人力で回しています。</p> <p>・舞台後方にある楽屋です。数々の役者さん</p>

<p>○楽屋</p> <p>○楽屋下の道具倉庫</p> <p>○小道具、衣装類</p> <p>○舞台から客席 PAN</p> <p>○木札 PAN</p> <p>○安江利朗さん紹介 <u>明治座大道具</u> <u>安江利朗さん</u></p> <p>○安江利朗さん int</p>	<p>たちがここで化粧をして顔をつくってきました。</p> <p>・今日は明治座をあまりご存じない方もいらっしゃると思いますので、ご覧にいれますが、こちらは楽屋の下にある、小道具や衣装の倉庫です。数々の歌舞伎の小道具がしまい込んであって、なにか異空間に迷い込んだような不思議な気分になります。</p> <p>・舞台からみた客席の様子ですね。こちらからはこのように客席がみえます。</p> <p>・明治座の改修工事を語るうえで欠かせないのが入り口に並んだ木札。一口300円で寄付をつのって、名前を書いたものがずらーと並んでいます。10年間で約2000万円を集めたそうです。これが改修工事の原資になりました。みなさんから集めた寄付が発端なんですね。</p> <p>・長年、明治座の大道具を勤めてみえた安江利朗さんです。本業は大工さん。120才を超える明治座ですが、永久不変のものではなくて、変わり続けてきたということをおっしゃっています。</p> <p>利朗さん ON「」</p>
<p>②今回の耐震改修工事について</p>	
<p>○タイトル 今回の耐震改修工事について</p> <p>○川端さん int</p>	<p>・次に、今回の耐震改修工事がなぜ必要だったのか、ということをご紹介します。お話は建築士の川端真（しん）さんです。</p> <p>川端さん ON「」</p>

<p>建築士 川端眞さん</p> <p>○柱 PAND</p> <p>○小部屋</p> <p>○歪んだ梁</p> <p>○奈落にて川端さん int</p>	<p>・明治座の屋根を支えている柱ですが、あまりの重さで、危険な状態になっているため、補強が必要です。</p> <p>・入り口ちかくの小部屋の壁は耐力壁というものに換えて、地震への強度を増す工事をします。</p> <p>・長年の経過で歪んでいるところもぴったり組むように直します。</p> <p>川端さん ON「」</p>
<p>奈落 石場建て</p> <p>○石場建ての柱</p> <p>○痛んだ柱</p> <p>○大屋根 PAN</p>	<p>・明治座の柱は石のうえにそのままのっている石場建てという伝統工法でできています。</p> <p>・これも湿気や虫食いや加重で痛んでいるので、痛んだ部分だけを交換します。</p> <p>・そして目玉となるのは、ご存知のように大屋根の工事です。瓦屋根をやめて、創建当時と同じ、くれ葺きの屋根に戻します。これで屋根が軽くなると、地震への耐久性が飛躍的に向上するということです。</p>

③舞台道具の搬出	
<p>○タイトル 2014年12月 舞台道具の搬出</p> <p>○引っ越しをする人々</p> <p>○舞台の書き割りも搬出される</p> <p>○中島さん int</p> <p>○トラックに積み込む、出発</p>	<p>・2014年の年の暮れ、いよいよ工事にむけて動き出しました。</p> <p>・12月、明治座では、中のものを運び出す作業が行われました。</p> <p>・加子母歌舞伎保存会、明治座保護会、明治座活用委員会の関係者など、これまで明治座を守り伝えてきた方たちが、総出で作業にあたりました。</p> <p>・大道具、小道具、舞台上で使う書き割りも運び出します。</p> <p>・中島さん ON「」</p> <p>・一年後の工事の完成を期待して、しばしのお別れです。</p>
④床板をはずす	
<p>○タイトル 2015年1月 床板を外す</p> <p>○加子母ロング</p> <p>○足場を組んだ明治座</p> <p>○明治座内部ロング</p> <p>○床板を外す大工さん</p> <p>○丁寧に一枚一枚外し、釘を抜く</p>	<p>・2015年1月、年が明けて、いよいよ工事が本格始動しました。</p> <p>・足場が組まれています。</p> <p>・中では、床板をはずす作業が行われています。</p> <p>・床板は使えるのものは再利用するので、1</p>

<p>○床板につけた木札</p> <p>○大工さんコメント</p> <p>○床板を外したロング</p> <p>○痛んだ根太（上）と大引（下）</p> <p>○柱の根元の腐り</p> <p>○花道</p> <p>○花道 PAND 穴</p> <p>○穴 ZI</p> <p>○骨</p> <p>○柱 PAND</p> <p>○柱の根元の補修痕</p> <p>○鉄板を差し込んだ柱</p>	<p>枚 1 枚丁寧にはがしていきます。釘も丁寧に抜きます。</p> <p>・板には 1 枚 1 枚番号札がつけられます。元通りにする際の目印になっています。</p> <p>大工さん ON 「」</p> <p>・数日後、床下が現れると、予想以上に痛みが激しいことがわかってきました。</p> <p>・みなさんのお尻の下を支えている材木、根太や大引と呼ばれる部材ですが、腐ってぼろぼろになっています。</p> <p>・床板を外しただけで、ぼろぼろに崩れてしまいました。</p> <p>・床板で隠れていて、今までわからなかった柱の根元の様子も分かってきました。腐れや虫食いがかなり進んでいます。</p> <p>・一方、おもしろい発見もありました。</p> <p>・花道の下にあるこの穴、なんだかわかるでしょうか。実は、これ狐の通り道です。むかしここで親狐が子育てをしていたそうです。おとぎ話みたいです。</p> <p>・狐の餌食になった動物の骨でしょうか。たくさんでてきました。</p> <p>・こちらの柱の根元からは、おもしろいものが見つかりました。</p> <p>・柱を補修した痕です。腐った部分に丸太が差し込んであります。</p> <p>・こちらは隙間を埋めるために鉄板がさしこんであります。</p> <p>・不格好な補修ですが、先人が自分たちの手で、明治座を修理しながら使ってきた証拠で</p>
--	---

	はないかと思います。
⑤板へぎがはじまる	
<p>○タイトル</p> <p>2015年2月</p> <p>板へぎがはじまる</p> <p>○岩木工芸外観</p> <p>○秘密基地のような工房に潜入すると</p> <p>○岩木誠さん</p> <p>○板へぎ機械</p> <p>○機械の操作</p> <p>○手作業の板へぎ</p> <p>○板の束</p>	<p>・明治座で工事が進む一方、加子母ではある一大プロジェクトが進行していました。</p> <p>・加子母の郵便局の裏にある、岩木誠さんの工房です。</p> <p>・岩木誠さん。加子母歌舞伎の女形もつとめていらっっしゃいます。</p> <p>・この赤い機械、屋根を葺くくれ板を製造するマシンです。栗の木をうすくへいでいきます。</p> <p>・この機械は岩木さんの手作りです。いろいろな工作機械を組み合わせて作り上げました。</p> <p>・いっぽう、昔ながらの手でへぐ方法は、1枚1枚、手間と根気のいる作業です。</p> <p>・明治座の大屋根を葺くためには夏までに8万枚あまりを製造しなければなりません。岩木さんの工房ではこの頃一日に約300枚程を製造。果たして間に合うのか？自転車操業が続きました。</p>
⑥飛驒の名人に会いに行く	
<p>○タイトル</p> <p>2015年2月</p> <p>飛驒の名人に会いに行く</p>	<p>・くれ板はできるだけ薄く、均一な厚さでへぐのが良いといわれます。そのためには手でへぐのが一番なのですが、一本の木からなるべく多くの板を、いかに薄く、すばやく、へ</p>

<p>○飛驒にむかうワゴン車</p> <p>○飛驒の里</p> <p>○加子母の一行</p> <p>○山口末造さん</p> <p>○旧中藪家 ○中藪家の屋根</p> <p>○山口さんのクレヘギ 見つめる岩木さんら</p> <p>○岩木さんが挑戦</p> <p>○苦戦する岩木さん</p> <p>○山口さんから厳しい一言 ○岩木さん</p> <p>○指導する山口さん ○道具をみる一行</p>	<p>ぐのかが課題でした。そこで岩木誠さんをはじめ、加子母の方たちが、くれへぎの名人に教えを乞うべく、北へと向かいます。</p> <p>・岐阜県高山市にある飛驒の里。この地方の伝統的な建物を集めた野外博物館。</p> <p>・板へぎプロジェクトに参加する加子母の有志がやってきました。</p> <p>・飛驒地方最後のくれ葺き職人、山口末造さんです。</p> <p>・会場は江戸中期頃の飛驒地方のくれ葺き民家。山口さんが屋根を維持してきました。</p> <p>・88歳の山口さんですが、手さばきは力強く、無駄がありません。</p> <p>・岩木誠さんもくれへぎに挑戦。</p> <p>・板を薄くとうろうとすると穴があいてしまいます。これでは使い物になりません。</p> <p>・如何に薄く、穴をあけずにへぐか。くれへぎの最も難しいところです。</p> <p>・その後、くれへぎの技術や道具の使い方など、山口さんの長年の経験が伝えられました。</p>
<p>○加子母に戻って</p> <p>○何かを探す</p> <p>○他の家を尋ねる</p>	<p>・加子母に戻り、早速活動開始です。</p> <p>・まずは、くれへぎに必要ななにかを探します。</p>

<p>○倉庫には見当たらない</p> <p>○他の家で</p> <p>○両刃のナタが見つかる</p> <p>○役場の倉庫の作業場</p> <p>○両刃のナタをつかって丸太を割る</p> <p>○量産態勢が始動</p>	<p>・林業が盛んな加子母ならではの探索でした。</p> <p>・役場の倉庫では優良材生産クラブのメンバーを中心に、サワラのくれへぎが行われることになりました。</p> <p>・くれ板の量産態勢が始動しました。</p>
<p>⑦セメント瓦を下ろす</p>	
<p>○タイトル</p> <p>2015年3月</p> <p>セメント瓦を下す</p> <p>○素屋根に覆われた明治座</p> <p>○瓦の大屋根 PAN</p> <p>○セメント瓦 PAND</p> <p>○鬼瓦</p> <p>○瓦下しの男たち</p> <p>○作業が始まる</p> <p>○瓦をはずすとその下から現れたのは</p> <p>○古い板葺きの屋根</p>	<p>・3月。改修工事の節目が訪れました。</p> <p>・この日、屋根の工事を行うために、瓦をすべて下ろします。</p> <p>・大正時代にこけら葺きから瓦に替わって以来、雨風から明治座を守り続けてきました。</p> <p>・長年見守ってきてくれた鬼瓦。</p> <p>・瓦を外すと、足下からなにかが現れました。</p> <p>・おれは、古いくれ葺きの屋根です。明治座が瓦屋根になる以前の、大正時代のものと思われれます。建築史的にも貴重な資料がタイムカプセルのように眠っていました。</p> <p>・鬼瓦もとうとう長年の役目を終えます。</p>

<p>○鬼瓦をはずす</p>	
<p>⑧柱の根継ぎ作業</p>	
<p>○タイトル 2015年3月 柱の根継ぎ作業</p> <p>○柱をけずる</p> <p>○差し込む</p> <p>○他の柱も交換</p>	<p>・明治座の内部では、腐った柱の根継ぎ作業が順次進められていました。</p> <p>・柱の根元の腐った部分だけを切り取り、同じ形に削った木材を、ぴったりに合わせてます。</p> <p>・腐ってない部分はそのまま遺すため、複雑な形の根継ぎも行います。</p>
<p>○御輿の道行き 2015年4月 下郷神社例祭</p> <p>○明治座に集まる人々 ○くれ板に名前を書いていく</p>	<p>・明治座のある下郷地区の春祭りです。</p> <p>・集まった方にむけて、一口千円からのくれ板募金をはじめました。屋根の今後のメンテナンスのための資金に充てられます。名前を書いています。</p>
<p>⑨くれ葺きが始まる</p>	
<p>○タイトル 2015年6月 くれ葺きが始まる</p> <p>○田植えの済んだ田んぼ</p> <p>○シーリング施工した大屋根</p>	<p>・6月、工事開始から6ヶ月が経ちました。</p> <p>・大屋根は、古いくれぶきを保護するため、板で覆ったあと、雨漏り防止のシーリングが施されました。</p>

<p>○小屋組 PAN</p> <p>○根継ぎしたツカ</p>	<p>・屋根裏の工事も進みました。</p> <p>・長年の重さで沈んだ部材を持ち上げるため、ここにも根継ぎが行われました。これで屋根のゆがみが直りました。</p>
<p>○大屋根 PAN くれ葺き作業</p> <p>○安江眞佐雄さん 安江瓦店 安江眞佐雄さん</p> <p>○安江さん int</p> <p>○安江さん int</p> <p>○夫婦で作業する</p>	<p>・そして、屋根の隅では、いよいよくれ葺きが始まりました。</p> <p>・施工を担当するのは加子母で瓦屋を営む安江眞佐雄さんです。</p> <p>安江さん ON「」</p> <p>・40年近く瓦屋をやっています、くれ葺きの施工は今回がはじめてだそうです。</p> <p>安江さん ON「」</p> <p>・試行錯誤の屋根葺きが始まりました。夏までに8万枚を葺きあげなければなりません。</p>
<p>○床の復帰作業</p>	<p>・明治座の内部では、腐った床組の部材が交換されています。いよいよ工事が佳境に向かいます。</p>
<p>⑩くれ葺きが完成する</p>	
<p>○タイトル 2015年8月 くれ葺きが完成する</p> <p>○加子母全景</p> <p>○ほぼ葺き上がった大屋根</p> <p>○1枚1枚すべて形が異なるくれ板</p>	<p>・葺きはじめから2ヶ月余り。大屋根はすっかりくれ板で覆われました。</p> <p>・1枚として同じ形のない、くれ板の屋根。</p>

<p>○あと数メートル</p> <p>○安江さん</p> <p>○手際よく板を並べる</p> <p>○集まった関係者</p> <p>○伊藤さん</p> <p>○内木さん</p> <p>○岩木さん</p> <p>○桂川さん</p> <p>○河村さん</p> <p>○安江さん</p> <p>○ 明治座外観</p>	<p>・くれ葺きの作業は遺すところ数メートルとなりました。</p> <p>・施工を担当した安江瓦さん。</p> <p>・よちよち歩きだった施工も、終盤には素早く板を並べるようになっていました。</p> <p>・くれ葺きの完了に立ち会うため、急速関係者に声かけられました。</p> <p>・加子母総合事務所の伊藤さん。</p> <p>・内木所長。</p> <p>・くれへぎマシーンを発明した岩木誠さん。</p> <p>・優良材生産クラブの桂川さん。</p> <p>・中島工務店の河村さん。</p> <p>・安江瓦さん。</p> <p>・こうして明治座の耐震改修工事は約一年の工期を終えました。</p> <p>・そして、どのように明治座が生まれ変わったのか、ぜひ、ご自分の目でご確認ください。</p>
<p>○エンドクレジット</p>	

明治座改修工事関連資料 ④映像記録制作部会の共有情報

映像記録部会 共有情報 (facebook グループ)

大学 : 学生・佐野智哉、春日功助/教授・藤岡伸子

映像作家: 遠藤協、石谷岳寛、畠山容平、早川正文

加子母 : 内木哲郎、伊藤満広、田口幸子、秦雅文

外部 : 川端真、大江忍

2014年8月2日 藤岡

8月14日の明治座文化財調査詳細

2014年7月28日 佐野 グループ作成

2014年7月31日 佐野

7月27日「加子母 明治座記録映像 企画ワークショップ」の配布資料・議事録添付 (講師: 石谷岳寛)

2014年8月1日 石谷 参考ページ① 加子母明治座HP

2014年8月1日 藤岡

参考ページ② 加子母の要である尾張藩山守役を代々務めた内木家。現当主 (20代目) の内木哲朗さんは、加子母総合事務所の所長です。

2014年8月1日 石谷

共同制作や撮影の協力をさせていただく畠山さん (ドキュメンタリー作家) をグループに追加

2014年8月2日 石谷

大学学生に向けて: 9月7日の歌舞伎に向けて加子母について深く知る入り口として以下の3つをテーマに映像を撮影し、5分くらいの映像の撮影

テーマ 1 風景を撮る

加子母がどんなところか伝わるように風景を撮影してください。山、水、生き物、建物など加子母ならではの風景を探して見てください。

どんな人が住んでいるのか? どんな産業で生活しているのか? 加子母に行ってみたい、もっと深く知りたいたいと思わせる映像とはなんなんですか?

テーマ2 建物 (空間) を撮る

明治座はどんな場所に位置するのか?

明治座はどんな空間なのか?

どんな人との関わり方があるのか?

建築的にはどんな特徴があるかなど...

時間を重ねるとどんな問題点があるか?

改修前の明治座についての映像を作ってください。

テーマ3 人を撮る

明治座の歌舞伎に参加している人にはどんな人がいるのか?

それぞれどんな思いで歌舞伎に参加しているのか?

歌舞伎座に関わる人々の普段の生活も含めて地歌舞伎が加子母の人たちにとっていかに大切なものかわかるように撮影して下さい。

それぞれ1人 (や家族) に撮影対象はしぼってその人の人生や生活、

なども含め日常のなかでの地歌舞伎との関わりを紹介して下さい。

8月14日 12:00に道の駅かしもに集合

(藤和善先生、大江忍さん、川端真さん、内木哲朗さん)

セメント瓦と外壁の下に覆われている当初材の確認が主な調査内容です。調査は遅くとも夕方までです。(藤先生は日帰り)

2014年8月2日 佐野

ワークショップ時のポストイット写真添付

2014年8月3日 春日

春日、佐野、若山の3人で加子母調査。

加子母総合事務所 田口幸子さんをグループメンバーに追加

2014年8月3日 春日

拠点について

今後はここを拠点に映像撮影をしていこうと考えています。

明日は、午前中に神宮備林の見学に同行させていただき、その後、総合事務所にて映像制作について少し話し合いをする予定です。夜は「なめくじ祭」という地元の祭りに参加したいと考えております。いずれの予定も撮影許可はとりつけてあります。

2014年8月7日 藤岡

第2回 加子母明治座耐震改修検討委員会が以下の通り開催されます。

当初立命館大学で開催する予定でしたが、現地開催となりました。

日時 平成26年8月22日 (金) 午前11時より

※11時から明治座で現地検討、午後1時30分加子母総合事務所で開催。

2014年8月17日 藤岡

8月14日の明治座調査の一コマ。藤先生と川端、大江の両設計士の3人が、あちらこちら動き回るのを、畠山さんがビデオカメラで追って下さいました。

2014年8月17日 畠山

藤岡研究室用のビデオカメラ提案

2014年8月19日 畠山

明治座改修工事関連資料 ④映像記録制作部会の共有情報

遠藤さん、ドキュメンタリー系のフリーのディレクターです。民族学系に詳しい方をメンバーにお誘いしました。いろいろと教わること多いと思います。よろしくお願ひします。

2014年8月20日 藤岡

加子母村時代のもの（現在は中津川市加子母）ですが、皆さんに捧げる加子母入門情報です。

ヒノキ文化を創造する村 岐阜県加子母村 | 内閣府 経済社会総合研究所

ヒノキ文化を創造する村 岐阜県加子母村 ヒノキと歌舞伎を愛する「人の森」の住人

esri.go.jp

2014年8月24日 佐野

8/22-25 記録映像の撮影

1日目 8/14日の明治座改修調査に引き続き、検討委員会の撮影やインタビュー

2日目 杣（ソマ）の安江正秀さんによる間伐体験の撮影

3日目 明治座管理人の安江智夫さん、栓皮製材や歌舞伎役者を行う岩木誠さんの作業現場の撮影+インタビュー

4日目 編集作業予定

全日程を通して、上記の内容以外にも加子母の風景や明治座に関わる映像を撮影しています。

2014年8月26日 藤岡

東京の皆様

9月7日の地歌舞伎公演の流れです： 前日6日から加子母入りできる方、宿泊方法を考えますのでご連絡お願ひします。

【控棟】

◆ 8時 顔塗り開始（12時くらいまで）

◆ 10時 着付け開始（14時くらいまで）

かつらは出番少し前に順に着用

【舞台】

◆ 10時 全員でお浄め？

◆ 11時 開演

幕間に大道具が舞台転換

【役者】

◆ 7時 集合

◆ 8時 順次顔塗りへ

◆ 10時 お浄め？、着付け開始

◆ 11時 開演

様子を見ながら順に昼食

◆ 16時 閉演

◆ 18時 板敷払い

Nippon Archives 【美しき日本】岐阜 | 岐阜ポートフォリオ
岐阜県は、雄大な自然、文化、伝統、食、芸術など、全国、世界に誇るじまんの原石の宝庫です。そんな岐阜県の素晴らしさを伝えるために、岐阜県のルーツをたどる旅の中で、岐阜県の顔とも言うべきブランドを美しい写真とともにお届けするのが、この「岐阜ポートフォリオ」です。 kankou-gifu.jp

2014年8月27日 佐野

加子母在住のデザイナー秦雅文さんをメンバーにお誘いしました。明治座のパンフレットなどのデザインから地歌舞伎の役者など、明治座と深く関わっている方です。これから現地からアドバースをしていただこうと思います。よろしくお願ひします。

2014年8月28日 藤岡

今回の耐震改修委員会委員長の鈴木祥之先生はこんな方です。高層ビルの構造設計からこの世界に転じた方です。

鈴木祥之先生(立命館大学教授)：伝統構法で使える耐震設計法を探る | 職人がつくる木の家ネット

2014年8月28日 藤岡

石谷さんが撮って下さった2009年名工大でのワークショップ映像です：学生の皆さんにはとても参考になりそう。風景、人物語などいろいろバランスよく織り込まれています。これは一眼レフカメラによる撮影でした。ちなみにこの映像の主人公は「サツキとメイの家」を建てた大工・一級建築士の中村武司さん。

2014年8月28日 藤岡

明治座クラシックコンサートの音楽監督で指揮者の白井圭さんが歌舞伎当日に加子母に来られるとの情報を秦さんからお聞きし (via 佐野君) インタビューをお願いしたところ、快諾を頂きました。秦さん制作の明治座ウェブサイトから、白井さんをご紹介しておきますね。秦さん、宜しくお願ひします。撮らせて頂くタイミングを映像プロチームと31日に、東京で相談します。

2014年8月30日 春日

東京の皆様

7日の地歌舞伎公演は県外からも含め、多くの観客が来場されると予想されます。それをふまえて、総合事務所の方から前日の6日に行われるリハーサルを見学してもらって、カメラの配置などをあらかじめ決めておいてほしいという要請がありました。公演当日はそのエリアに観客が入れないように配慮してくださいそうです。

2014年9月1日 春日

8/22から25にかけて、撮影機材や編集ソフトの練習を兼ねた映像WSを行いました。この動画は加子母の風景をテーマとしてまとめたものです。不慣れな作業であったため、お見苦しいかもしれませんが、見ていただけたら幸いです。

2014年9月1日 佐野

9月7日の歌舞伎ですが、11:00から始まり、17:00ごろ終わります。

<http://mejiza.jp/kabuki2014.html>

また18:00頃から3時間ほど板敷払いという、打ち上げがあります。

もし時間に余裕があれば、最初の1時間ほどでも、撮影OKだそうです。

2014年9月5日 藤岡

明治座改修工事関連資料 ④映像記録制作部会の共有情報

東京からお越しの皆さん

明日6日、宜しくお願ひします。佐野君は朝から明治座に出かけているそうなので、まずは明治座に集合ということでお願ひします。こちら、春日君他学生3人を連れて11時までには明治座着の予定で出発します。お気を付けてお越し下さい。

2014年9月14日 石谷

伝統工法関係の資料です。

伝統構法設計委員会 <http://green-arch.or.jp/dentoh/>

3年がかりで実大実験を繰り返しながら現代の建築法に合うための法律を検証してきました。今回の加子母の改修の検討委員会もほとんどこの時のスタッフです。

「石場建てを含む伝統的構法木造建築物の設計法」報告会 出欠 & アンケートを開始しました。

7/12(土)13時から立命館大学にて、柱脚完全フリーの石場建てを含む、伝統的構法の変形性能を活かした新しい設計法を初めて公開する報告会を開きます。 green-arch.or.jp

2014年9月14日 石谷

伝統構法に関する基礎知識はこちらがまとまっております。

木の家ネット <http://kino-ie.net/category/dentoh>

特に「既存不適格」に関しては今回の明治座の改修の意義を考慮することにおいて参考になるかと思ひます。

2014年9月12日 伊藤 明治座改修進んでます！

2014年8月15日 佐野

畠山さん、藤岡先生、春日さん、昨日はありがとうございました。昨日の話をもとに重要人物の調査をして行こうと思ひます！

2014年10月28日 遠藤

みなさま

この間、記録映像の体制づくりで着々と準備を進めてきました。11月半ば以降にいよいよ改修工事がはじまるとのことで、素屋根がかけられる前に、改修前の明治座の撮影に入ることにしました。

いわゆる“before”の撮影です。

今週31日(金)～11月2日(日)の3日間の予定でロケーションを行います。

ざっくりとした予定は以下の通りです。

- 31(金) 6:00 撮影スタッフ新宿駅南口集合・出発
- 13:30 かしも明治座着
- 15:00 川端さん(構造設計)打合せ
撮影計画練り
- 18:00 機材準備 コテージ泊
- 1(土) 5:00 起床・朝食
- 6:00 撮影準備・明るくなり次第撮影開始(終日)
- 16:00 早川写真店(空撮)顔合わせ コテージ泊
- 2(日) 5:00 起床・朝食
- 6:00 撮影準備・明るくなり次第撮影開始(終日)
- 10:00 川端さん(構造設計)インタビュー撮影

16:00 撮影終了・撤収

31日は主に移動とロケハンと準備で、撮影は行いません。

1、2日が勝負です。

今回の改修で大きく姿を変える屋根(瓦→くり板)、耐震補強を行う部分を中心に撮影を行います。今回、移動車(ドリー)や簡易なクレーンを持っていきますので、建物を出来るだけ格好よく撮りたいと思ひています。加子母のニワデンさんにもご協力いただき、高所作業車で屋根を中心とした外観も撮りたいと思ひています。3日もあれば十分に思われるかもしれませんが、特別機材を使った撮影はセッティングに思ひのほか時間がかかり、1カット撮るのに数時間要するなんてこともよくあります。今の時期は日照時間も短くなっていますので、時間との闘いになると思ひます。今回、東京からカメラマンの堀田泰寛さん(大ベテランです!)とディレクター遠藤、都合がつけば畠山さん、の3人で参上します。撮影のセッティングには人手が足りませんので、ぜひお手伝いいただけると助かります。宜しくお願ひします！

ところが勝負の1、2日は困ったことに2日に向けて天気が崩れる予報です。この一週間天気予報とにらめっこしながら、念を送り続けてきましたが、なかなか手強いですねw(胃が痛いです)。天気が豊的に良くなるように、みなさんも祈ってください。改修前に大規模なロケーションを組めるのは、スケジュールと経費の関係で、今回がおそらく唯一のチャンスです。なんとか成功させたいと思ひます。ぜひご協力ください。

2014年10月30日 遠藤

加子母在住の方にお尋ねなのですが、高台から明治座が臨めるような場所はないでしょうか。例えば、向いの山から、木々に邪魔されることなく、加子母の家並と明治座が撮影できるような場所があると、今後も含め助かるのですが、心あたりがありましたら(可能性も含め)ぜひ教えてください！

遠藤 明日時間があつたら、その場所のロケハンに行きたいと思ひます。

伊藤 向い山の林道から撮影するしかないと思ひますが、距離と障害物がどうかです…

遠藤 伊藤さま、ありがとうございます。少々藪漕ぎしても抜けがよくなる場所が見つかるのならよいのですが。サークルKの前の道に向かい山側に登っていったあたりはどうでしょうか? 地図でみると少し湾曲したあたりが、少し高くなっていて、抜けがよさそうな気もするのですが、明治座まではむずかしいのかな、という気もします。

伊藤 (写真) こんな感じですよ

遠藤 早速ありがとうございます! なかなか良いですね! 思っていたイメージに近いです。明日、行ってみようと思ひます。

2014年11月1日 伊藤

お疲れ様です。お手伝いできなくてすみません。早川写真館さんが、空撮の相談に4時頃明治座に来てくれるそうなのでよろしくお願ひします。

2014年11月6日 佐野

作業後・写真

2014年11月4日 遠藤

一昨日、明治座改修前口ケ、3日間の撮影を無事終えることができました。予定していた撮影項目を(奇跡的に)ほぼ終えることができました。各位のご協力のおかげで、時間をまったく無駄にすることなく動くことが出来ました。とても動きやすかったです。ありがとうございました。

また、各方面への協力や備品の準備等呼びかけていただきましてありがとうございました。撮影中は余裕がなくて、ご協力いただいた方々に十分な御礼をお伝えすることができませんでした。宜しくお伝えいただければ幸いです。

それに、名工大のみなさんには、(失礼ながら)手足のように動いていただき、とても助かりました。実際、撮影スタッフ2人では、まったく成立しない現場でした。あとで堀田カメラマンと一緒に、もし「皆さんがいなかったら、撮影は終わってなかった…」と肝を冷やしておりました。さすがにみんなカンがよくて、最後のほうには普通に撮影スタッフのように動いていましたねw。ほかの現場にも連れて行けそうな気がしました。また、宜しく願います!

今回は、改修工事がはじまる前の明治座の姿を最優先させて記録しています。今後いよいよはじまる改修工事にむけて、どういった出来事を記録していくか、具体的に工事スケジュールをふまえながら、日程を立てていかなければなりません。

さしあたり、これからどのようなことが行われていくのか、些細なことでもかまいませんので、漏れのないように教えていただければと思います。

今把握している日程に関しては、別途整理して投稿しようと思います。

2014年11月6日 佐野

Beforeの撮影を終え、本日木札の片付けが行われました。

作業中、いよいよ改修が始まると実感すると同時に木札の数に圧倒されていました。

恥ずかしながら、片づけが行われることも知らずに、撮影も行っていませんでした。

今後、日程を押さえていくよう気をつけます。

ここにも日程や気付いたことがあったら掲載していきます。

2014年11月7日 遠藤

明日8日、明治座の片付けが行われるとのことで、取り急ぎ、佐野さんに撮影にむかっていただくことになりました。宜しく願います。

9時半に現地につくそうです。作業の開始は9時とのことですが、それまでは、すこしゆめに作業を行っていただけたらうれしいですね(笑)。。

引越し作業のなかで、なにか面白い発見がありましたら、佐野さんにお伝えください。

今後の予定としては、

8日(土) 明治座片付け

13日(木) 受託業者決定→工事日程明らかに

15日(土) ?明治座片付け

と言う感じでしょうか。

引き幕や提灯は業者が取り外すとのことなので、

- ・引き幕、提灯を取り外す日
- ・素屋根をかけはじめの日
- ・工事を開始する日(とくに瓦を取り外す日)

などが、今のところ注意していきたい日程です。情報、入りましたらご教示いただければ幸いです。

2014年11月18日 佐野

明治座改修の日程に関して

12/9に文化財の関係で名工大の麓先生が明治座の写真撮影や記録を残すようです。その日も押さえておいたほうがいいかもしれません。

また、以下の日程についても12/9の写真撮影が終わるまでは取り外さないようなので、その日以降の撮影に備えて頂けたらと思います。

- ・引き幕、提灯を取り外す日
- ・素屋根をかけはじめの日
- ・工事を開始する日(とくに瓦を取り外す日)

詳しい日程についても分かり次第、連絡したいと思います。

写真は、イチョウの散っている下郷神社からみた明治座です。

2014年12月8日 佐野

明治座改修の日程

12/9 麓先生による文化財用の記録

12/11 明治座改修の起工式

上記の日程が予定されているため、12/9~12日まで加子母に滞在し、撮影にいつでも向かえるようにします。もし一緒に行く人がいたら、ご連絡ください。

2014年12月8日 藤岡

9日の麓先生の撮影は、大江さんがサポートします。少なくとも半日かかりの作業になるそうです。大江さんが麓先生のご機嫌を見ながら、インタビューを撮れるタイミングを探ってくれるそうです。基本的に始まってしまうと、建物以外はみんな邪魔者扱いになるので、佐野君もうまくタイミングを見てください。

11日の起工式は、大江さんも川端さんも今のところ現地には呼ばれていません。中島工務店と地元の神主さん、その他人々で執り行うようです。規模については不明。内木さんが詳しい情報を寄せてくれるとありがたいです。

「工事が始まる」という雰囲気最初感じられるのは、足場が組みあがるときより、その直後の瓦はぎになるそうです。(大江談) 瓦を剥ぎながらブルーシートで覆いをして行き、一週間ほどで全部はぎ終わるようです。

2014年12月9日 田口

12月7日の朝の明治座です。携帯カメラなので画質があまり良くないかもしれません。

2014年12月13日 佐野

12/9 麓先生による文化財用の記録

明治座改修工事関連資料 ④映像記録制作部会の共有情報

12/11 明治座改修の起工式

と撮影に行ってきました。

9日はあまり場の動きはなく、多くのシーンをとることはできませんでしたが、今回の事業を通じて文化財として保存していくということを伝えるために活用できると思います。

1日は9:00~10:00までの短い時間でしたが、キーパーソンが集まり、工事に向けての様子が記録できたと思います。数人ですがインタビューも行うことができました。

僕が来てからは雪は降ってないので雪景色はまだ取れていません。降るのを楽しみに待っています。

2015年1月12日 佐野

明けましておめでとうございます。スパンが開いてしまいましたが、近況報告です。

12/19 明治座活用委員会の方々が集まり、娘引幕や提灯の取り外し

1/8 麓先生による記録(2回目)+工事日程に関する会議

1/8日は、麓先生による、栗板(誠さんが機械により作成したもの)のチェックも入り、了解もとれたようです。

栗板を制作するグループもつくられ、軌道に乗ってきました!

また添付資料として、工事日程表を載せます。(※あくまで予定表であるため仮の日程です。)

今週から工事が進むようですが、

①畳の取り外し

②床板の取り外し

③葺屋根をかける

といった順番で工事が進むようです。

②の床板は、文化財保存のために床下工事後に戻すようです。そのため、一枚一枚、印を入れるといった手間のかかる作業を行うようです。

この様子は、逃さないように定期的に明治座に行こうと思います。

2015年1月13日 佐野

昨日投稿の工程表より詳細な四週工程表がありましたので、添付します。

前後2週間の予定が分かります。今後、現場担当の中島工務店 奥村敏男さんと連絡を取り合い、四週工程表を受け取り次第、こちらに掲載したいと思いますので、確認をお願いします。

2015年1月13日 佐野

本日は、改修工事の予定把握のため、明治座と誠さんの工房に訪れました。

・明治座

①畳約200枚に一つ一つ番付を行い、中島工務店の倉庫へ保管する作業を行っていました。

明日から床板を取り外すようなので、明日14日(水)と17日(土)に明治座へ訪れ、撮影を行おうと思います。

②床板作業の後は、内部壁の解体予定。

③葺屋根は雪が残っているため、2月20日以降に天候次第で作成。

・誠さんの工房

麓先生による栗板の了解も得たということで、工房に伺いました。栗板製造機の調整も残りわずかということで、希望が見えてきました。

今後、こちらの工房で4人程度が協力して栗板の作成を行っていくようなので、明治座だけでなくこちらにも定期的に訪れようと思います。

2015年1月14日 佐野

1/14 床板工事 本日は床板に一枚一枚割り付け作業をし、その様子を撮影してきました。

土曜日には取り外しが始まるようなので、もう一度訪れ取り外しの様子も撮影したいと思います。

2015年1月14日 藤岡

加子母映像制作チームの皆様

名工大の藤岡です。お陰様で、懸案の文化庁補助金申請を終えました。昨日、中津川市文化スポーツ部文化振興課で、満広さんのお助けを借りつつ最終的に書類を整えて頂き、県庁の方に、無事発送されたそうです。(今、電話で完了を確認しました)ご協力頂いた関係各位、ありがとうございます。かしも通信社の皆様、本間希代子さん、勝手なこといっぱい書きましたが、宜しく願います。 構想図_加子母明治座改修_参考資料1.pdf

2015年1月20日 佐野

1/17(土)、20(火) 床板工事 床板取り外しの様子を撮影してきました。

1~3枚目は17日の様子、4枚目は今日の様子です。

まだ、客席の端や裏手の床板の作業があるようなので、この作業が続きます。

また今後、地域の方々や加子母に関心のある方に明治座工事の様子を知ってもらい、関わってもらうためにも、加子母記録映像が貯めている写真をネットにアップしていこうと考えています。そのため、加子母総合事務所・中島工務店に掛け合っているところです。掲載は明治座の公式サイトにしていきたいと考えていますので素さんよろしくお願い致します!

2015年1月27日 佐野

【四週工程表】 今週来週の予定です。

引き続き、明治座では床板工事を進めていくようです。

*今後のイベント

①山村文化の伝承とこれからの地域づくり 2月22日(日)

(パネルディスカッションで、明治座について大江さん・本間さん・和之さんが話されます。)

②地歌舞伎公演 9月6日(日) 予定

2015年2月3日 佐野

2月2日 明治座

①現状

客席の床板が終わり、通路や楽屋など各部屋の床板作業を行っています。

[現場の様子]

・「ひどい状況」との意見。写真3枚目から、床下に「根太」は腐食箇所があり、「大引き」に至っては入っていない部分もある。よくもっていたと思えるような状況。

②ポイント

やはり16日の麓先生のチェックや意見を聞きながら工事を進めていくとのことでした。

16日は、いろいろな出来事や意見が飛び交うと予想されるため、麓先生に長時間張り付いて撮影したいと思います。

【検討項目】

- ・根太の腐り部分
- ・柱のジャッキアップ箇所
- ・耐力壁に変更する部分の納まりなど

③今後の予定

16日以降、床板作業が終わり次第、柱をジャッキアップし、鉛を入れるようです。

また外部足場も組み始めていくとのことでした。

2015年2月9日 佐野

2月9日 床板取り外し後の工事状況撮影

【常に地元の方々が保存修復を行ってきた】

床板取り外したことで、わかってきたことや現場で気づいたこと。16日の麓先生のチェック時に確認することなどを伺ってきました。

以下にまとめます。

【16日保存修復に関してのチェックポイント】

- ①大引きがなく石で支えている + 土の位置が高いため掘り出す必要あり (写真1)
- ②幕や寄付札を剥がした結果、梁のたわみが露わになった (写真2)
- ③荷重を支えている主要な柱が腐っている + 鉄板がはめられ、応急処置がしてあるものの、それも腐食している (写真3・4)
- ④主要柱の腐り (写真5・6)
- ⑤トタンを剥がした結果、外部柱の腐食箇所への応急処置の痕跡が見られる (写真7)
- ⑥外壁の下見板張り？を剥がした結果、雨樋の水滴による腐食が見られた (写真8)
- ⑦石で支えられた根太や大引の腐り (写真9)
- ⑧木を重ねて根太を支えている (写真10)
- ⑨二階客席部分の張りが抜けそう + 応急処置の痕跡 (写真11)
- 10：新たに取り付けられた壁の処置方法 (写真12)

以上の10点などに関して伺うようです。

その診断の結果、

- ・腐食箇所は、全て取り替えるのか継ぎ足しをするのかなど、処置方法の確認を行います。
- ・新規に取り付けた壁(10)については剥がすと周囲へ被害が出るため、どう対処するか検討するようです。
- ・客席の高さについても以前のままであれば、土の高さも問題がないようですが、前回の改修時に客席を下げたため高さに問題があるよう。保存修復の観点から、床の高さを創建当時とするか今まで通りか検討。

また、床や幕、トタン等を剥がし現場を見る中で、多くの痕跡が見えてきました。

①の床高の変更、③の鉄板、⑤の石、⑧の木や石の支え、⑨の楔、10の壁

など、多くの修復がみられます。

地元の人が使い続けていく中で、腐食箇所のポイントポイントを直してきたことが伺えます。

今までも、常に「地元の方々が保存修復」を行ってきたと思えました。

2015年2月21日 遠藤

おはようございます。今から加子母に向かいます。

今日は加子母の大学を見学して、明日朝から明治座見学会、板へぎ体験、シンポジウムと取材して、月曜は工事の進捗状況、今後の見通しなど把握しながら取材を進めたいと思います。

今回は普段の佐野くんの撮影をバックアップできるように新たに機材を準備しましたので持っています。

2015年2月24日 遠藤

昨日夕方まで取材を行い、夜に東京に戻りました。短い滞在でしたが、おかげさまで実りの多い撮影ができました。特に佐野君のコーディネートが素晴らしく、予想外の展開もおきたので、面白い映像が撮れたと思います。今回のロケーションでは、2月22日(日)に明治座見学会および板へぎ体験とシンポジウムを撮影。

23日(月)午前には、中島工務店の現場監督奥村敏寿さんに床板をはがした現況の所感を伺い、撮影しました。その後、明治座の大道具を務めていらっしゃる安江利朗さんに現場にお越しいただき、これまで大工として手を加えてきた部分などをご案内していただき、撮影しました。同日午後には、板へぎを担当されている岩木誠さんの作業場にお邪魔して、作業の様子などを撮影しています。

特に安江利朗さんは大工として自らの手で繰り返し補修を行ってきたことから、補修箇所や従前の状態、使用状況などにも詳しく、大変興味深いお話をたくさん聞くことができました。

さて、今後ですが、

2月26日(木)から3日間程度 素屋根をかける作業

3月5日(木)から3日間程度 屋根瓦を下ろす作業

3月10日(火)から10日間程度 不陸調整(柱をジャッキアップして高低を修正する)

というように重要な作業工程が目白押しです。素屋根をかける作業は佐野君に任せたいと思います。自分は4日に前乗りして5日に屋根瓦を下ろす作業の撮影にあたりたいと思います。

とくに、屋根の葺き替えは今回の事業の目玉であり、明治座の今後の維持管理に関しても節目となる出来事だと思いますので「瓦屋根を辞める日」の様子はしっかり記録したいと考えています。ご協力のほど宜しくお願いします！

2015年2月28日 佐野

※みなさまへ

【①撮影日程の変更について】

【②3月7日(土)の瓦取り外しについて】

①先日、先生方には遠藤さんよりメールでお送りしましたが、3月5日に予定していた瓦取り外しの工事日程が変更しました。

0 素屋根 ……2月26日(木)～3月2日(月)完了予定

1 定例会議 ……3月6日(金) 13:30～

2 瓦取り外し ……3月7日(土)～10日

(※1:3月8日(日)は工事休み、※2:3月6日工務店写真撮影と調査の為部分取外し)

3 柱の不陸調整 ……3月10日頃～(7～10日間程度)

以上のようなスケジュールで進行する予定です。

②「瓦屋根を辞める日」の様子はしっかり記録したいと考えています。

そのため、地域住民や総合事務所の方、工事関係者などに声を掛けさせて頂き、現地見学が行えるよう調整しております。予定変更もあり申し訳ありませんが、都合のつく方には、《3月7日(土)》に明治座にお集まりいただきたく思っております。詳細の時間についてもまた、ご連絡させていただきます。みなさまご確認の上、ご協力よろしくお願い致します。

※また素屋根作業終了後は、シートで覆ってしまうため外部からの見学はできません。

足場を登っていただくため、一度に5～6人程度しか入ることができなそうなので、そちらもあわせて検討しております。

2015年3月5日 佐野

【瓦取り外し 撮影日時】

【日時:3月7日(土) 9時30分～ 明治座集合!!!】

この日は、「瓦屋根を辞める日」の撮影を行います。現在、外観は写真①のような様子でシートで覆われていますが、内部に入ってみると面白いアングルから明治座を見ることが出来ます。ぜひお集まりください!

今のところ、

明治座記録映像(藤岡先生・遠藤さん)

明治座保護会(安江トシロウさんや智夫さんなど)

明治座活用委員会(本間さん)

歌舞伎保存会(丹羽ていそうさん)

和田トミロウさん・細野ヒロシさん(40年前に実際に瓦をふいた方+元歌舞伎の大役者 黄金コンビ)などに声をかけています。誠さんや和之さん、秦さんは用事があり来ることができませんが、9日に見学して頂く予定です。

2015年3月12日 佐野

3月9日 誠さん現場見学

瓦下に隠れていた栗板を実際に確認することで、栗板の薄さや品質を実感していました。24日に板へぎの技術を学ぶ必要性が伺えました。

3月11日 河村さんに日程確認。瓦棧やルーフィングが取り外され、かつての状態があらわになりました。単純にかっこいいと感じます。

今後は、不陸調整の状況把握や板へぎ見学・技術研究などの撮影を中心に行っていきます。

2015年3月14日 伊藤

今日は京大の藤井先生による柱の腐食状況の調査。

機械で小さな穴を開けながら、内部の状態を判断しています。

2015年3月18日 佐野

3月16日 不陸調整

・嫌谷側の柱列から調整が始まっています。(写真1～3)

・控え室の柱は、宙に浮いた状態。(写真4)

・管理倉庫の床板からは、掘りごたつが出てきました。(写真5)

現場管理の河村さんに話を伺ったところ

不陸調整は、舞台袖 嫌谷側の太い柱を中心として、全体の調整を行っているようです。今のところ、ジャッキアップした後に木片を挟み、谷泊いの柱を順次調整しているようです。根継ぎなどについては、次回の定例会議(20日)など現場を見ていただいた後に判断し行っていくとのことでした。

2015年3月18日 佐野

3月18日 優良材生産クラブ見学+不陸調整

・優良材生産クラブが「誠さんの工房」と明治座の見学をしました(写真1)

今後、優良材生産クラブの方々も協力しながら栗板の生産を行っていくため、現状の様子を見ていただきました。

・不陸調整は外周部を周り、現在外周3面の調整ができていました(写真2・3)

《今後の日程》

①20日 定例会議で、根継ぎなどについて検討

②24日 飛騨へ板へぎ見学 優良材生産クラブ+誠さんたちなど

③28日 明治座見学会 木匠塾+歌舞伎保存会を中心に計画予定

2015年3月18日 佐野

3月14日 藤井先生による検査

検査によって、嫌谷側の柱は腐食が高く根継ぎの必要性があることが伺えました。一方で、他の柱はあまり痛みもなく、根継ぎをしなくても大丈夫ではないかとのことでした。

またこの日は、外部から「加子母の会」の方々や「木匠塾OB」など見学者も多く、多くの方が関わっていくことを実感します。やはり外部だけでなく地域の方に向けての見学会の必要性を強く感じます。最後に、明治座前の敷地に設置した試験小屋について、哲郎さんと藤井先生が打ち合わせをしました。

小屋は2つ用意しており、それを2分割して計4パターンを試験的に行うこととなりました。

①割った栗板

②引いた栗板

③割った栗板+銅板を挟む

④引いた栗板+銅板を挟む

この試験によって、実際に加子母の気候条件に合わせて、どのような屋根の施工方法がベストとなるか、栗板の耐久年数などがわかってくるようです。

2015年3月11日 伊藤

【板へぎ講習会の開催のご案内】

お世話になっております。屋根板の製作に困難を極めている状況ですが、鈴木先生のお力と高山市のご協力により、飛騨の里で板へぎを実演されていた山口末造さんに板へぎの実演をしていただけることになり、下記のとおり研修会を開催することになりました。

記

日時 平成27年3月24日(火) 9:00~

場所 高山市 飛騨民俗村飛騨の里(旧中藪家)

参加者 現在製作していただいている岩木誠さんらのチームと新たに協力していただく加子母優良材生産クラブの方々

2015年3月24日 佐野

【次回 明治座見学会について】

3月28日(土) 10:00~ 歌舞伎保存会の方々

13:00~ 加子母木匠塾2015年幹事会

参加者

上記の日程で見学者に呼びかけ、明治座の様子を見ていただきます。

2015年3月24日 佐野

【3月24日 板へぎ講習会】

午前中に飛騨の里へ板へぎ講習会の様子を遠藤さんと一緒に撮影しに行ってきました。

山口末造さんに実際に板へぎを見せて頂いたり、道具についてなども話を伺えたと思います。

参加者は約20名。(詳細は最後に記載してあります)

屋根を作っていく岩木工芸・優良材生産クラブや、屋根を葺いていく安江瓦などいろいろな方が参加し、今後「トントン葺き」を進めていく上でとても重要な機会だったと思います。

〈今後の方針〉

岩木工芸に加え、優良材生産クラブの方々も「トントン葺き」の板を製作していくことになりそうです。まずは、加子母総合事務所の車庫で講習会を行いながら、作業資金なども検討し加子母内での協力体制・組織作りを整えていくようです。

〈講習会〉

・日程 3月30・31日

・場所 加子母総合事務所車庫

参加者

- ・岩木工芸—岩木誠、林孝久、粥川勇夫
- ・優良材生産クラブ—桂川隆、田口幸之助、桂川寛、古田徹
- ・安江瓦—安江尚
- ・明治座保護会—熊沢和美
- ・熊沢博志
- ・中島工務店—奥村敏男
- ・記録映像—遠藤、佐野
- ・総合事務所—内木哲朗、伊藤、梅村琢

・岐阜森林文化アカデミー—久津輪 雅さん他4名

2015年3月30日 佐野

【3月28日 明治座見学会+明治座工事の進捗状況】

〈明治座見学会〉

10:00~ 歌舞伎保存会の方々

13:00~ 加子母木匠塾2015年幹事会参加者

上記のスケジュールで見学会を開催しました。

〈写真1~5〉

歌舞伎保存会の方には、明治座と岩木工芸の様子を実際に見ていただき、とても驚かれています。また、歌舞伎で一緒である誠さんが栗板を生産しているため、いろいろと話が弾み、とても良い機会になったと思います。明治座が無事完成した際には、歌舞伎保存会が《これら落とし公演》を行います。工事の様子も把握していただきながら、何かしらの形で歌舞伎保存会の方にも関わり、明治座の完成を迎えていけそうです。

〈写真6~11〉

木匠塾は、28日に幹事会が開催されるため、明治座の見学もしたいいただきました。合計で40人ほどいらっやっったと思います。現場も動きながらの様子を見てもらえたので、みんな興味津々に現場の方にもインタビューしていました。

〈明治座保存修復工事の進捗状況〉

根継ぎが始まっています。(映像でまだ抑えられていません。今後、他の柱が始まる時にしっかりと抑えようと思います。)

①舞台袖左側の太い柱と入り口側の柱2箇所の柱を切り欠き。

(写真7~8)

②切り欠いた柱。ひかりづけるようにノミで削ってあります。

(写真9)

③根継ぎする継手の加工をしています。(写真10)

2015年3月30日 佐野

【3月30日 板へぎ講習会+今後の日程】

本日、加子母総合事務所の駐車場で板へぎ講習会が開催されています。

24日の見学を踏まえての実践の講習会です。あちこちから、人が集まり実際に板を作成しています。ここでは、まずサワラの板を加工しています。加工の道具や技術などについて効率を上げるため、今後も子母総合事務所の駐車場が作業小屋となり作成していくようです。なんだか、地域の人がざわざわと集まってきて、大変な作業ではありますが盛り上がりそうです！

使用する道具についても、新たに作成したり古いものを掘り出したり、集まって知恵を出し合っています。さっそく道具(両刃のナタ)を掘り出しにマキドへいきました。(写真6、7)

マキドには大きい林家がいて、4軒まわったうち2軒から両刃のナタをお借りすることができました。今後も加子母総合事務所の駐車場で作業が行われますが、加子母のあちこちから道具や人、木材が集まってきます。

〈今後の日程〉

3月31日 山口末造さんが加子母へ来訪

明治座改修工事関連資料 ④映像記録制作部会の共有情報

明日、飛騨の里の山口末造さんが加子母に来られ、明治座を見学されます。また岩木工芸や加子母総合事務所の駐車場にもよっていただくよう計画しています。

2015年3月30日 佐野

【明治座工事実況 特設サイト】

<http://meijiza.jp/Repair/index.html>

秦雅文さんが作成してくださいました！ 今後は、明治座のサイトにも情報を掲載していきたいと思えます。内容も充実させ、正確な内容を伝えられるよう、記録映像と共に取り組んでいきます。

2015年4月3日 佐野

【4月3日 明治座定例会議】

①31日に予定していた末造さんの見学が4月1日に変更しました。

残念ながらちょうど名古屋に帰った時に来られ、間に合わず撮影することができませんでした。写真だけ掲載いたします。(写真1～6) 末造さんは明治座を見学し、とてもいきいきとされていたようです。今後も指導面で協力をさせていただきそうのことでした。

②本日は、定例会議が行われました。(写真7)

栗板加工や柱の根継ぎ、梁のたわみなどについて検討されました。

③板へぎは月～金の週5日、9:00～17:00まで総合事務所の車庫で行われています。一気に車庫から工房のようになっています。いろいろな人がボツボツと集まりながら制作しているようです。(写真8～10)

2015年4月10日 佐野

【4月4～10日 明治座内部状況】 ①根継ぎ、②漆喰

①根継ぎ

・根継ぎ完了後、焼印が押されています。(写真1)

【4月4～10日 樽板生産状況+周辺環境】

①岩木工芸、②加子母総合事務所 車庫

・4/10、明治座からの風景。桜が咲いています。(写真1)

①岩木工芸

・4/10、たけかわ企画の方も取材に来られました。広報をしてくださるようです。(写真2)

・栗板の加工は調子がかめてきたようです。(写真3)

②加子母総合事務所 車庫

・4/9は、僕も実際に作業させていただきました。工房のようになり、どんどん進んでいます。(写真4)

・4/10、サワラ板の幅をつめる機械も導入されました。(写真5)

・サワラ板を加工する桂川隆さんの、工房へいきました。(写真6)

・こちらでも、サワラ板をへぐ研究をされていたようです。(写真7)

【明治座保存修復工事 - 伝統や文化、技術の継承としての実験】

4月25日「無形文化遺産をめざす伝統構法と左官技術—その意義と課題」が名古屋工業大学で開催されます。僕は木匠塾幹事会があるために残念ながら参加できませんが、明治座で左官作業を

実際に見ながら勉強させて頂いています。また明治座工事に並行して〈伝統工法を無形文化遺産へ〉といった取り組みも進められる中で、本日職人さんたちと話し多くのことを感じました。

①現在明治座では、石場建ての根継ぎを行う大工、左官さんが保存修復中。

②地元の安江瓦さんが、葺き方をどうしようか研究中。

③岩木工芸、優良材生産クラブが板へぎ技術を研究しながら、生産中。

④板へぎ職人の山口末造さんが、明治座工事や技術の継承を行うため今後も協力をして下さる。

⑤竹釘で留める板葺職人さんもしらっしゃったが、亡くなられて技術が継承されなかった。

⑥現実問題として、仕事がなく職人さんが減っている。

以上のようなことから、「石場建て」「樽板葺」を残し、「山づくり」を考えていく明治座は、伝統や文化、技術を継承していく実験場と感じます。またその技術を生業として残していくためには、しっかりと価値をつけていく作業も大切です。やはり〈伝統工法を無形文化遺産〉に登録することで、価値が付き生業としても残っていくのだからと感じました。記録映像としても、明治座の工事だけでなく地域との繋がりや山づくりなどについてもしっかりと残し伝えて行けたらと思います。

2015年4月23日 佐野

板へぎの現状まとめ (かしも通信no.121 掲載)

<http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp/branch/kashimo/no121.pdf>

【4月17～22日 樽葺き+明治座進捗状況】

・〈4/17 こぶしの会総会〉明治座の見学をしていただきました。屋根に乗せる石などについて話題になってました。(写真1)

・〈4/22 安江瓦〉図面通りに屋根のモデルを作成してくださいました。(写真2-3)

・〈4/22 明治座〉下屋根と上屋根の間の束を根継ぎしています。また屋根の隅木も腐食が激しかったため加工中でした。(写真4-5)

2015年5月6日 佐野

【4月27日 100年の森づくりリレー】

岐阜県知事や中津川市長など、県市役所職員の方々も明治座を見学し、岩木工芸による板へぎの様子も見学されました。10月4日の全国育樹祭サテライトイベントにむけて準備が進んでいます。

2015年5月6日 佐野

【4月25日～5月1日 明治座工事進捗】

・5月1日には定例会議が行われました。8日には、麓先生が訪れ、現場の確認をしてくださるようです。

・現場では、根継ぎ工事がひと段落し、下屋根にはルーフィングを貼り、上屋根には垂木をかけています。以前のくれ葺きの姿を隠しつつあります。(写真1～3) 6月上旬には屋根を葺いていく工程が始まるようです。

明治座改修工事関連資料 ④映像記録制作部会の共有情報

・4月26日には木匠塾幹事に合わせ、板へぎ体験を行いました。

先月の幹事会での明治座見学を経て、板へぎを行い、少しでも加子母の取り組みを知ってもらえたらと思っています。(写真4～5)

2015年5月21日 佐野

【5月8日 麓先生調査】

麓先生が明治座に来られました。

今回の目的は、

- ・明治座の現状調査、診断
- ・現状の記録撮影
- ・創建時の資料の記録

などです。

創建当時の資料がこれだけ残っている農村舞台は、あまり例がなく貴重だそうです。

また、診断によって現場で大部分腐っていた柱や屋根の加工方法などについて決定しました。

【5月5日 下郷神社春祭り+明治座見学会】

5月4、5日と下郷神社春祭り(中桑原、下桑原、万賀 3区のお祭り)が開催されました。(写真1～2)それに併せ明治座の見学会も行い、近隣に住む方々に見てもらいました。(写真3～4)また〈樽板募金〉もはじめました。(写真5)

近隣住民の方々に、どのように関心をもってもらうか、実験的に行いました。結果は、それほど多くの方は来ませんでした。寄付活動などは無事行えていたと思います。藤岡研究室からは、僕を含め8名がお祭りに合わせ、明治座の見学をしました。今後、明治座周辺整備を研究室全体で取り組んで行く予定です。研究室でパネルなどの作成も行っていくながら、少しでも明治座に関心を持っていただけたらと思います。(写真6)

【5月20日 明治座状況】

・写真① 野地板が張り終わり、今は屋根の破風や鼻隠し等の加工をしています。

・写真②③ 大部分が腐食していた柱の根接ぎ。麓先生の診断より作業が進んでいます。

2015年6月4日 佐野

明治座工事のこともからめて、動画を作成しました。

岐阜県中津川市加子母の地域づくり youtube.com

【記録映像これまでのまとめと方針】

以前の資料ですが、遠藤さんが作成してくださった、「かしも明治座記録映像を「物語」として定着させるための覚え書き」を資料として添付いたします。

かしも明治座記録映像を「物語」として定着させるための覚え書き.docx

【記録映像これまでのまとめと方針②】

1: 明治座の工事、2: 板へぎ技術の伝承、3: 地域の取り組みの3軸で並行して進んでいる事柄をまとめました。

【明治座工事実況】

①インタビュー 5/27-6/3

・明治座のこれまで取り組みと今後について一熊澤和之さん、安江利朗さん(写真1、2)

・板へぎの進捗と技術の継承について一岩木誠さん、桂川隆さん(写真3、4)

やはり「明治座の今後の維持・管理」についてが地域住民にとってのテーマのようでした。

②板へぎ 5/27-6/2

・優良材生産クラブによるサワラの板へぎは、ほぼ目標に達成しひと段落しました。(全体の3割) 今後は、栗板も手伝っていくかもしれないようです。(写真5、6)

・岩木工芸の栗の板へぎも毎日作業を続けています。(写真7)

・飛騨の山口末造さん宅へ 岩木誠さん、安江マサオさん、内木哲郎さんと訪れました。(写真8、9) 末造さんの「全てを伝えたい」という思いが強く感じられ、マサオさんも誠さんも真剣な顔つきで今回プロジェクトの重要性を感じます。

③明治座 5/27-6/3

・ルーフィングが敷かれました(写真10)

・軒隠しも完成し、いよいよ屋根を葺く準備が整いました(写真11、12)

・小屋裏や大規模な腐食部分の根接ぎが引き続き行われています(写真13、14)

工事としては、6月8日ごろから「屋根を葺く作業」と「根太・大引などの床組を戻していく作業」へと移っていきます。

2015年6月7日 佐野

【くれ板葺き】

安江瓦さんが現場に入り、試行錯誤しながら作業が始まりました。まずは、下屋根 裏側の軒先から。大工さんたちも興味深々でした。現場もまた次の段階に移るに当たって、7日の夜から9日の昼までの間、遠藤さんが屋根葺きの様子を撮影しにこられます!

2015年6月8日 佐野

今日、明日と撮影中です。明日は、飛騨から山口さんも明治座見学に来られるようです。

2015年6月26日 佐野

【明治座工事実況】

①6/9 山口末造さん指導

・山口さんが明治座に来られ、7日から始まった屋根葺きの指導にられました。(写真①)

・現状の葺き方に対して指摘を受け、後日(12日)どのように葺いていくか協議されました。(写真②) また7月前半あたりにも、山口さんが指導に来られるようです。

②6/12～23 屋根葺きの現状について

・裏手と田んぼ側を葺いている途中です。この2面が済み、残りの面からは瓦葺のような木枠をルーフィングの上に組み、その上にくれ板を葺いていくようです。(写真③、④)

③6/12～23 その他工事

・染屋、入り口付近の耐力壁工事(写真⑤)

・大引、根太の復旧工事(写真⑥)

・左官工事 (写真7)

2015年6月27日 佐野

【明治座工事实況】6/27

- ①上屋根の小舞取り付けが始まりました。(写真1~2)
- ②床板復旧。裏手 楽屋あたりから一枚一枚床板をもとに戻しています。(写真3)
- ③奈落の不陸調整(写真4) 管理人室や楽屋等の周辺部から床板が戻され、壁の漆喰仕上げも施され、徐々にもとの姿に戻りつつあります。

2015年7月10日 佐野

【明治座工事实況】6/28~7/8

〈日程〉

- ・6/28 明治座見学会
- ・6/30 山口さん明治座来訪・指導
- ・7/7 優良材生産クラブ 板へぎ作業終了

〈作業状況〉

- ①明治座見学会(写真1~2)
中津川市周辺の方々、約50名近くが見学に来られました。
- ②屋根葺き作業(写真3~6)
下屋根の2面が葺きたい葺き終わり、上屋根の作業に移りました。末造さんの見学時には、1尺5寸の葺き方を理解していただけようです。
- ③床組み復旧作業(写真7~10)
・楽屋の床板が戻されました。
・また、奈落のレベル調整や花道の復旧が進んでいます。

2015年7月11日 佐野

かしも通信 7月号に、トントン葺きについてのインタビュー記事を掲載させていただきました。

2015年7月19日 佐野

【石の寄せ書き+明治座】7/14~15

- ・7/14 加子母中学校の全生徒81名の寄せ書きが行われました。
- 各学年ごと、明治座の説明を聞いた上で各々のメッセージを書いています。にぎやかに楽しい雰囲気でした。
- ・明治座は、床組の加工や柱・梁の接合金物が取り付けられました。

【明治座+歌舞伎等の今後の日程】7/17

- ・床組みの修復が終わり、床板も取り付けられました。
- ・上屋根も栗の板によって葺かれています。
- 〈明治座見学会〉
- ・8月2日10:00~12:00
- ・8月16日10:00~12:00
- 〈地歌舞伎〉
- ・練習始め 8月6日

2015年8月11日 佐野

8/5~7

歌舞伎の練習が始まり、その様子を畠山さんに撮影をしていただきました。明治座は、屋根も出来上がってきて、石置き施工部分の検討を行っていました。8月後半から9月頭にかけて、屋根も葺き終わる予定だそうです。

歌舞伎の練習開始とともに、工事も終盤に差し掛かり、場面の大きな転換部分となりました。

歌舞伎の先生や大工さん、板へぎ職人さん、役所の方、設計者、また明治座に関わりの深い地域の方などなど、インタビューも重ねながら、もう一度明治座について考えていきたいと思っています。

2015年9月2日 佐野

9/2 素屋根が外され、現在棟の材をクレーンであげているところです。

8/25~27日にかけて、遠藤さんと足場ありの状態での最後の撮影を行っていただきました。8/29日には、木匠塾の学生に手伝ってもらいながら、押え棧、置き石を一気におきました。9/1~クレーンによる素屋根の解体をおこない、屋根の完成も目前です。内部も養生が外されました。

2015年9月9日 川端

これ応募しませんか? 樽葺きの復活と木による耐震補強、インパクトは十分だと思いますが、それにしても審査員が凄い。ウッドデザイン賞 | JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2015
ウッドデザイン賞は、木の良さや価値を再発見させる製品や取組について特に優れたものを消費者目線で評価し表彰する新しい顕彰制度です。

2015年10月8日 遠藤

みなさま

グループへの投稿にしばらく間があいてしまいました。過日、明治座の改修工事落成記念フォーラムに出席し、この間佐野君と協力して撮りためた映像(のほんの一部ですが)をご覧にいたしました。多少は加子母に成果を還元できていればと願っています。ご協力いただいた皆様に感謝いたします。さて、改修工事はめでたく完了しましたが、記録映像のほうはまだ撮影が続きま。やはり改修なった明治座がこんどはどのように活用されるのかまでを追わないと終われないと感じています。ひとまず11月末の歌舞伎公演までをメドに撮影を続ける予定です。工事の推移だけではなく、器として明治座の多様な側面にも注目していければと考えています。

さて、フォーラムで上映した映像をyoutubeで「限定公開」していますので、こちらでアップします。僕の生ナレーションをつける前提で作っていますので、「？」な感じもするかもしれませんが、ご了承ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=iNK9Afa6cAM>

なお、正式な記録映像は来年6月に完成予定です。ここでアップしている映像は途中経過報告版(ラッシュ)ですので、ここだけで閲覧して、他にシェアなどはしないようにお願いします。

2015年10月14日 佐野

【完成写真+動画】

明治座改修工事関連資料 ④映像記録制作部会の共有情報

昨日、明治座完成記念ということで、早川写真館さんのご好意で、空撮していただきました。

また、データは遠藤さんに送らせていただきます。早川さん、ありがとうございました。

2015年11月17日 佐野

11月17-18日と遠藤さんにお越しいただき、歌舞伎稽古や完成後の撮影を行います。また、歌舞伎本番に向けては24-30日と撮影していただきます。本日は早川写真館さんによる空撮を行い、みんなで様子を見守っています。

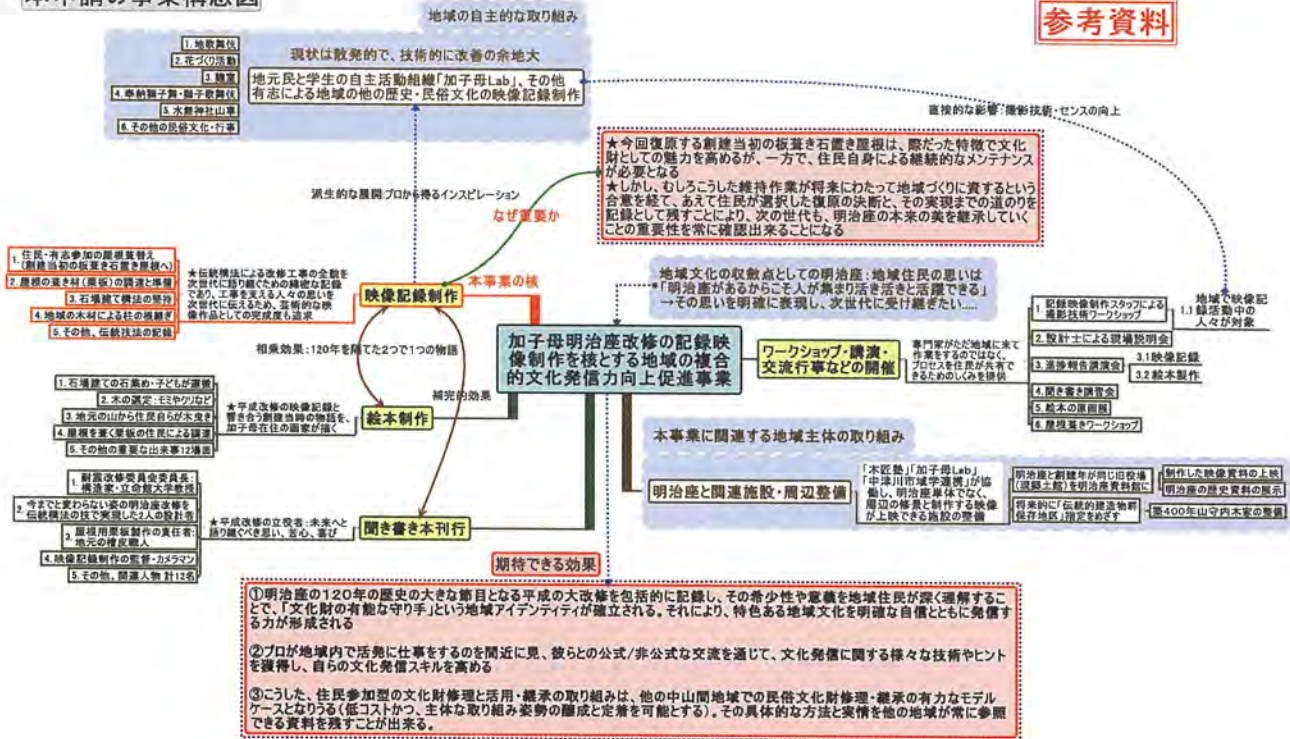
2015年11月25日 佐野

11/24-30にかけ、明治座改修工事関係者へのインタビューと、歌舞伎本番に向けての動きを記録しています。

2015年12月4日 佐野

12月4日 冬の实景 明治座の屋根に雪が積もり始める様子を撮影しました。

本申請の事業構想図



平成27年6月4日

岐阜県地域活性化ファンド事業費 助成金交付申請書

- 1 具体的事業名
「かしも明治座」を核とする山村文化を活かした観光づくり事業
- 2 助成対象の事業区分
飛騨美濃じまん育成支援事業 【「岐阜の宝もの」に該当】
- 3 助成事業実施期間 平成27年8月1日 ～ 平成28年7月31日

申請者所在地 〒508-0421 中津川市加子母 3519-2
団 体 名 加子母風越し実行委員会

申請者の概要

事業者等の名称	加子母風起こし実行委員会					
ホームページアドレス	http://meijiza.jp/index.html					
所在地	岐阜県中津川市加子母 3519-2 加子母総合事務所内					
代表者名	会長 中島 敏明（加子母歌舞伎保存会会長）					
設立（予定）年月日	平成9年4月1日					
資本金又は出資金	千円					
一社の大企業又はその役員からの50%以上の出資の有無	無					
従業員数（会員数）	役員	従業員（人）				左記のうち正社員
		事務系	営業系	技術系	合計	
	11				0	
主たる業種	地域振興団体					
主な事業内容（主な取扱製品又はサービス内容）	文化による地域づくりのためのさまざまな活動を通して、地域の芸術文化の向上、コミュニティーの醸成、交流の促進、全国への情報発信をはかり、地域の活性化・振興（地場産業の振興を含む）					
決算状況（直近2期分）	区分	直前期	年	月期	年	月期
	売上高			千円		3,548千円
	経常利益			千円		千円
	当期利益			千円		千円
経営上の強み（技術・経営ノウハウ等に関する自己アピール）	明治27年に地域の有志によって建設された明治座は、「加子母の農村舞台（明治座）」として岐阜県指定重要有形民俗文化財に指定されている。毎年、地元役者による加子母歌舞伎公演が開催され、大歌舞伎では見られなくなった演目や、特有の振り付けの継承に取り組んでいる。平成22年には、『東濃の地歌舞伎と芝居小屋』として岐阜の宝ものに認定され、馬籠・妻籠宿と下呂温泉を結ぶ中間点に位置していることから、情緒あふれる美濃と飛騨を結ぶ観光拠点としての魅力向上が期待されている。					
経営環境及び現在の課題	明治座の構造は、2階建ての本格的な舞台で、回り舞台、花道、すっぽん、奈落を備えており、当時は盛んに歌舞伎や芝居が演じられていた。第二次大戦中は公演が途絶え、軍事物資の保管庫になった歴史もあったが、昭和47年に、岐阜県重要有形民俗文化財に指定されたことをきっかけに、加子母歌舞伎が復活し以後毎年秋には公演会が開催されている。 平成に入ってから、クラシックコンサートをはじめ、第十八代中村勘三郎さんの襲名披露公演など、様々な催しが行われている。他にも毎年行われる歌舞伎公演になると、武蔵野美術大学					

	<p>空間演出デザイン学科の学生・OBが、地元の人たちといっしょになって大道具や小道具、照明など舞台演出を行うなど、地域と学生たちの交流を通じて伝統的な文化の継承が行われている。</p> <p>また、平成14年からは、一般の観光客が見学できるように通年開館を開始し、併せて「明治座維持修復基金」を設立し、大切な財産として維持保存を図っていく活動が始まった。寄付は1口300円で、協力者には木札に名前を書いてもらい、明治座の壁に掛けてもらっており、これまでに約2,000万円もの寄付金が寄せられた。</p> <p>この基金を基に、現在9月末の完成をめざし創建当時の姿に復元する保存改修工事が進められている。完成の暁には、全国に例のない板葺石置き屋根の芝居小屋として注目を集め、大きな集客が期待される。明治座の歴史や地歌舞伎の魅力を伝える新たなコンテンツと、明治座を活用した創造的なイベントを企画しながら、岐阜の宝ものとしてPRしていくことが地域活性化のテーマのひとつとなっている。</p>
<p>連絡先</p> <p>担当者役職・氏名</p> <p>担当者所属部署名</p> <p>電話番号</p> <p>FAX番号</p> <p>E-mailアドレス</p>	<p>所長補佐 伊藤満広</p> <p>中津川市加子母総合事務所</p> <p>0573-79-2111 (内線3310)</p> <p>0573-79-2700</p> <p>kashimo-office@city.nakatsugawa.lg.jp</p>

事業計画書（1年目）

- 1 具体的な事業名
「かしも明治座」を核とする山村文化を活かした観光づくり事業
- 2 助成事業の区分
飛騨美濃じまん育成支援事業

3 事業実施の目的・必要性

◇岐阜の宝もの「東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋」

岐阜の宝もの「東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋」の構成要素である「かしも明治座」および「加子母歌舞伎」は、中津川市加子母に120年以上伝えられる貴重な文化遺産である。かつて東濃地方だけでも70棟あったという農村舞台が近代化の波に洗われて次々と姿を消すなか、先人のたゆまぬ努力によって奇跡的に守られてきた歴史がある。



加子母の農村舞台（明治座）



加子母歌舞伎

現在「かしも明治座」は、明治27年の創建当時の板葺き石置き屋根へと戻すとともに、伝統的な建築技術を最大限に活用した耐震補強を行う改修工事を実施している。

これにより、大勢の観客が安全かつ豊かな歴史的景観の中で、地歌舞伎を鑑賞することが可能となり、地域の顔として、重要な観光資源としてより重要な存在になることが期待されている。

本事業により、「岐阜の宝もの」であるこの「東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋」を山村文化の発信拠点として位置づけ、創造的なイベントを企画しながら地域振興へとつなげていく必要がある。



昭和48年の瓦への葺き替えの様子

4 事業の具体的内容

(1) 情報発信のためのビジュアルコンテンツの製作

明治座を地歌舞伎の歴史的価値や魅力を高めるための視覚材料の製作を委託し、明治座来場者に向けて「東濃の地歌舞伎と芝居小屋」の情報発信を行う。

①PR映像の製作（観光PR用5分版／明治座館内上映用15分版の作成

※外国人観光客に対応した各国語の字幕入り映像も検討

②記録映像の製作（教育普及用30分版の作成）

失われつつある伝統技術、伝統文化の伝承への普及啓発に用いる

③関連事業への映像提供

10月に予定されている全国育樹祭サテライト行事での上映やインターネットでの報告配信

④11月に予定されている「加子母歌舞伎こけら落とし公演」の収録と発信

⑤映像の配信・展示上映（明治座館内での展示上映／インターネット無料配信）

⑥観光プロモーション等での上映

(2) 年間を通じた集客性の向上と新たな活用を生み出すイベントの企画

①明治座トリエンナーレの開催

毎年開催の明治座クラシックコンサートに併せて、3年に一度、山村の自然等の地域資源と、美術、舞台芸術、デザイン、音楽、写真など様々な芸術とのコラボレーションによる美術展覧会を開催する。

開催日程：平成28年6月頃

場 所：明治座及び周辺施設

②地歌舞伎体験型メニューの構築

岐阜県内の芝居小屋の中で、明治座は唯一年間を通じて開館しているが、来場者は見学のみで終始してしまうため、地歌舞伎文化に直に触れられる体験型メニューを提供する。語りべなどの人材育成も行い、新たな地歌舞伎ファンの掘り起しを図る。

- ・歌舞伎の作法や隈取や衣装を身に着けた地歌舞伎体験メニュー
- ・明治座の板葺屋根を維持していくための板へぎ体験メニュー等
- ・明治座と地歌舞伎の語りべの養成

(3) 観光プロモーションの強化

2027年のリニア新幹線開通により、首都圏からのアクセスが向上することを見据えて、岐阜県駅となる中津川を拠点とした観光客の誘致に向けたキャンペーンを行う。

- ・旅行会社へのプロモーション
- ・観光フェアへの出展
- ・インターネット等を通じた情報発信の強化

5 事業の補足説明

(1) 事業の新規性、革新性

◇東濃の地歌舞伎文化をさらに深く味わうためのストーリーの発掘と提供

かつて東濃地方だけでも 70 棟あった芝居小屋は、現在わずか数棟を残すあまり。現在これらの芝居小屋は、「岐阜の宝もの」に認定され、観光資源としての運用が図られているが、本事業はそれをさらに推進するために、芝居小屋・地歌舞伎のストーリーを深く発掘し、価値を高め、発信していく試みとなる。

◇次の百年へとつなげるために

一方、明治座のような大型木造建築をこれからも維持管理していくためには、今後またゆまめメンテナンスが必要となる。木造のため湿気や虫害による柱の腐朽は避けることができない。また、自重によるゆがみや構造材の摩耗・食い込みが時間の経過とともに発生する可能性がある。特に今回の「平成の大改修工事」の目玉となる板葺き石置き屋根の復活は、数年に一度のメンテナンス、30 年に一度程度の大規模改修を必要とするもので、維持管理のためにさらなる手間と資金を確保していくことが必要となる。

この「かしも明治座」を確実に次の百年へとつなげていくためには、貴重な木造芝居小屋とそこで培われた「加子母歌舞伎」の歴史的・文化的価値を内外に広く共有し、みんなで支えていくための仕組みづくりが急務となっている。



岐阜県最後の板へぎ職人・山口末蔵氏より技術を伝授

◇伝統の継承と新たな文化の創造

このため「かしも明治座」および「加子母歌舞伎」の文化遺産的価値と観光資源的魅力を定着させ、内外へ発信する基盤的な情報整備の一環として、ビジュアルコンテンツの製作と発信を行う。

おもに外来の観光客へむけて製作・発信する〈PR 映像〉は、東濃特有の地歌舞伎文化に親しみ、豊かな歴史的景観を持つ芝居小屋へと足を向けてもらうようにいざなうことで、観光資源としての「かしも明治座」と「加子母歌舞伎」の一層の活性化を図るものである。

また、教育普及映像は「平成の大改修工事」の過程で明らかになった先人の足跡や努力の痕跡を伝えるとともに、改修工事の困難さや意義を共有し、次の百年を支える人材の涵養を図るために用いる。これらは明治座での常時館内放映やインターネットでの無料配信等を行う。

さらに地歌舞伎体験メニューの企画を行いながら、「かしも明治座」および「加子母歌舞伎」の文化遺産的価値に直接接触れる機会を増やすことで、長期的なファンや支援者の増加に努める。

また、「明治座トリエンナーレ」をきっかけとして、芝居小屋を活かした創作活動を高め、文化芸術観光の目玉として育て上げていく。将来的には他の芝居小屋とも連携した一大イベントとして開催することにより、「岐阜の宝もの」としてより大きな波及効果を生

み出すことを見込んでいる。

- (2) 助成事業に関する商品・技術・サービスの特徴や優位点（競合する商品等との相違点等）

明治座は、岐阜県内の芝居小屋の中で、唯一年間を通じて開館している施設であり、回り舞台、花道、すっぽん、奈落などの昔ながらの舞台設備が現役で使用されている様子を見ることができる。楽屋には十八代目中村勘三郎丈の襲名披露公演の際に記念に残した落書きや、120年間の間に役者たちが残した多くの落書きが残されており、大きな見どころとなっている。

◇歴史の玉手箱を開ける「平成の大改修」

現在行われている「平成の大改修工事」では、工事に伴う建物調査の実施により、これまで知られていなかった歴史的・建築史的価値が次々と掘り起こされている。床下からは、繰り返し手を入れて建物を維持してきた痕跡が多数見つかリ、先人たちの苦労と努力が偲ばれる。また、瓦の下からは創建当時のものと思われる板葺き屋根の遺構が見つかリ、建築史的にみても大変貴重な財産といえる。これらの発見は工事完了後には再び人目につかなくなるが、映像に記録してひろく公に共有することで、文化遺産的価値を飛躍的に高めることができると考える。

◇伝統構法の最新の研究・技術成果による工事

また、今回は伝統構法の最新の研究・技術成果を活用した先進的な取り組みが行われている。従来の構法では、大規模の木造建造物を補強するために、それまでになかった鉄骨を組み入れるなど、景観を大きく損なう工事が行われてきたが、「かしも明治座」ではそのような工事を一切することなく、伝統構法により十分な耐震強度を確保した。これまで親しんできた景観を維持したまま、観客が安心して地歌舞伎の鑑賞をすることが出来るようになった。この成果を木造文化財の保存活用の先進的な取り組みとしてPRすることができるのも、大きな優位点である。



(3) 顧客・販路開拓方法

【顧客】 団体旅行 旅行会社とタイアップし、シニア世代を対象に下呂温泉や馬籠・妻籠宿などを組み合わせたパッケージツアーの商品造成を働きかけながら顧客獲得を図る。下呂市との連携も図る。

個人旅行 中津川市内の5つの道の駅や下呂温泉旅館等とタイアップしながら、
若者グループやファミリー層を対象にした体験型メニューを造成し顧客獲得を図る。

【販路開拓】 ・旅行会社とのタイアップによる集客
・都市部での観光キャンペーンでのPR
・ホームページ、Facebook等のSNSを活用した情報発信

6 成果目標

【明治座来場者数の増加】

現状：年間 1.5万人 → 目標：年間 10.0万人
(参考 馬籠宿：54.3万人 下呂温泉：115.9万人)

(H25 岐阜県観光入込客統計調査)

【中津川市全体の観光客数の増加】

現状：年間 244.7万人 → 目標：年間 400万人

(H25 中津川市統計書)

【明治座の自立的な運営基盤の構築】

現在は、市の予算により開館事業を行っているが、集客性を向上させることにより観光拠点として自立的な経営体制を構築する。

7 地域活性化への貢献、波及効果

加子母地域は、「東濃桧」の産地として、良材と伝統的な匠の技を活かした「産直住宅」の振興を中心に地場産業の活性化に取り組んできた。今回の明治座の伝統構法による耐震補強や、板へぎ、板葺き等の伝統技術の継承への取り組みは、地域の地場産業活用のイメージに対しても大きなインパクトを与えることになり、木造住宅関連産業への波及効果が高まることが期待できる。

また、近隣の下呂温泉や馬籠宿等の観光エリアとの連携を深め、明治座や地歌舞伎を取り入れた着地型観光メニュー等を確立させることにより集客性を高めることにより、地元の木工品や農産物、加工品などを活かした土産物の販売促進を図ることができる。また今回製作する映像やイベントを通じて、「岐阜の宝もの」に認定されている「東濃の地歌舞伎と芝居小屋」の背景を次世代に伝え、共感を高めていくことによって、地歌舞伎の後継者の育成や明治座の持続的な維持保存活動の機運を高めていくことにつながる。

8 事業の実施体制

(1) 情報発信のためのビジュアルコンテンツの製作

責任者 明治座活用委員会 長 熊澤和美 (加子母風起こし実行委員会副会長)
 従事する会員 明治座活用委員会及び明治座保護会会員 15名
 外部協力者 委託先: (株)ヴィジュアルフォークロア 遠藤 協

(2) 年間を通じた集客性の向上と新たな活用を生み出すイベントの企画

責任者 加子母歌舞伎保存会長 中島敏明 (加子母風起こし実行委員会会長)
 従事する会員 加子母歌舞伎保存会 会員 20名
 外部協力者 地歌舞伎振付師 松本団女

(3) 観光プロモーションの強化

責任者 中津川市加子母総合事務所 長 内木哲朗 (加子母風起こし実行委員会副会長)
 従事する職員 中津川市加子母総合事務所 所長補佐 伊藤満広 他2名

その他の協力団体

構成団体	主な役割
加子母歌舞伎保存会	地歌舞伎の伝承・普及活動、後継者の育成
加子母文化協会	地域の伝統芸能の継承・普及活動、後継者の育成
明治座保護会	明治座の維持、語り部の養成
明治座活用委員会	新たな観光資源としてのメニューの掘り起し
中津川北商工会加子母支部	観光産業の振興
かしも通信社	イベント情報等の発信
中津川市	官民一体となった地域活性化の推進

9 外部への委託

委託先 (株)ヴィジュアルフォークロア

委託内容 情報発信のためのビジュアルコンテンツの製作業務
 (PR用映像・教育普及用映像の撮影、構成、編集作業一式)

委託金額 3,942千円

委託理由 今回製作を委託するビジュアルコンテンツは、民俗文化財である芝居小屋と地歌舞伎を中心とした内容であり、撮影にあたっては民俗学的な知識を有し、なおかつオトリティの高い構成と映像編集技術が求められるため、実績のある業者に委託したい。

10 他の補助金の交付実績(過去2年以内)及び当該年度の助成金の申請状況(予定を含む)
 該当なし

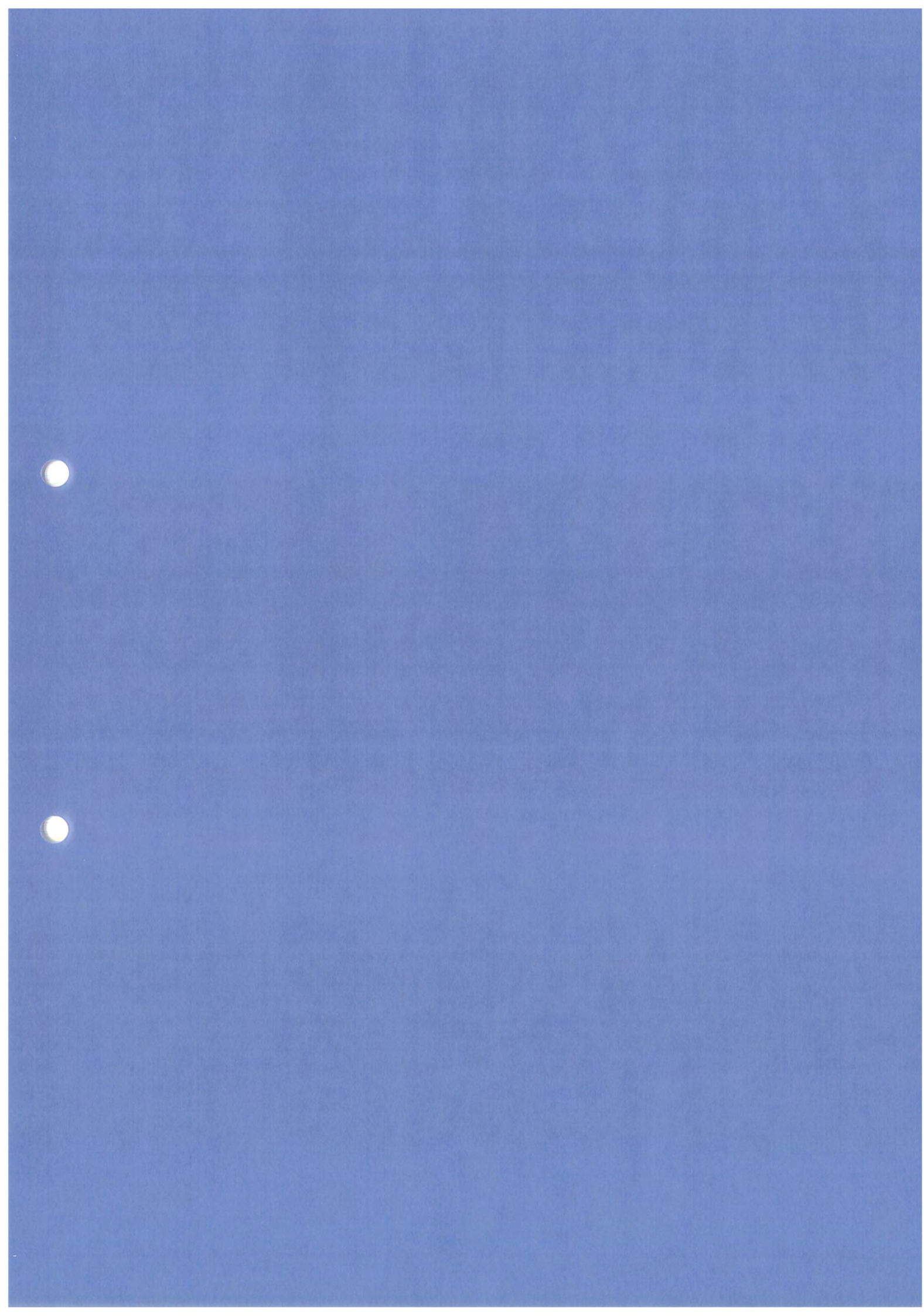
11 経営革新計画の概要

該当なし

12 申請事業スケジュール

項目	ビジュアルコンテンツの製作	イベントの企画・実施	PR (旅行商品の企画)	
27年8月	改修工事の収録 ↓			
27年9月			団体向け 旅行商品商談 ↓	
27年10月	短編映像公開 歌舞伎稽古収録	明治座完成記念イベント(全国育樹祭関連行事)		
27年11月	歌舞伎公演収録 歌舞伎公演収録	加子母歌舞伎公演	個人向け モニターツアー	
27年12月		企画検討会議 ↓		
28年1月		出展者募集 ↓		
28年2月				
28年3月	映像編集 ↓			
28年4月			団体向け 旅行商品商談 ↓	
28年5月				
28年6月	明治座トリエンナーレでの映像公開	明治座トリエンナーレ(クラシックコンサート他)	個人向け モニターツアー	
28年7月				

※主な取り組みのスケジュールを記入すること



付録資料Ⅱ 明治座改修工事関連資料

- ①明治座年表
- ②改修工事概要
- ③議事録
- ④工程表
- ⑤図面

明治座耐震改修事業概要

● 経緯

- ・平成25年11月7日 第1回明治座改修検討委員会（名古屋工業大学）
- ・平成26年2月15日 第2回明治座改修検討委員会（立命館大学）
- ・平成26年2月28日 地元関係者による第1回明治座改修検討会議（加子母総合事務所）
- ・平成26年5月16日 地元関係者による第2回明治座改修検討会議（加子母総合事務所）
- ・平成26年6月5日 第1回明治座耐震改修検討委員会（加子母総合事務所）
- ・平成26年8月22日 第2回明治座耐震改修検討委員会（加子母総合事務所）
- ・平成26年10月2日 第3回明治座耐震改修検討委員会（加子母総合事務所）
- ・平成26年11月13日指名競争入札により中島工務店が落札
- ・工事名「建工第36号 加子母明治座保存修理工事」
- ・工期は平成26年11月19日から平成27年9月30日まで

● 工事内容

屋根の改修（788㎡）

- 1：上屋改修（444.47㎡） セメント瓦、瓦棧、流し垂木撤去。垂木、野地板、ゴムアスファルトルーフィングによる下葺き。板葺きを玉石で押える。クリ板葺き（手割り、450×6mm）
- 2：下屋改修（356.84㎡） セメント瓦、瓦棧、ルーフィング撤去。野地板、ゴムアスファルトルーフィングによる下葺き。板葺きを玉石で押える。サワラ板葺き
- 3：庇を板葺きにて葺替える
- 4：屋根たわみ補修：垂木取付部の調整。桁のたわみは垂木で調整。

柱の補強

- 5：添柱補強 柱を添え柱にて補強する。
- 6：柱頭補強 柱の柱頭を金具で補強する。
- 7：階客席の荷重が大きい柱（3本）を添え柱により補強し、柱頭部を金物で補強

沈下修正

- 8：柱沈下修正 大きく沈下した柱により建物全体が前傾。基礎石の修正は行わず、柱脚に防腐処理した柱と同材を挿入（55箇所）

柱根継ぎ

- 9：柱脚腐食部補修 著しく腐食した柱の根継ぎによる補修（23箇所）

壁補修

- 10：外壁改修 土壁が落ちている所があるので修繕 全壁の20%を補修（ほぼ外周全周の補修）

その他

- 11：込栓復旧 込栓が抜けて取れている箇所の復旧
- 12：鼻栓復旧 抜けて取れている箇所の復旧
- 13：ほぞの復元 すでにきられているほぞの復元
- 14：便所棟切り離し 建築基準法違反になっている為、切り離し工事
- 15：天井吊直し 天井裏の吊直し修繕
- 16：防腐防蟻処理 湿気の多いY1～Y3通りに処理

耐震補強

- 17：耐震補強工事 耐震性能を確保するための補強

(板壁補強、地長押による補強、屋根の軽量化。水平構面(屋根面、下屋屋根面、2階床)の補強)

小屋組の補修

- 18：横架材抜け補修 建物全体が前に傾いていることで抜けかけている為、補修
 - ・ 和小屋及びトラスの補修及び補強
 - ・ 小屋のたわみによる束の倒れの解消
 - ・ 屋組自体の補強(必要な場合)
 - ・ 棟、母屋、梁、桁のたわみ、下がり解消

〈屋根仕上げ仕様に関する検討資料〉

板葺き石置屋根のメリット

【意匠面】

- ・ 竣工当時の姿に復元されるため、地域の歴史・文化を象徴する存在として価値が高まる。
- ・ 周囲に広がる田や背後の山容とも相まって、日本の原風景的な佇まいが強まり、景観的にも強いインパクトが生まれる。さらに、維持のために人の手が常に入ることによって手入れの美も生まれる。
- ・ 消滅しつつある日本の伝統的な建築の姿の現存例を後世に残すことができる。それにより、県の重要有形民俗文化財以上の文化的価値を将来的に認められる可能性が高まる。

【維持管理面】

- ・ 部分的補修が可能。将来、大規模な修理を行う際に材料の再利用が可能。

【資金面】

- ・ 木材利用に特化した補助金を使えるため、自由度が高い自前の資金が温存できる。

【構造面】

- ・ 軽量のため、脆弱性も指摘されている特定の柱もそのまま利用できる可能性が高まる。

【文化面】

- ・ 将来にわたって維持管理を続けねばならないという覚悟を持つことが、却って建物の価値や木材活用の意識を高める。
- ・ 今後の継続的な維持に備えて、へぎ板や必要な道具など将来にわたって確保する必要があるが、地域内にはこの技能と知識を持つ葺き職人や木質屋根材を作れる人材が存在している。彼らの持つ伝統技能を活かすことで次世代への技能継承が図れる。
- ・ 農村舞台と担い手の歌舞伎保存会が揃って健全に継承されている例は全国的に見ても稀である上、農村舞台としての本来の姿が復元されれば、その両方がより本来的な形でそろうことになり、加子母明治座と加子母歌舞伎の民族的価値が一層高まる。

【教育面】

- ・ 遠い将来に利用することを想定した栗の植樹、へぎ板づくりのワークショップや石の置き換え作業などのイベント化を通じて地域内外の多くの人々が直に関われるシステムを構築することで伝統的なものづくり教育や環境教育上の効果も期待できる。
- ・ 加子母の伝統的な植林理念に、針葉樹を一本植えるときは広葉樹の栗も一緒に植えるという考え方があがるが、事例を通じて次世代に伝えることが可能になる。地域の伝統的な自然管理への理解と誇りが深まる。

【地域づくり面】

- ・ 子供から大人までが、明治座の将来的維持のための様々なものづくり活動や伝承活動に自主的に関わり続けることで地域とその文化の愛着と理解がさらに深まる。こうして地域住民が明治

座と密に関わるのは、建設当時の下本郷の人々が自ら木材を曳き、石を運び、各戸で作った栗板を娘さんたちが背負って現場へ運んだという歴史とも重なり、「娘引き幕」とともに、地域の歴史を語り継ぐことになり得る。誇りの強化と地域の永続的な定着促進に貢献。

- ・ 共同作業の伝統的制度「結」を取り入れることで地域内での相互扶助が促進される。
- ・ 建物自体の稀少性と、その背後にある物語性（「先人の知恵で山を守り育てつつ、その恵みを活かして日本建築の伝統美と民族文化を生き活きと守り続ける地域」という人の心に響く物語性）によって、観光資源あるいは歴史文化資源としての価値がさらに高まり地域外からの注目度関心が高まる。 訪問者・滞在者の増加

板葺き石置屋根のデメリット

【維持管理面】

- ・ 1年に一度の石の置き換えや3年に一度程度の板の上下返しと裏返しなど維持管理に人手がかかる。
- ・ 耐久性が低く、維持管理の負担を次世代に残してしまうのではないかと不安。
- ・ 持続的な修繕に備えて、へぎ板など今日では調達容易ではない材料の確保が必要。

板金屋根のメリット

【構造面】

- ・ 軽量のため、貧弱性を指摘されている特定の柱もそのまま利用できる可能性が高まる。

板金屋根のデメリット

【意匠面】

- ・ 現在の外観からの変化が大きい。
- ・ 本来の板葺き石置屋根でもなく、文化財指定時のセメント瓦でもないため、「歴史的参照点」が存在しない恣意的な修理になりかねない（使用する金属、詳細な仕様については麓先生の検討が必要）

【維持管理面】

- ・ 修理が必要となった場合、部分的な修理ができない。一旦剥がしたら再利用もできない。

【資金面】

- ・ 木材利用に特化した補助金を使うことができないため、自由度が高い自前の資金を利用せざるを得ない。

明治座耐震改修工事 議事録

2014年10月2日 第3回検討委員会

①経過報告

- ・ [鈴木] 10月工事発注に向けて委員会で取りまとめたい。

②改修案について

- ・ [川端] 今回の大きな改修場所は、7上屋葺替え、11屋根たわみ補修、13建物の沈下の修正、18耐震補強工事
- ・ [熊澤] 観客からの視野確保や機能、利便性、安全面から考えて、はしご型フレームを使用しない補強をお願いしたい。
- ・ [鈴木] 積雪時の地震を想定すると、改修工事に明治座の使用について見直す必要がある。地元要望をしっかりと受け止めて考慮し、はしご型フレームを使用しない補強で再度耐震設計を行う。
- ・ [川端] 積雪時の長期荷重で折れてしまう可能性がある為、添え柱を行い、座屈補強を行う。モミの梁にめり込んでいる為、鉄板にて補強する。現時点で補強箇所であり、耐震の強度とはならない。

改修内容 1外壁改修：土壁が落ちている所があるので修繕 全壁の20%を補修、2添柱補強：柱を添え柱にて補強する。3柱頭補強：柱の柱頭を金具で補強する。4込栓復旧：込栓が抜けて取れている箇所の復旧。5鼻栓復旧：抜けて取れている箇所の復旧。6ほぞの復元：すでにきられているほぞの復元を行う。9、10庇を板葺きにて葺替える。11屋根たわみ補修：波状に曲がった屋根のたわみをトラスを使用した補修及び垂木にかいものをした補修。12柱脚腐食部補修：腐食箇所の木の取替。13柱沈下修正：大きく沈下した柱により建物全体が前傾。傾き修正の為に沈下した柱の修正。14横架材抜け補修：建物全体が前に傾いていることで抜けかけている為、補修。15便所棟切り離し：建築基準法違反になっている為、切り離し工事。16防腐防蟻処理：湿気が多いY1～Y3通りに処理。17天井吊直し：天井裏の吊直し修繕

- ・ [熊澤] 舞台上の大道具が利用するぶどう棚を、人が安全に動けるように渡板を新しくしてほしい。
- ・ [熊澤] 15便所棟切り離しは、事務所は金の管理を行っている大事な場所である為、切り離しによって狭くなるのは困る。
- ・ [川端] 切り離し工事は、必須条件。男子トイレを縮小することにより事務所の広さは現状とほぼ同じ。
- ・ 鈴木 改修案については、はしご型フレームでの補強工事以外は資料とおりに進める。

③専門部会について

- ・ [鈴木] 調査研究部会について、耐震補強検討部会は説明通り。検証実験部会は、土壁と板壁の実験を進めている。耐久性調査部会は、木材の強度調査を行っている。歴史構法部会は、麓先生により明治座の文化財として保ち続ける為の部会。映像記録製作部会は、今回あたらしく設立した部会。
- ・ [藤岡] 明治座耐震改修工事は文化財維持管理上、非常に画期的なものになる。明治座は地域の民族文化史において非常に重要な役割を果たしていることから、工事が終われば良いということではなく、しっかりと記録を行い形に残していくことが重要ある。映像記録については、個人でできないことが多い為、研究の記録に実績が多い、ヴィジュアルフォークロアに業務委託予定。映像会社とも細かい打ち合わせを行い、補助事業に承認できる見込みで、現在前倒しで事業を進めている。

④今後のスケジュール

- ・ [内木] 平成26年度事業を繰り越し、平成27年度秋の完成を目指す。会議等、検討委員会は今回で3回目の開催。域学連携では映像記録のほかにも、木匠塾を含めた学生や地域の人などにも多く携わってもらえるよう、広く協力を依頼して進める（板葺き石の収集等）。設計管理は現在実施設計を行っている。10月末日の工事発注を目指す。補助事業は環境税「木の香る教育施設等整備事業」の事務手続きを進めている。併せて文化財の申請等も行う。10月に全国育樹祭サテライト会場として予定している。
- ・ [内木] 板葺きの板について、岩木誠さんに依頼して板割の機械を製作中。

2014年12月19日 第2回定例会議

- ・ 総合施工計画作成中。
- ・ はしごフレーム、足固め、格子組などはなし。

2015年1月8日 第3回定例会議

- ・ へぎ板現物見本提出：特に厚い部分は削り取る。葺いた時隙間があっても良い。(1束0.5㎡)
- ・ 屋根石の大きさ：玉石で5kg程度。横@900 縦@450 前後
- ・ 市役所の指示：屋根石は住民参加型事業で住民から集めたい。

2015年1月22日 第4回定例会議

- ・ 畳下床板ですでに取り替えた部分がある：そのまま復旧
- ・ 内部床、番付後、丁寧に剥がし作業を行っている。

- ・ 根太、大引の腐れ、虫害が予想以上：復元方法を検討委員会に確認してもらう。(材の取替の必要性)
- ・ 栗板加工工程 屋根面積から1日に7㎡製作しなければならない計算となる：人力4人体制で量産に切り替えるが、原木の根元であると割れや空洞が出たり、使えない部分がある。ロスやメンテナンス用も余分にできるように準備している。
- ・ 市役所の指示：2/22にシンポジウムを行う。工事中の板へぎの実演と現場見学を企画していきたいので配慮とご協力をお願いしたい。
- ・ 板の固定：ズレ止めのため、竹釘で固定する方法が一般的である 再度検討
- ・ 屋根玉石は10kg、1800ピッチでよいか：良い。板は載せるだけとし、釘は打たない。
- ・ 置石の調達：地域と工務店で調達。玉石で5kg 900ピッチと決定したが、実際に計量すると7-10kgピッチ一間程度でどうか。構造上5kg/㎡となる。地域で昔使われていたものも玉石で角がなく座りが良い。平均7kg程度として、調達を進める。ピッチは半ば現場合わせて葺く。棧木のピッチとズレ止めに棟から番線を渡して固定しない方法が一般的であり、銅板入れない、(軒先の保護になるが、緑青が出て汚れるなど賛否がある。)

2015年2月6日 第5回定例会議

- ・ 栗板加工が計画より遅れている。ロス率が思いの外高い。高山では原材を少し湿度を高め、火気あふりでやっている。原材料の扱いなど技能的な部分の研究と飛騨の里での実際の展示の見学を行って欲しい。
- ・ 下屋は原形復元、大屋根は原形を保護する目的で板葺きを行うため、納まりは代父学とも協議して最終とする。
- ・ さるがしらで固定する方法については、実物を確認して参考とする。

2015年2月16日 麓先生質疑

- ・ 腐朽部分は、根継ぎを最小限として取替え修理
- ・ 広小舞は、創建当時どうだったか調べる 軒瓦下は、瓦座。
- ・ 大引、根太の腐朽部分：腐朽部分は取り替えて良い。柱根継ぎはできるだけ短く十字形ほぞ等で取り付ける。柱根継ぎは同質材とする。
- ・ 南側の梁柱が雨樋の水濡れ腐朽がある：腐れを取り除き検討する。最悪追掛大栓継ぎで取替修理。柱は埋め木とするか、弱い場合は金輪継ぎで取替え。
- ・ 板葺き石置き屋根模型について：押え棧は製材品でも良いが見つけは荒くする。押え棧固定は光らない太めの銅線でも良い。押え棧は真下で引く。

2015年2月20日 第6回定例会議

- ・ 2/23より素屋根の設置。

- ・ 栗板加工の進捗は2/19原材106束、2.86束/日で製作中。
- ・ 柱の傾き測定の報告：X3—Y11の傾きがMAX。
- ・ 板壁補強は実証実験でも良い結果が得られた。：当初補強設計通り施工とする。
- ・ 熊澤委員より軒先の金物で固定されていたことから、当時の納まりを再現するため検証を行う。

2015年3月6日 第7回定例会議

- ・ 栗板加工状況：屋根板にさわら板を30%採用。3/24高山で板へぎ指導を受ける予定。
- ・ 軒先施工図。金物仕様について：軒止め板受金物で決定。
- ・ 根継ぎ施工図：柱巾以上は金輪継ぎとする。

2015年3月20日 第8回定例会議

- ・ 市役所の指示：屋根置石100個、地区で集める。工務店で400~450個

2015年4月15日 第10回定例会議

- ・ 市役所の指示：屋根石置き場設置すること。4/17こぶしの会見学18名。4/27岐阜県知事視察。5/4、5祭礼

2015年5月1日 第11回定例会議

- ・ 庇の板大和葺き施工図：杉赤身板20×290 押え20×60 下の庇は垂木51×51@290
- ・ 建て起こしにより天井にひずみ発生：吊り上げて補修

2015年5月8日 麓先生質疑

- ・ 板葺き見本：問題なし
- ・ 下野の折り返しで建設当時の広小舞を発見。2階屋根について軒付板を止めて広小舞を取り付けること。
- ・ X2—Y13柱位置について礎石がないが現状でいいか：位置は現状、玉石を据えて既存柱に根継ぎを行う

2015年5月22日 第12回定例会議

- ・ 屋根板葺きについて：押え棧は@480、長手方向50~70mm隙間を開ける。押え棧一本に置石2個とする。千鳥状にする。k+gのジョイント下に銅板水切りをつける。k+gの取付方法は銅線を下から通して縛る。

2015年6月12日 第13回定例会議

- ・ 楽屋123、Y5,Y7,Y9 通り板壁補強部分柱について：Y7,Y9 通り痕跡部には柱設置すること。

Y5 通りは無し。

- ・ 屋根板葺き押え棧固定方法ほか：押え、小舞を取り付ける方法で再検討。下屋根北と東は変更しない。

2015年7月10日 第15回定例会議

- ・ 市役所の指示：8/2、6一般見学会

2015年7月24日 第16回定例会議

- ・ 栗さわら板加工：さわら板の加工を再び始めている。
- ・ 屋根押えさんの配置、玉石の配置：押え棧玉石を東面屋根に並べてみる。

2015年8月7日 第17回定例会議

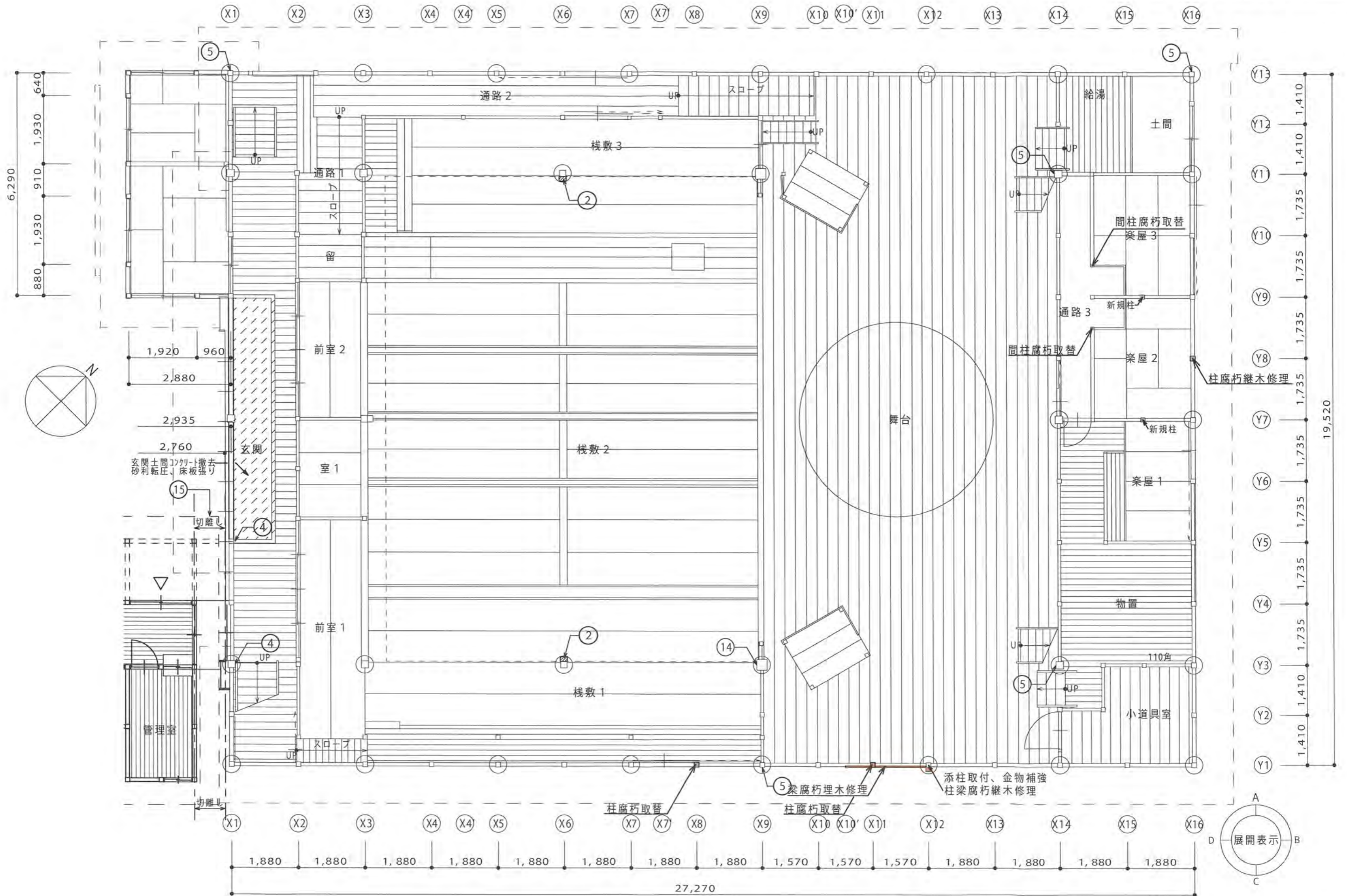
- ・ 屋根押えさんの配置、玉石の配置：東屋根にて配置方法を決定。押え棧は重ねて銅線で2重に縛る。押え棧2m一本に玉石2個の計算。上屋根も同じ方法で行いチェーンは使わない。

2015年8月21日 第18回定例会議

- ・ 9月の工程表：9/7足場上段階検査及び畳下床板検査。内部下検査。9/25消防検査、完成検査。9/28完成写真撮影。

■ 計画工程 ■ 実施工程

明治座耐震改修工事			平成26年						平成27年																																			
			11月		12月		1月		2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月														
			20	30	10	20	31	10	20	31	10	20	28	10	20	31	10	20	30	10	20	31	10	20	30	10	20	31	10	20	31	10	20	30										
1	仮設工事	31.58%	計画準備																														清掃片付け											
			外部足場架け 仮囲い																														素屋根工事											
																																	素屋根撤去 足場撤去											
2	屋根葺替え工事	35.19%	屋根セメント瓦・瓦棧・流し垂木・雨樋撤去処分養生																														屋根垂木・破風・軒止め板・野地板・ルーフィング・板葺き・ムナゴロ・置石											
																																	板加工											
3	庇葺替え工事	1.54%																															庇撤去											
																																	庇復元サワラ板葺き											
4	外壁修理工事	6.38%																															板取外し											
																																	土壁補修・板壁復旧・漆喰塗り補修											
5	木工事	10.72%																															床撤去・沈下修正・金物補強・ホゾ復元・根継・鼻栓込復旧・垂木調整											
6	便所棟分離工事	3.18%	切り離し撤去処分																														切り離し部分基礎											
																																	木工事											
																																	左官・タイル・木製建具工事											
7	防腐防蟻対策工事	0.31%																															防腐防蟻処理											
8	天井吊直し工事	0.28%																															ワイヤー取替											
9	地震補強工事	7.95%	土壁・板壁試験体製作																														板壁撤去処分・木下地補強壁板張り工事											
10	雑工事	2.87%	機器取外し																														機器復旧											
			起工式																														完成検査											
合計		100.00%																																										
計画工程		月間	0.16%			8.00%			10.84%				13.44%				14.71%				15.97%				13.42%				11.82%				9.23%				2.41%							
		累計				8.16			19.00				32.44				47.15				63.12				76.54				88.36				97.59				100							
実施工程		月間	0.16%			7.53%			8.35%				9.30%				7.75%				8.00%				12.00%				19.31%				12.94%				10.76%				3.90%			
		累計				7.69			16.03				25.34				33.09				41.09				53.09				72.40				85.34				96.10				100			

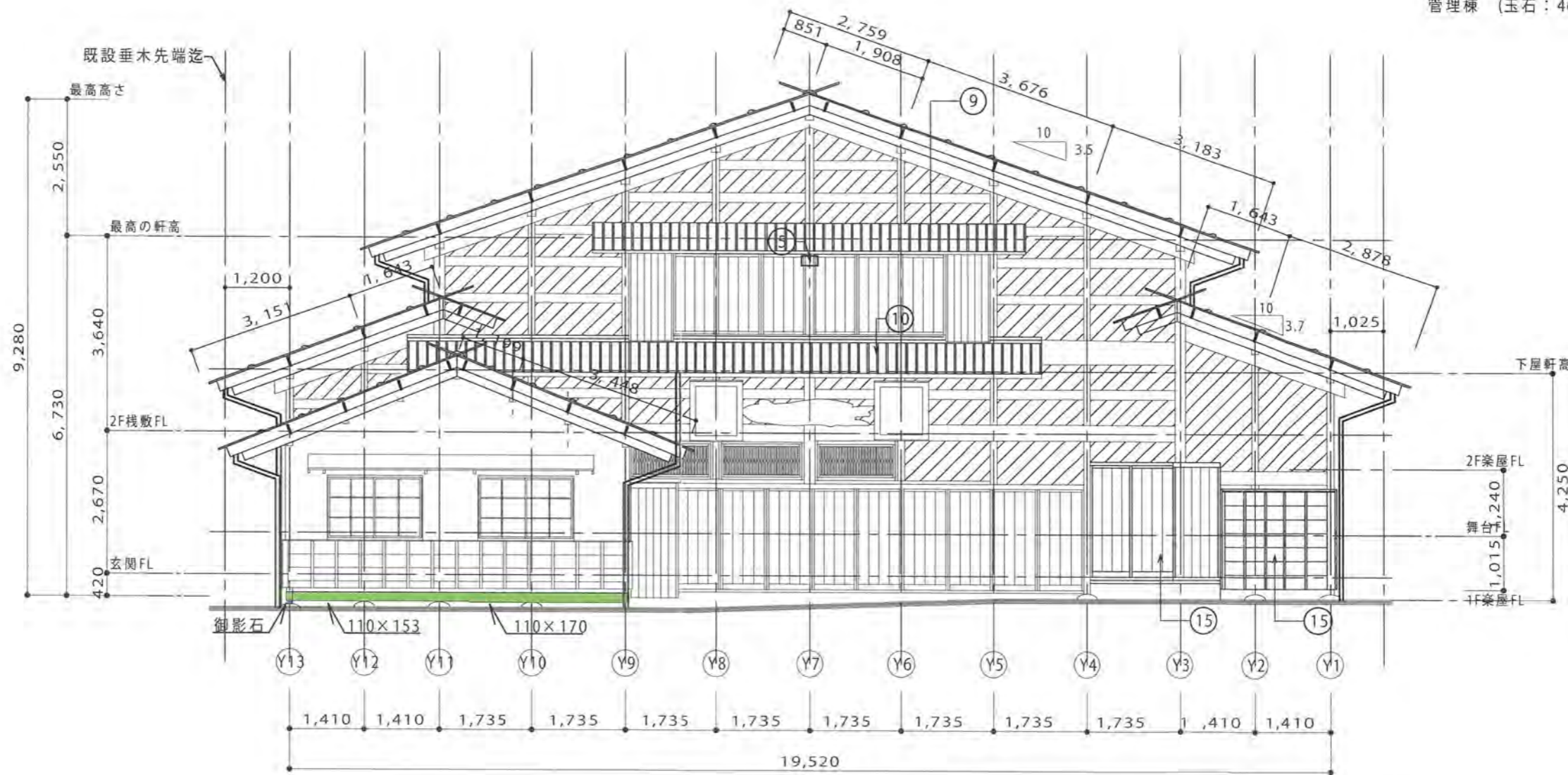


加子母明治座 竣工図面

図面名 1階平面図	縮尺 1/100	作成：中津川市基盤整備部建築住宅課
-----------	----------	-------------------

- 凡例 -

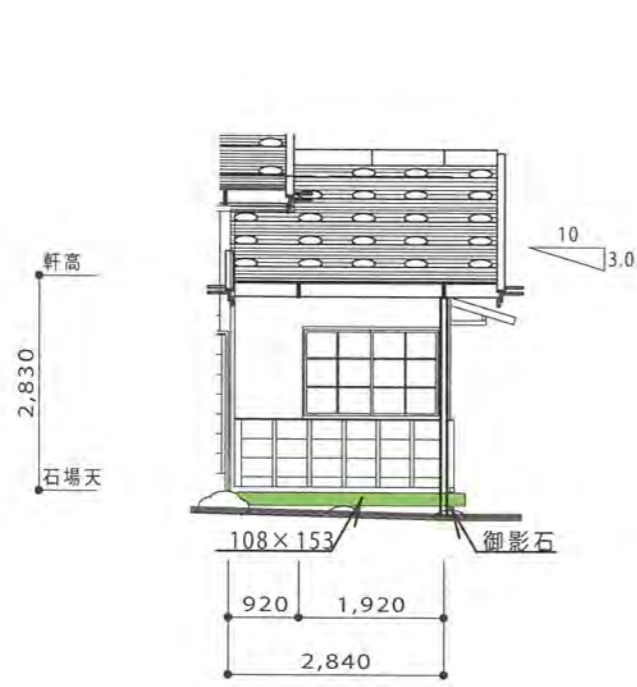
- ①の工事範囲 実施総数量『玉石:933個 押え棧:440本』
- 上屋根 (玉石:522個 押え棧:252本)
 - 内訳 玉石:522個=29個×9列×2面
押え棧:252本=14本×9列×2面
 - 下屋根 (玉石:365個 押え棧:170本)
 - 内訳 北玉石:139個 押え棧:62本
東玉石:95個 押え棧:45本
南玉石:131個 押え棧:63本
 - 管理棟 (玉石:46個 押え棧:18本)



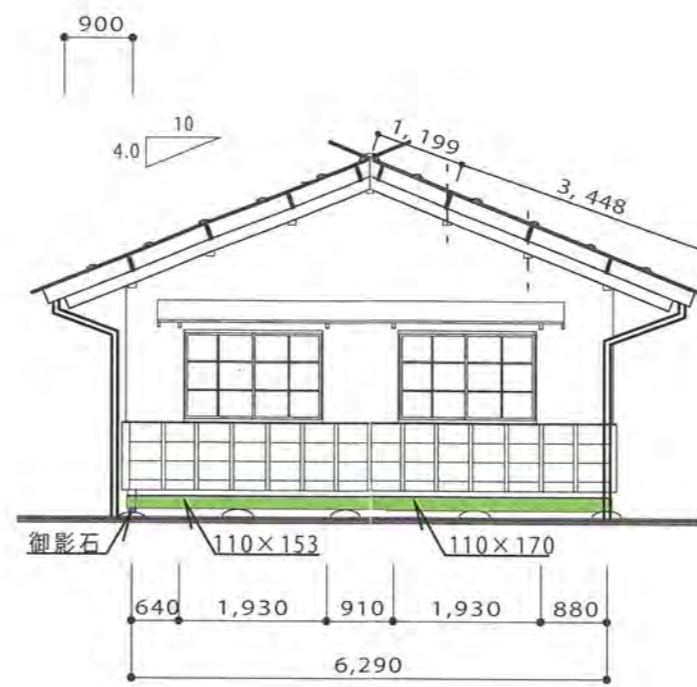
西面図

加子母明治座 竣工図面

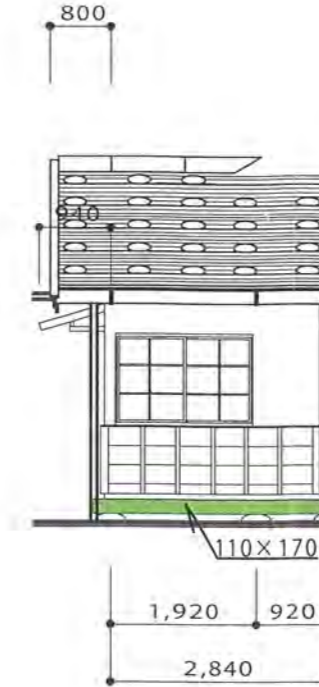
図面名 西立面図	縮尺 1/100	作成: 中津川市基盤整備部建築住宅課
----------	----------	--------------------



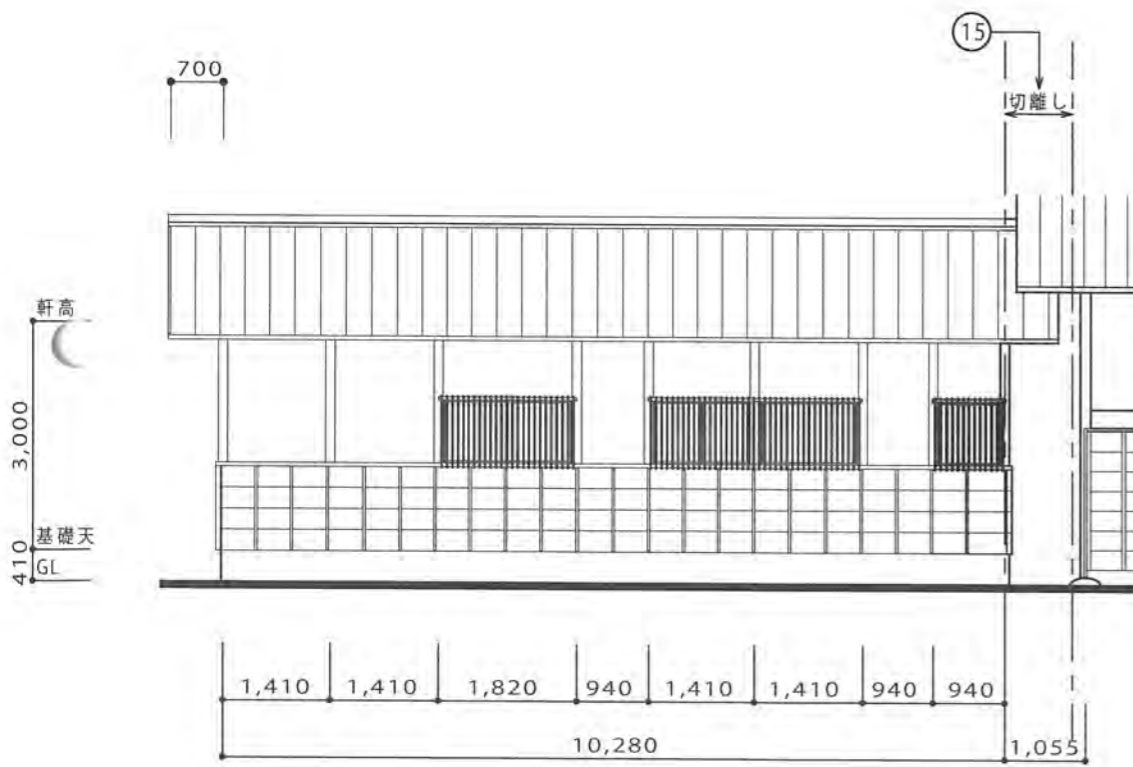
北面立面図



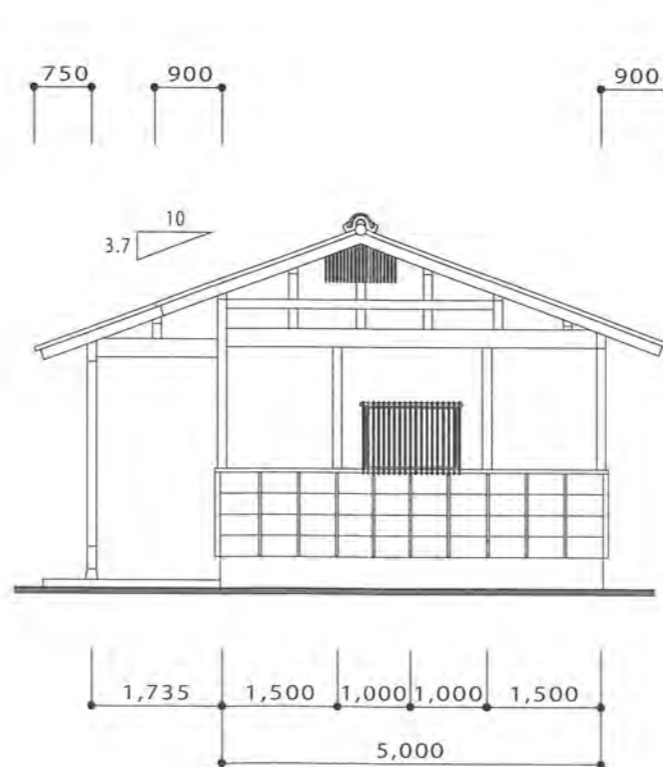
西面立面図



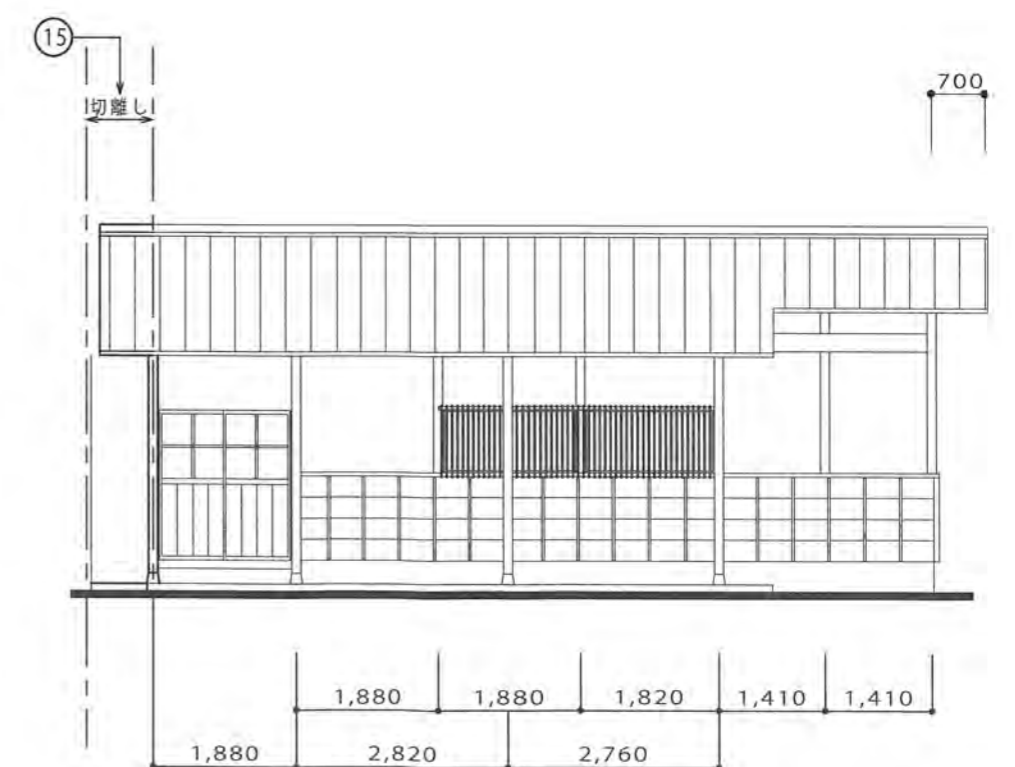
南面立面図



便所棟 南面立面図



便所棟 西面立面図



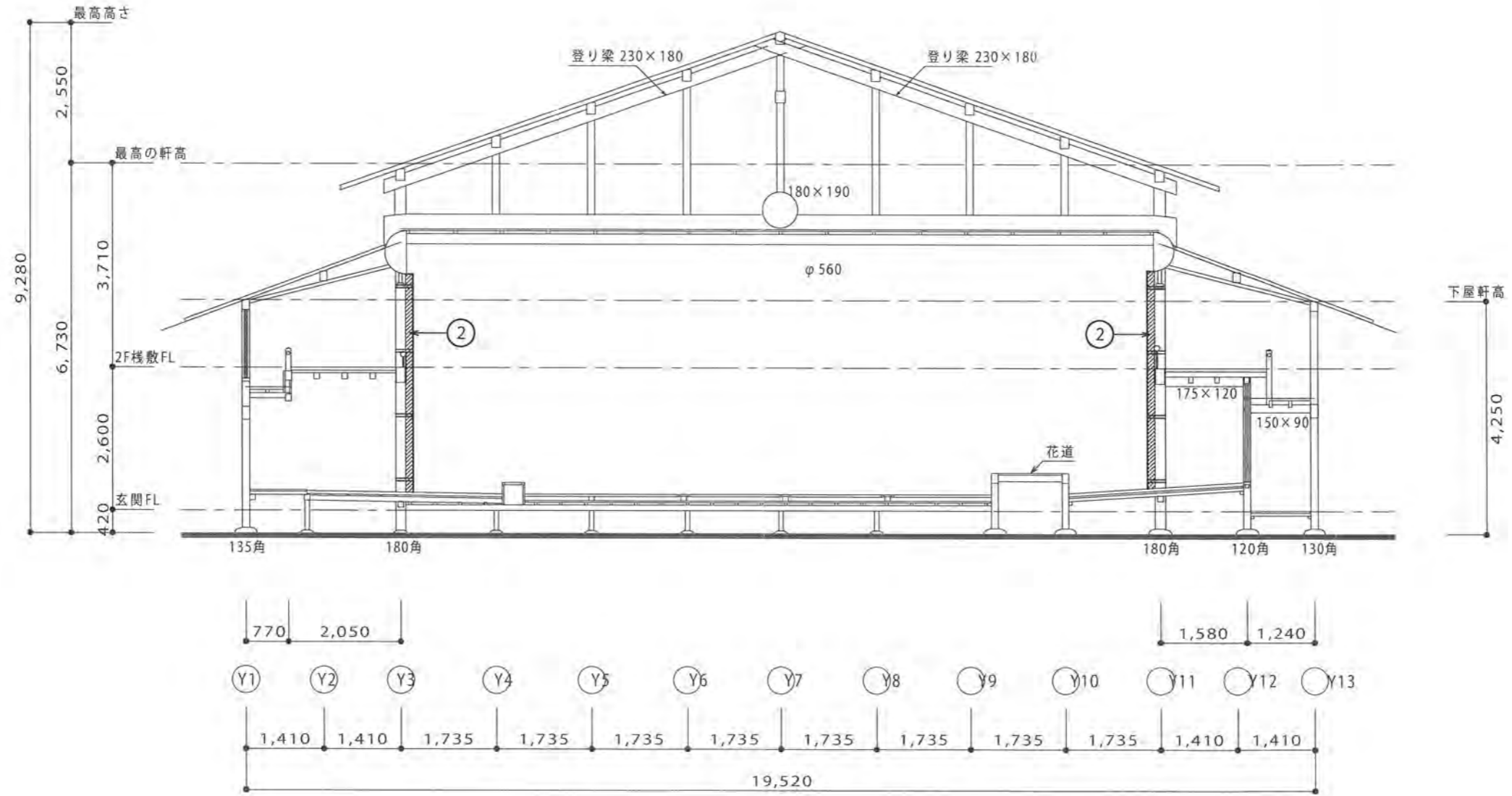
便所棟 北面立面図

加子母明治座 竣工図面

図面名 付属建物立面図

縮尺 1/100

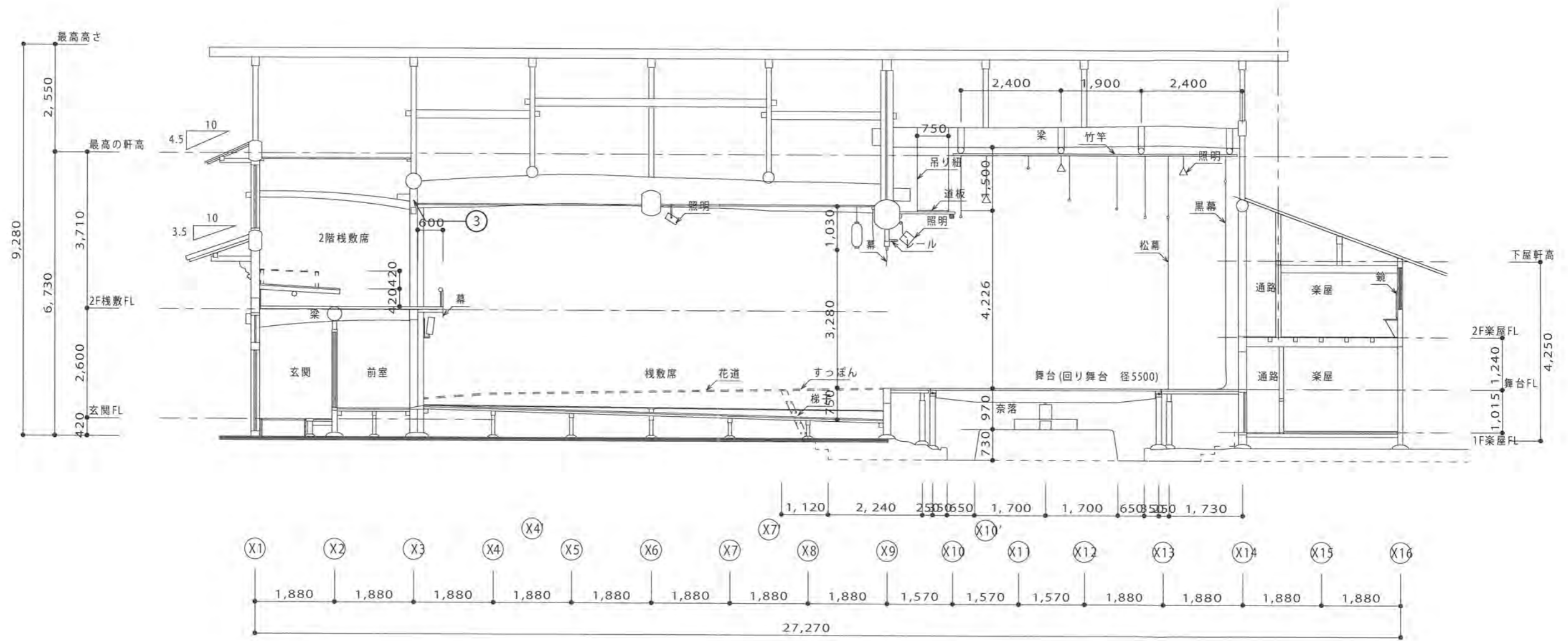
作成：中津川市基盤整備部建築住宅課



断面図 (X 6 通り)

加子母明治座 竣工図面

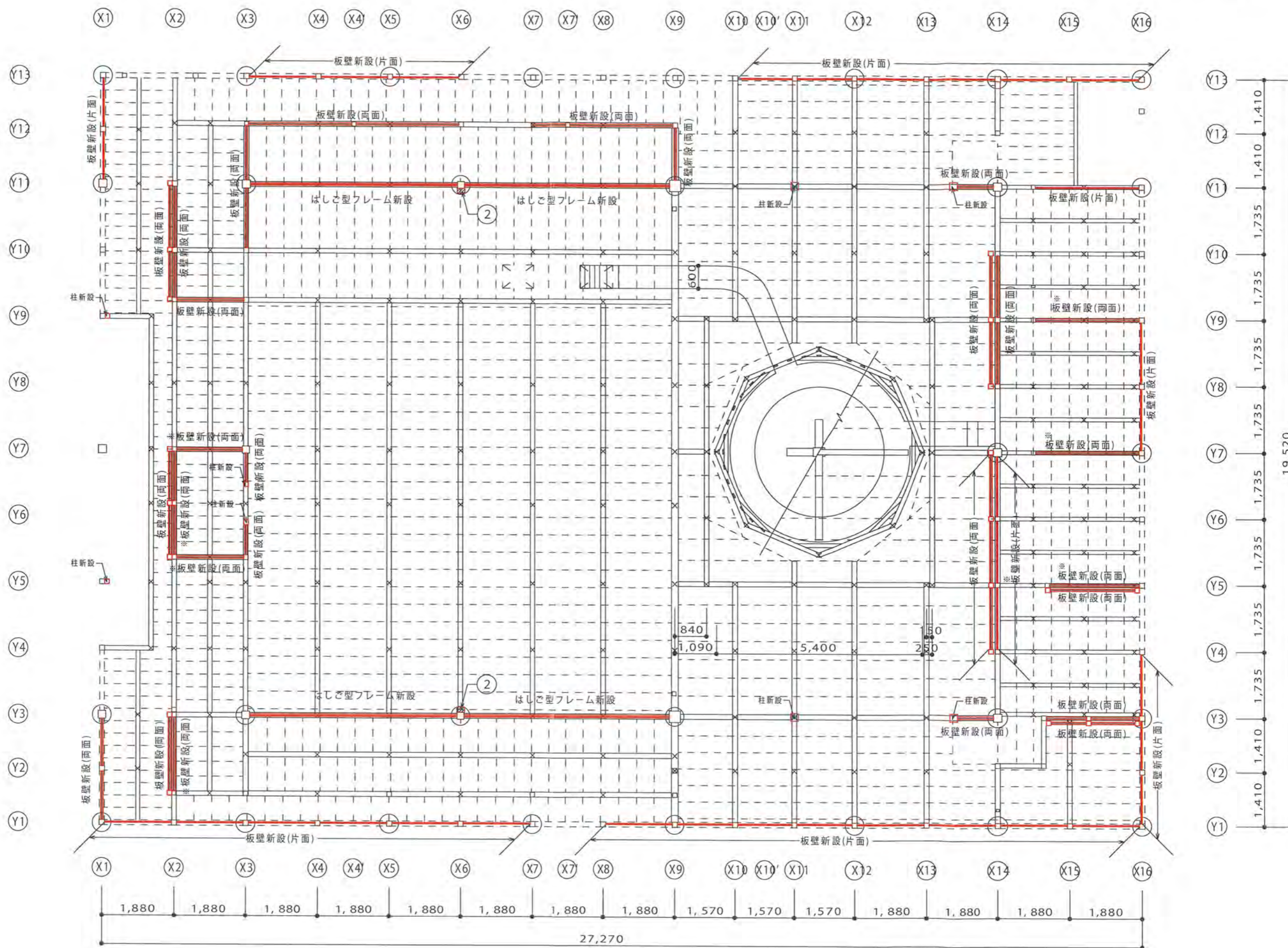
図面名 断面図 1	縮尺 1/100	作成：中津川市基盤整備部建築住宅課
-----------	----------	-------------------



断面図 (Y7通り)

加子母明治座 竣工図面

図面名 断面図2	縮尺 1/100	作成：中津川市基盤整備部建築住宅課
----------	----------	-------------------

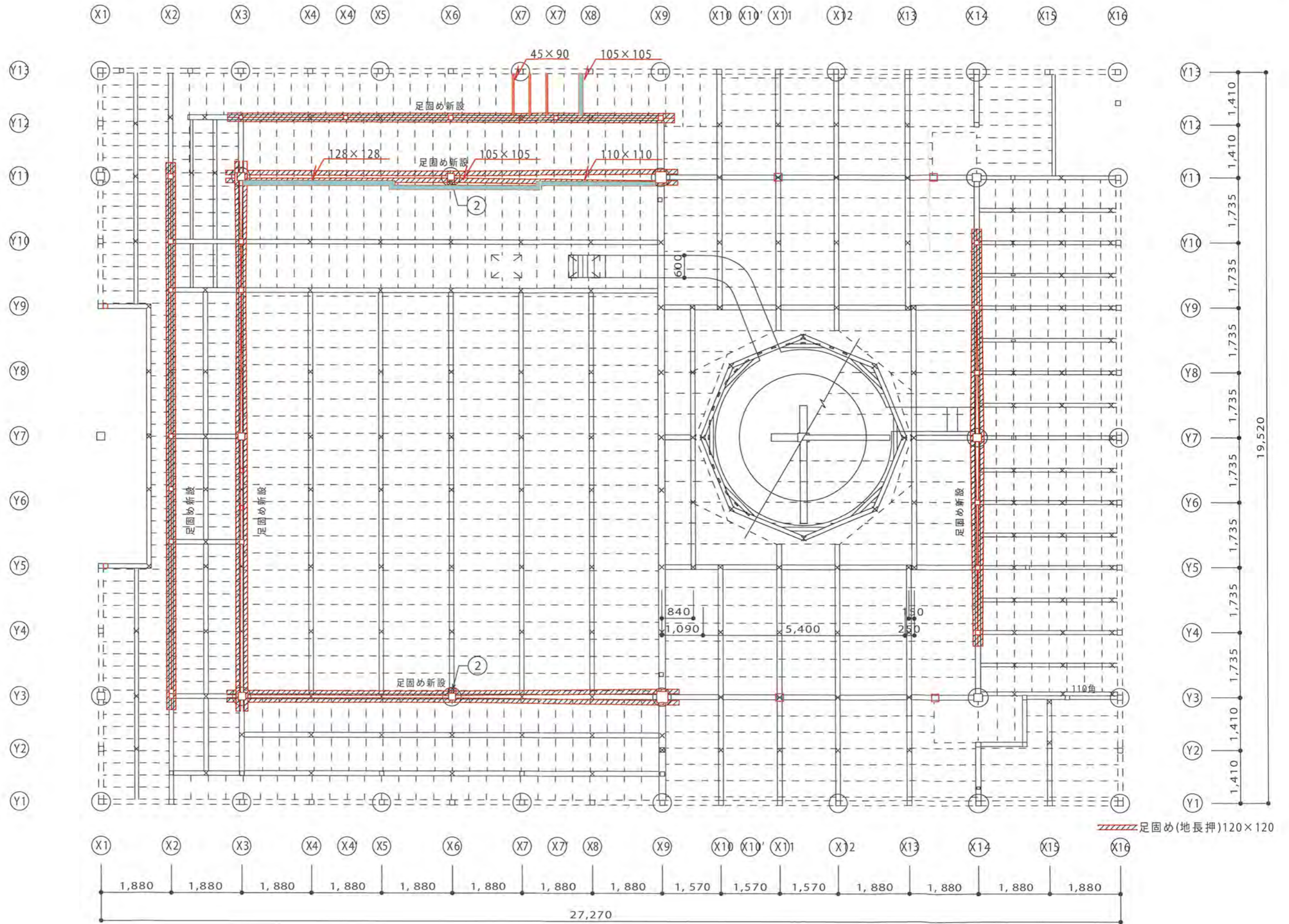


加子母明治座

図面名 1階耐震補強計画図	縮尺 1/100	作成：中津川市基盤整備部建築住宅課
---------------	----------	-------------------

取替え部材表記

-  E
-  W
- (W×H)
-  : 大引き材
-  : 根太材



加子母明治座

図面名 床下耐震補強図

縮尺 1/100

作成：中津川市基盤整備部建築住宅課

置石@1800程度

△ 押え棧 60×120(流し垂木にステンレス製ワイヤーで固定)

栗板葺き(長さ450、葺き足120、厚6程度)

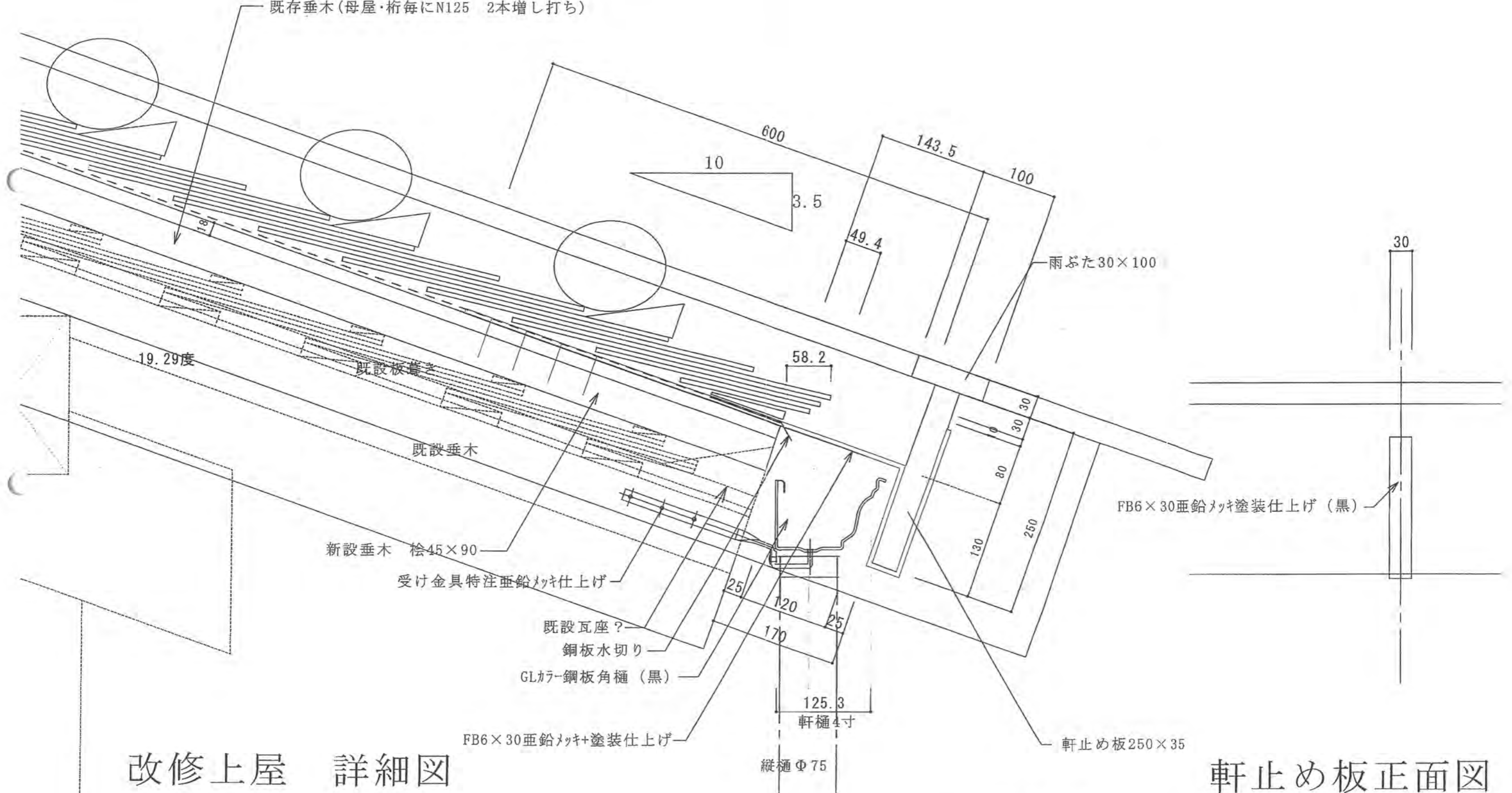
ゴムアスルーフィング

野地板厚18(補強用)

流し垂木45×90、@455(N150@910 既存垂木に留付)

既存板葺き屋根

既存垂木(母屋・桁毎にN125 2本増し打ち)

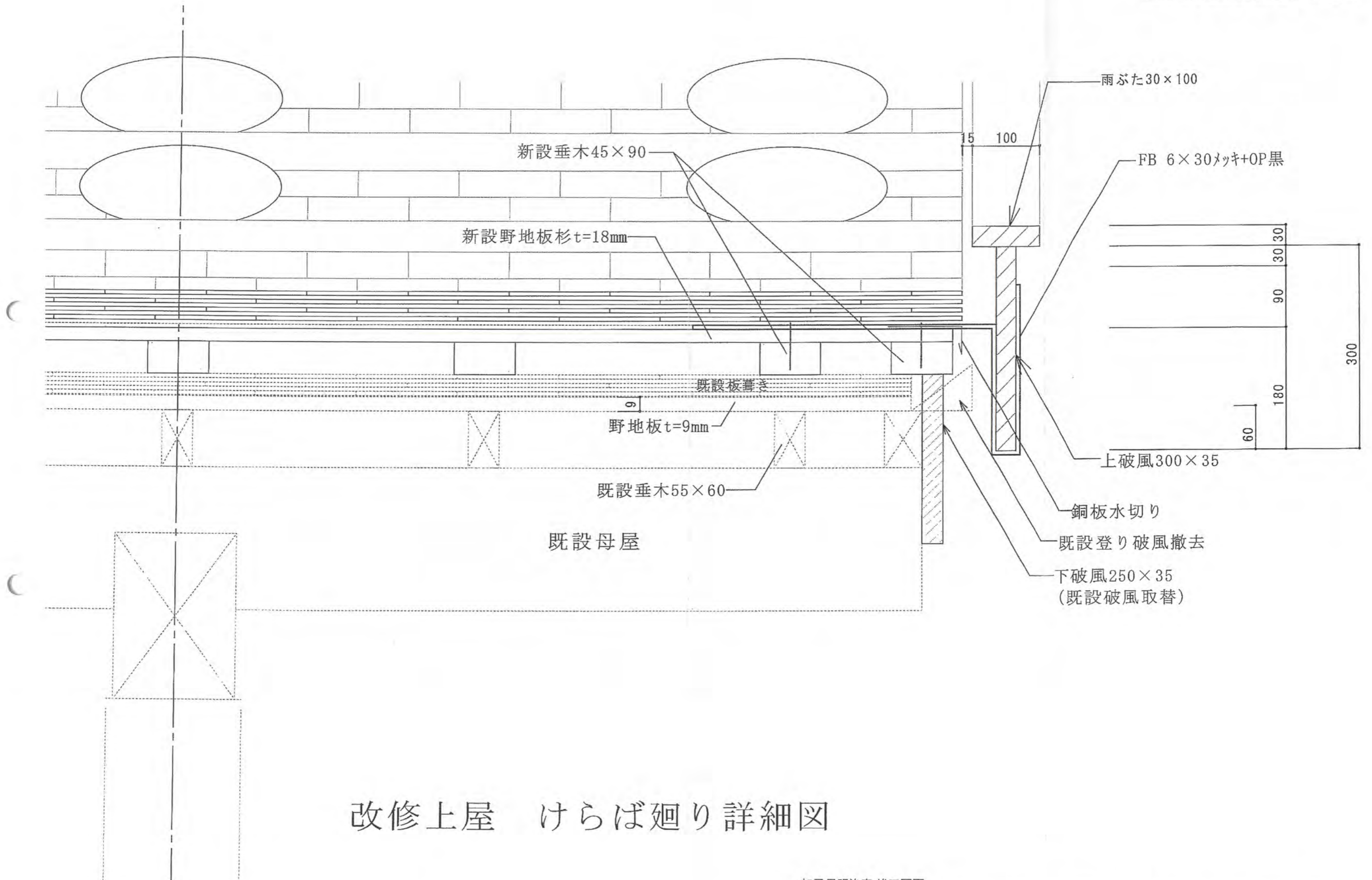


改修上屋 詳細図

軒止め板正面図

加子母明治座 竣工図面

図面名 改修上屋 詳細図	縮尺 1/5	作成：株式会社 中島工務店
--------------	--------	---------------



改修上屋 けらば廻り詳細図

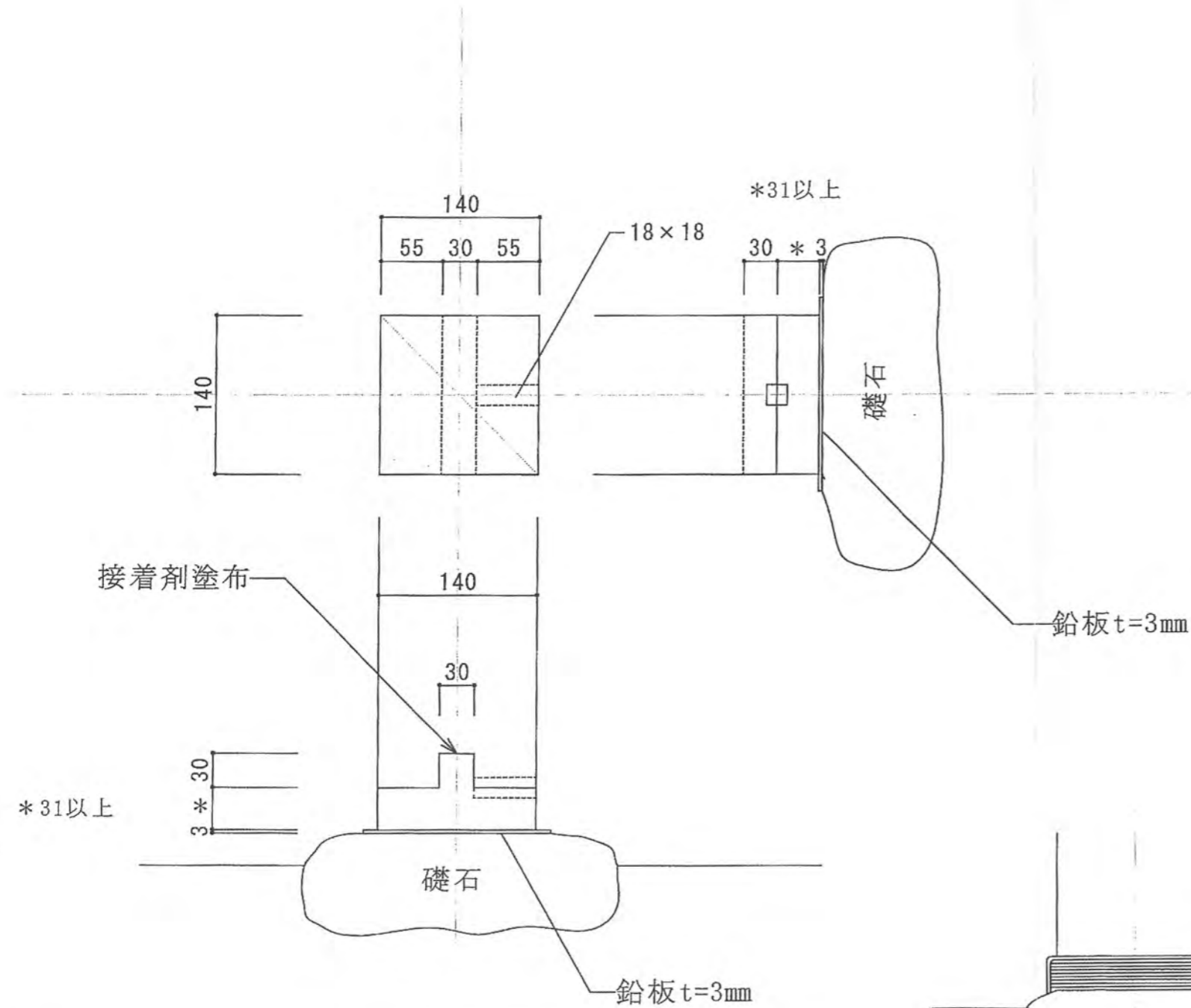
加子母明治座 竣工図面

図面名 改修上屋 けらば廻り詳細図

縮尺 1/5

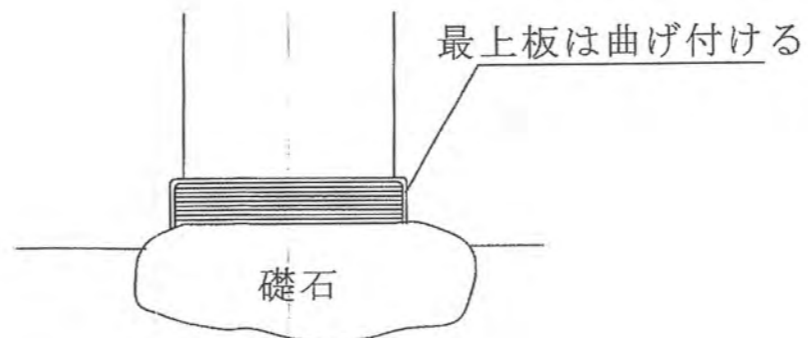
作成：株式会社 中島工務店

H=450程度から金輪継とする。

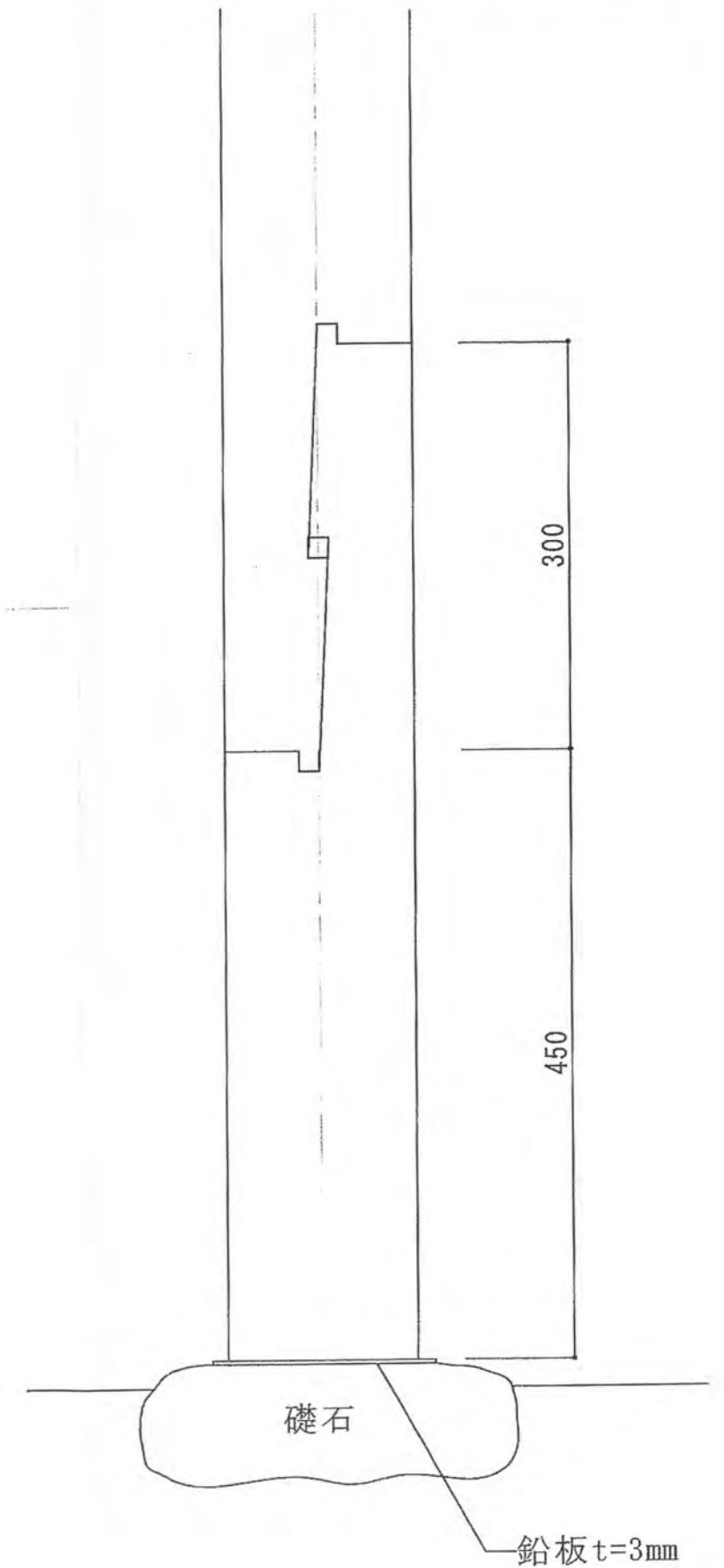


H=31以上440程度迄目地継手とする。

*根継材料柱同質材



*不陸調整用鉛板重ね10枚迄とする。
*高さ31以上は根継とする。

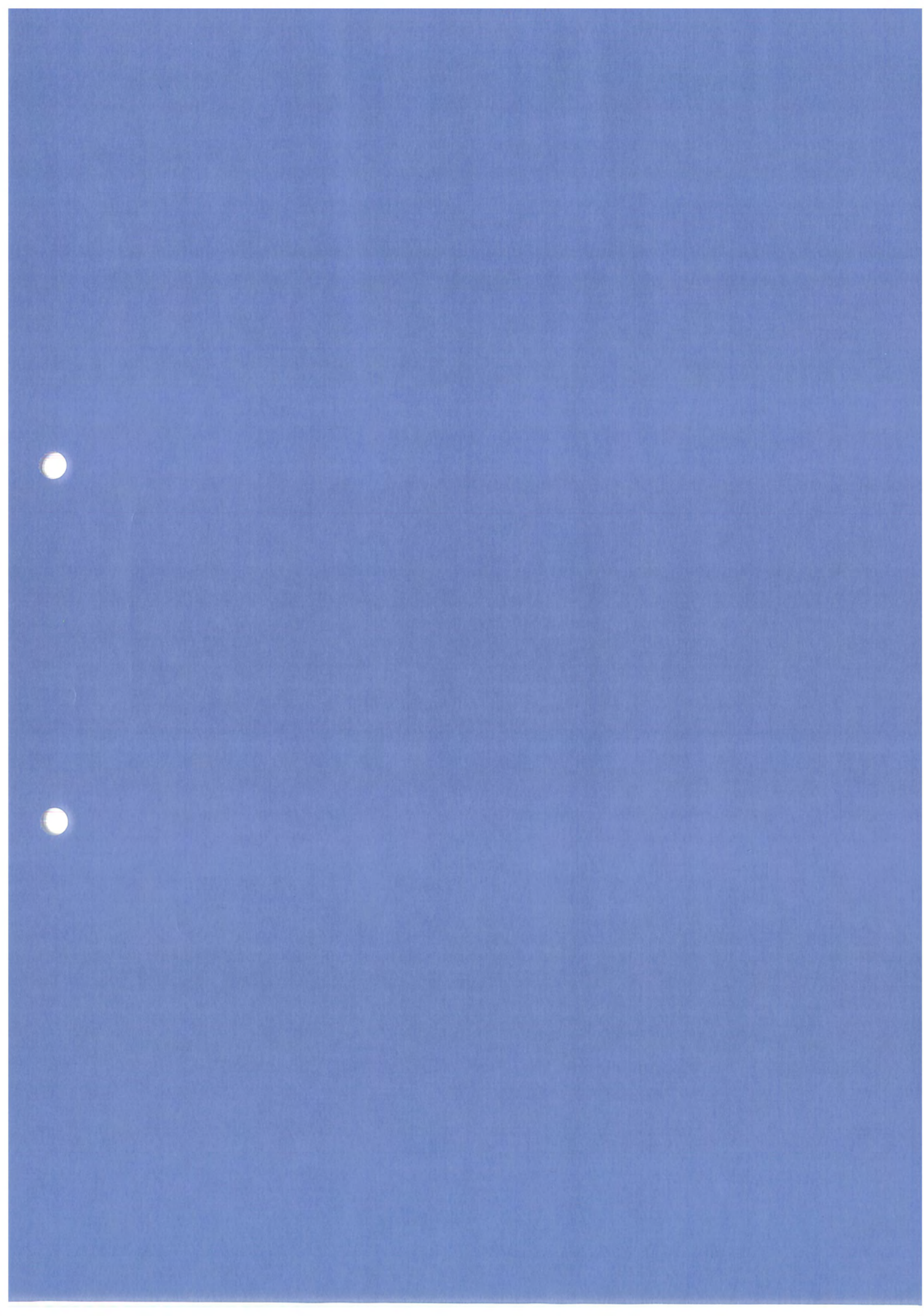


加子母明治座 竣工図面

図面名 柱根継ぎ 詳細

縮尺 1/5

作成：株式会社 中島工務店



付録資料Ⅲ 制作・広報活動

〈制作物〉

- ①パネル 1 (下郷神社春祭り)
- ②パネル 2(明治座クラシックコンサート)
- ③パネル 3 (全国育樹祭)
- ③加子母歌舞伎おひねり (NDP)

〈広報〉

- ①かしも通信 記事
- ②加子母明治座公式ホームページ
- ③その他イベント・プレゼン



明治座 平成の大改修

① 昭和の大改修 — 瓦屋根の葺替え —

明治 27 年に地元住民達の手で建設されてから、120 年が経ちました。お金を出し合い、材料を山から伐り出し、汗水流して建てられた明治座。時には、雨漏りを防ぐために屋根替えをしたり、天井を張ったり、多くの人々の手によって、明治座は現在まで守り続けられてきました。

約 40 年前には、住民が寄り集まって屋根瓦を葺替えをしています。

明治座は今までも住民たちの手で「保存修復」が繰り返されてきました。

② 平成の大改修 — トントン葺きへ —

今回の大改修のポイントは、屋根が瓦葺きから栗板によるトントン葺き（樽葺き）に変わることです。工事では、セメント瓦が一時に取り外され、その下に眠っていた「トントン葺き（樽葺き）」が姿を現しました。明治座内部では、床板が取り外され「石場建て」としての姿を見ることが出来ます。石の上に一本の柱が立ち、この大きな屋根を支えている。明治座の骨格を目の当たりにし、これまで支えてきた偉大さを感じます。

トントン葺きに向けては、加子母のあちこちから人が集まり、試行錯誤しながら板へぎを行い、下記の日程で講習会も開かれました。

3月24日 板へぎ職人 山口未造さんの実演見学（飛騨の里）

3月30日 板へぎ講習会（加子母総合事務所の車庫）

4月1日 山口未造さんの明治座見学

トントン葺きへの道のりは本当に大変だと感じますが、いろいろと集まり乗り越えていく過程には、多くのエネルギーや熱意が込められ、知恵が集結し、技術が継承されつつあると感じます。また山口さんの明治座見学後には、お手紙が届き「立派なものに仕上げ、長持ちする技術を伝えたい。自分が経験した技術をすべてお話しし、後世に残してもらえたら」と書かれていました。

屋根が瓦葺きからトントン葺きに変わることがいいことか？

賛否両論だと思います。しかし、事実として一人の職人さんが元気になり、すべてのことを伝えたいとまで思っています。このことから、明治座は単に修復を行っているだけでなく、〈伝統や文化、技術を継承していく実験〉を行っている真っ最中だと感じます。

③ 100 年後へ向けて — 明治座基金 —

「こういうふうになるとは思わなんだ。本当にとってもありがたい。1 日でも早く完成してオープニングのことを考えている。」明治座の顔として管理人を続けてきた安江智夫さんはそのように語ります。

明治座の姿がこれから先 100 年 200 年と続いていくためには、みんなで守っていかねばならない。まだまだやらなきゃならんことがたくさん残っている。

これから 100 年後へ向けて、何をやっていくべきか？みんなで考えていく必要があります。

《明治座 維持補修にご協力ください》

明治座ではこれまでもキフダとして寄付金を募り、皆様のご協力の結果今回の保存修復工事へとつながりました。

これからも明治座を維持し次の屋根替えを迎えるために、100 年後へとつなげていくために、皆様のご協力をよろしくお願ひします。

くれ板券金

(大) 1000 円 (小) 500 円



梅田周作さん撮影



トントン葺き



石場建て



板へぎ 優良材生産クラブ



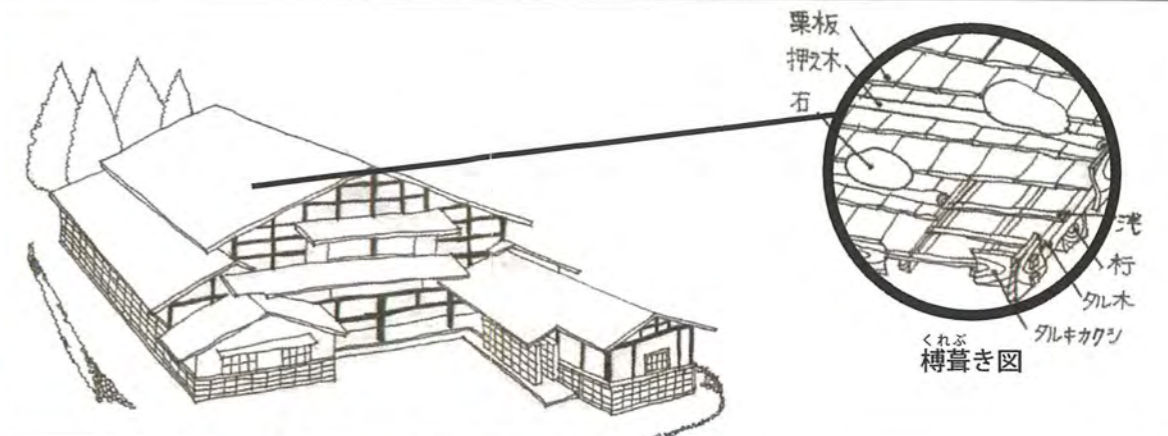
キフダ



板へぎ 岩木工芸



明治座 平成の大改修



① 昭和の大改修 — 瓦屋根の葺替え —

明治27年に地元住民達の手で建設されてから、120年が経ちました。お金を出し合い、材料を山から伐り出し、汗水流して建てられた明治座。約40年前には、住民が集まり屋根の葺替えをしています。明治座は、常に住民たちの手で「保存修復」が繰り返され、現在まで守り続けられてきました。

② 平成の大改修 — トントン葺きへ —

今回の大改修のポイントは、屋根が瓦葺きから栗板によるトントン葺き(樽葺き)に変わることです。トントン葺きの技術は加子母にも既に残っており、地元住民が試行錯誤しながら板をへぎ、屋根葺きをしています。試行錯誤の過程には、多くのエネルギーや熱意が込められ、知恵が集結し、技術が継承されつつあると感じます。このことから、明治座は単に修復を行っているだけでなく、〈伝統や文化、技術を継承していく実験〉の真っ最中だと感じます。

③ 100年後に向けて — 明治座基金 —

明治座の姿がこれから先100年200年と続いていくためには、完成後の維持・管理をどのようにしていくかが重要な課題です。定期的な屋根のメンテナンスに伴い、人手や材料はもちろん、へぎ板募金の活動を進めていく必要があります。それに並行して、栗の植林による山づくりや生業の定着、明治座を利用した活動など、みんなで考え実行していく必要があります。



明治座を次の100年へ繋ぐ

明治座 明治座創建からこれまで

創建について

明治 26 年 12 月 4 日、加子母村中桑原区の宮田屋に、田口清助（せいすけ）、田口幸六（こうろく）、新田薫平（くんべい）の発起人 3 名と、その呼びかけに賛同した村の下半郷の有志 7 名が集まりました。

この日、明治座建設の発議が行われました。そして年が明けた明治 27 年 1 月 15 日、梅田兼助を棟梁として工事が着工されます。総工費 1,284 円 30 銭 3 厘 5 毛。建設費用、木材、人夫などすべてが寄附によって賄われました。

村人一丸となって臨んだ一大事業は、日清戦争勃発などの影響を受けながらも、建設の発議からわずか 1 年足らずで完成を見ることとなります。木材の伐採からですから、乾燥していない木材を使用する、かなり無謀な計画だったと思います。実際に、乾燥の足りない材料を使用したことが原因の支障箇所が今回の調査で見受けられました。

芝居小屋の衰退

明治 20 年代は全国的に村芝居の全盛期で、恵那郡北部だけで 70 軒もの芝居小屋が建てられました。しかし、現在はその多くがとり壊されました。明治座も何度か取り壊されそうになった時期もありましたが、関係者の努力で残されてきました。

明治・大正は劇場として旅芸人一座の興業や青年団による弁論大会等村人の娯楽の殿堂として活躍しましたが、戦争中は軍需品の倉庫としても利用され、客席も撤去されました。その中で、昭和 22 年「明治座保護会」が組織され、荒れ果てていた建物が修理され、復活しました。戦後は映画チームによって、明治座は活気に満ちあふれていましたが、テレビが普及すると一気に寂れてしまいました。

昭和 48 年には、歌舞伎保存会による地歌舞伎が復活し一時はにぎわいを見せましたが、また徐々に集客を失いかけていきました。年に一回、歌舞伎保存会の歌舞伎公演が行われる他は、子ども向け映画の興業が行われる程度であり、年間のほとんどが締め切った状態でした。

平成に入ってから、明治座活用委員会が組織され、クラシックコンサートをはじめ、映画、講演会、落語、アマチュアバンドコンサートなど、いろいろなジャンルの催しが行われましたが、依然として締め切った状態が続いていました。屋根の傷みも目立ち、建物のためにもよくない状態が続いていました。

明治座の再興

平成 13 年、農林水産省の「個性ある山村地域の再構築実践事業」を活用して、明治座の実験開館の実施、明治座維持補修基金の募金活動、イベント活動への協力、明治座周辺環境整備などが行われました。

その結果、明治座の通年開館を行い、一口 300 円の寄付を募って屋根替えをしようということになりました。寄付金は、実験開館の際から、現在に至るまでに計 2000 万円が集まり、今回の改修工事のきっかけとなりました。

創建から 120 年、明治座は加子母の風土や歴史とともに歩み、地域の人たちによって大切に守り受け継がれてきた明治座。改修工事によって、その姿が大きく変わってほしくないとありますが、これまで明治座を守ってきた地域のみなさんの願いでした。



昭和 48 年の屋根替えの様子 住民が寄り集まり、自らの手で保存修理を繰り返してきた。



加子母歌舞伎公演 (昭和 48 年～)



明治座クラシックコンサート (平成 10 年～)



通年開館の開始 (平成 14 年～)

明治座年表

●明治 26 年 12 月～明治 27 年 12 月 創建	
明治 26 年 12 月 4 日	明治座建設の発議
明治 27 年 12 月 11 日	竣工
●大正 9 年	板葺から瓦屋根へ
昭和 18 年	軍事物資の疎開のため、客席等の撤去
昭和 22 年	明治座保護会の組織、寄付金を募り修復
●昭和 48 年 9 月	瓦屋根の葺替え
昭和 48 年	第一回加子母歌舞伎公演
平成 10 年	第一回明治座クラシックコンサート
平成 14 年	実験開館 + 明治座維持修復基金開始
●平成 26 年 12 月～平成 27 年 9 月 平成の大改修	
平成 26 年 12 月 11 日	起工式
平成 27 年 1 月 13 日	栗の板へぎ開始 (岩木工芸)
3 月 7 日	瓦屋根取り外し
3 月 24 日	樽職人 山口未造氏の実演講習会 (飛騨の里)
3 月 30 日	サワラの板へぎ開始 (加子母優良材生産クラブ)
5 月 5 日	下郷神社春祭り、樽板募金開始
6 月 7 日	屋根葺き作業の開始 (安江瓦)
6 月 9 日	山口未造さんの明治座現地指導
8 月 26 日	屋根葺き終わり
9 月 30 日	竣工
●今後の予定	
10 月 4 日	全国育樹祭サテライト行事
11 月 29 日	加子母歌舞伎 こけら落とし公演
100 年後へ向けて、募金・植林・明治座活用などの検討	

この文化財の修復工事は「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用して整備しました。

明治座

保存修理工事に至るまで

平成14年 通年開館の開始



明治座改修検討委員会の組織

平成 26 年 6 月、加子母地区と域学連携に取り組んでいる名古屋工業大学の藤岡伸子教授から、日本古来の伝統構法による文化財的・意匠的価値を損なわない明治座の改修提案がなされました。

これを契機に、立命館大学の鈴木祥之先生をはじめ、京都大学、名古屋大学、名古屋工業大学、金沢工業大学などの研究者と地域の代表のみなさんにより加子母耐震改修検討委員会が組織されました。今回の改修は、地域と大学との連携による取り組み「域学連携」から出発したことに大きな意味があります。加子母地域では 20 年程前から大学と連携した地域づくりを実施してきました。地域の課題を大学と共有し、連携を図りながら解決していく取り組みです。明治座の改修もその課題の一つでした。

委員会として地元の見も取り入れながら最終的な合意形成を図りながら実施設計がおこなわれました。



起工式

まだまだやらなきやならんことがたくさん残っておる。」

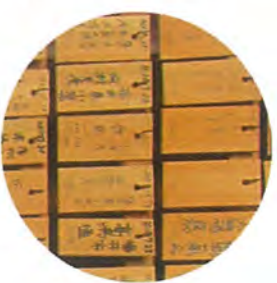
12 月 11 日明治座保存修理工事の起工式が開かれました。工事関係者を初め、明治座に関わりの深い面々が集う中、明治座改修検討委員会会長 熊澤和之さんが起工式の挨拶でそのようなことをおっしゃっていました。

起工式では、明治座の独特な空気に包まれる中、皆さんも同じ気持ちだったのでしょうか。「みんなですわり、多いに活用していきたい。」「建物は良くなるのだから、中身ももっと活用していきたい。」というようなお話を伺いました。

明治 27 年に地元住民連の力で建設されてから、120 年経ちました。雨漏りを防ぐために屋根替えをしたり、天井を張ったり、多くの人々の手によって、明治座は現在まで守り続けられてきました。そして、またこのように大きな一歩を歩み始めようとしています。「こういうふうになると思わなんだ。本当にとってもありがたい。1 日でも早く完成してオーブニングのことを考えたいと思っている。」明治座の顔として管理人を続けてきた安江智夫さんはそのように語ります。

明治座の姿がこれから先 100 年 200 年と続いていくためには、みんなですわっていかなくてはならない。まだまだやらなきやならんことがたくさん残っておる。これから明治座に関わっている皆さんが、一緒になって考えていくべきことがたくさんあるようです。

明治座維持補修基金
平成 14 年の通年開館の際から、一口 300 円の寄付金を集う活動を行い、計 2000 万円が集まりました。この資金がきっかけとなり、今回の改修へとつながりました。



一口 300 円の割札

寄付の方法

1. 寄付金額にお金を入れ、割札を購入します。(一口 300 円)
2. 割札の左側に居住所・氏名をご記入ください。
3. 紙を中央よりふたつに折り、中央を(指の爪で)中央を折さずながら折るの「コツ」です。
4. 半分の左部分を明治座印に掛けます。右側部分は収蔵庫に納めさせていただきます。



明治座耐震改修検討委員会



明治座 調査

地域住民の協力による大掛付け



歌舞伎保存会：歌舞伎道具



明治座保護会：娘引き幕

この文化財の修復工事は「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用して整備しました。

「明治座」 樽葺き (くれぶき) への挑戦

樽葺きについて

今回の改修は、明治座の文化財的・意匠的価値を損なわない改修を実現することに重点が置かれたことに加え、外観を創建当時の姿に戻すという試みも加えられました。屋根の改修は、クaryanaなどの樽葺き石置き屋根で復元されることになりました。昭和30年代まで、この地方の家々は樽葺き石置き屋根があたりまえで、集落景観を形成していました。そうした石置き屋根の文化を後世に伝えていくことも大切なことであると考えました。

当時の加子母地域では、樽板を各戸で作り、庇の下や屋根裏にストックして、必要に応じて自分たちで屋根の修繕を行っていました。農閑期になると木曾谷や遠く伊那谷まで5〜6人の班を編成して樽板づくりに出発に行ったそうです。そうした世代は既に他界し技術は風化していました。

それでも試行錯誤しながら、手さぐりの樽板づくりが開始しました。しかし、先人の樽板づくりの域に達することはなかなか難しいことでした。そんな折、「飛騨の里」で山口末造さんに樽板作りのご指導をいただきました。加子母から林業研究グループのみなさんや木工職人など10数名で、山口さんの指導を仰ぎに出かけました。これを契機に、樽板作りの効率が上がり製品の質も向上しました。



樽師人 山口末造氏の実演見学の様子 (飛騨の里)



山口末造氏

「立派なものに仕上げ、長持ちする技術を伝えたい。自分が経験した技術をすべてお話しし、後世に残してもらえたら」と。昭和2年、飛騨市古川町生まれ、19歳で樽 (くれ) 職人の道に入られ、昭和56年から高山市の飛騨民俗村「飛騨の里」で樽削ぎの実演を行うなど、重要文化財等の補修維持管理に努めてこられました。今回の明治座改修にあたり、永年積み重ねられてきた伝統的な技術の継承に向けて絶大なご尽力を賜りました。

樽葺き指導

樽板の製作



●栗板班 (コメント 岩木誠さん)



●サワラ班 (コメント 桂川隆さん)



●安江瓦店 (コメント 安江真佐雄さん)

工場は4人で作業して、栗の樽板をつくっています。素人から始めてから、3月に行った飛騨の里の山口さんの指導後、やり方がはつきりわかり軌道に乗ってきました。最初は機械で効率を上げて早くやるように希望を持っていましたが、材料にはクセがあって素直に割れてくれない。今は、手でへぐ人たちが作業しやすいように考え方を考えて、大割は機械でやって、最後の板へぎは手でやっています。

手が重要

手は、力が入りやすく曲げやすい。薄く板をへぐには柔軟性も必要で、割れていく方向を裏表にしなから調整してへいでいく。材料が厚いと大変だから、その部分は機械を使っているわけやね。板へぎには、なるべく機械を使わないのがベストだと思っておる。やっぱり昔の人はすごいね。全部手でやっていて、機械では真似できない。それが魅力やね。

加子母総合事務所の車庫で3月末から6人で作業しています。作業は、材料によるが1日1、5m程度。なかなか難しい

なかなか難しい

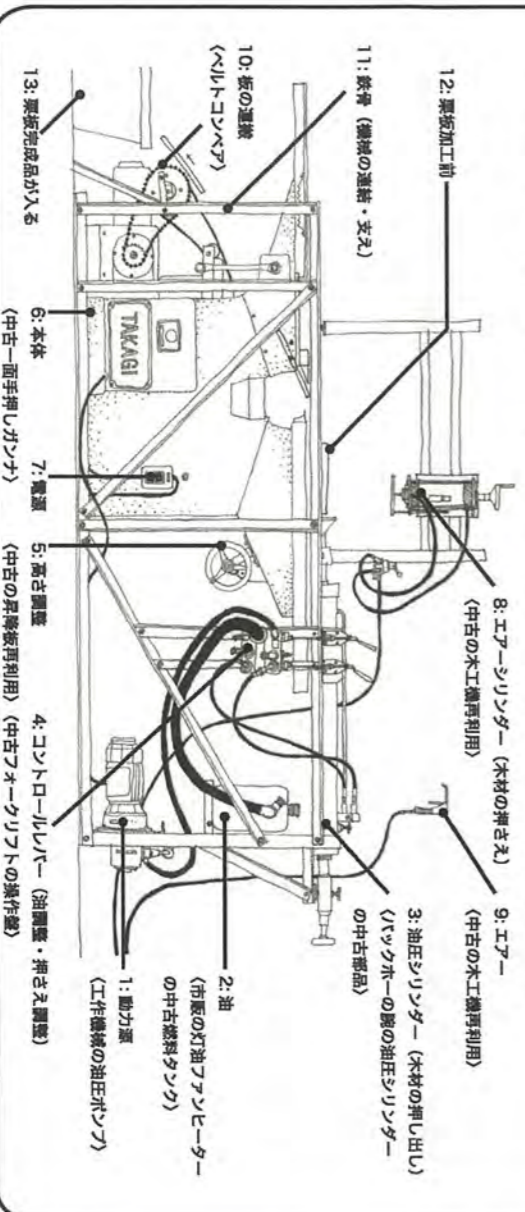
板へぎは、初の仕事で、みんな手間取った。材は節がなく気心のいいものはパーンと割れる。しかし、刃物を入れた方と入れない方で、なかなか厚さが揃わない。量より質にしたいけども、木によって一本一本できるものは違うし、パツと見てもわからない。とにかく研究しなきゃならん。

子供にも誇りを持って言えるわね

明治座がある以上は、補修していかないといけないし、後継者はいらぬ。去年まで板をへぐなんてことは思ってもいなかったが、2月の会合で頼まれて、なんとかみんなやろまいかとなった。6人でやった仕事は、明治座に使われて残っていくことは誇りに思っておる。

樽葺き用栗板製造マシン

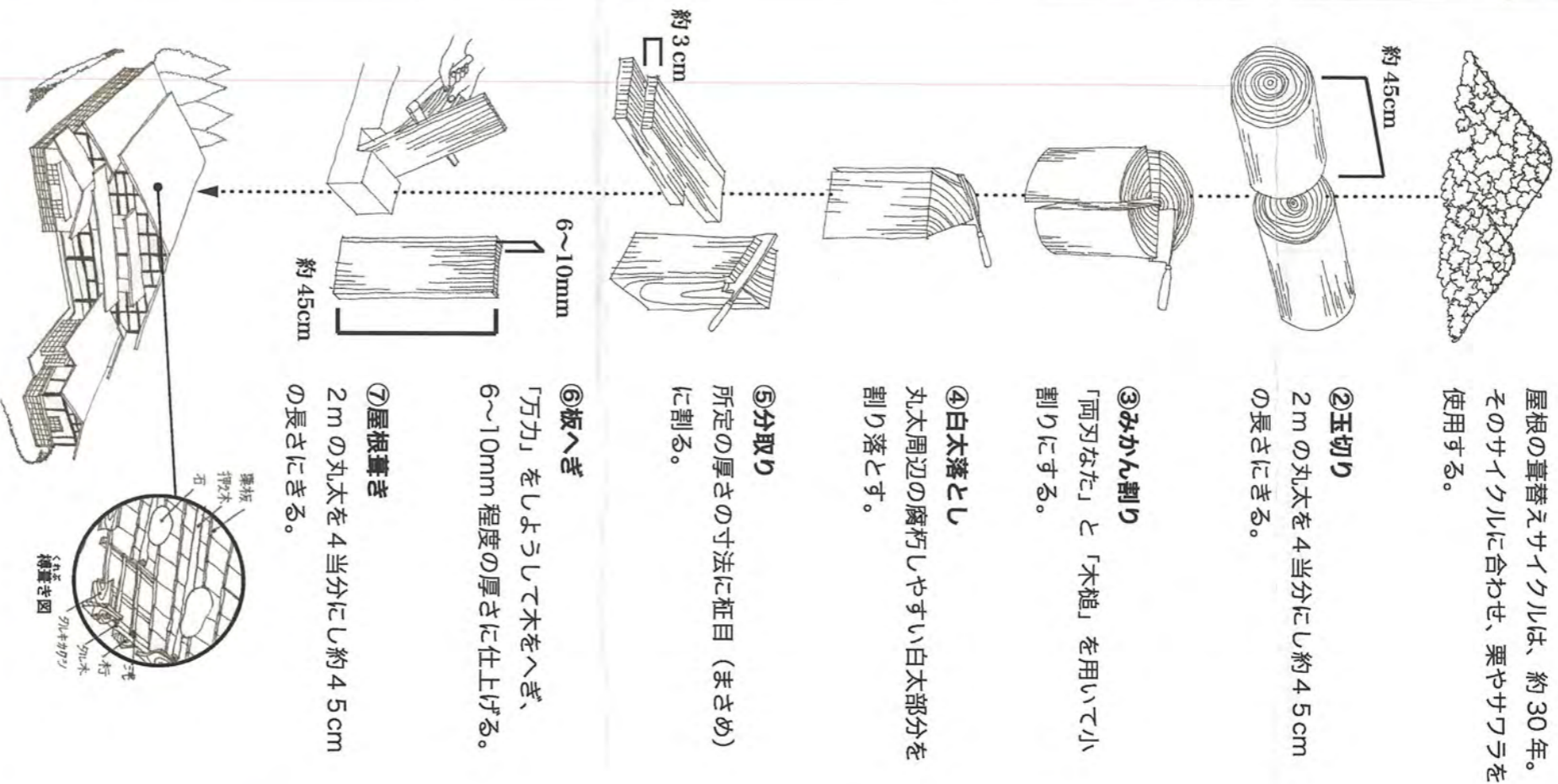
栗板は雨に強く、耐久性が高いため屋根材として最適です。一方で栗は加工が難しく、現在、板を量産する技術がありません。そこで、人の手による柔軟性と機械の効率性・正確性の双方のメリットを活かした生産方法を探りました。木材のクセに対して機械の正確性を合わせるには難しく、試行錯誤を繰り返した結果、今回の「樽葺き用栗板製造マシン」が開発されました。マシンにより栗板の大割を行い、最後は人の手による仕上げを行います。マシン製作には、いろいろなパーツを寄せ集め、開発されました。では、それぞれのパーツが何の部品なのか、またパーツの役割を解説します。



この文化財の修復工事は「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用して整備しました。

★明治座 樽板の製作について

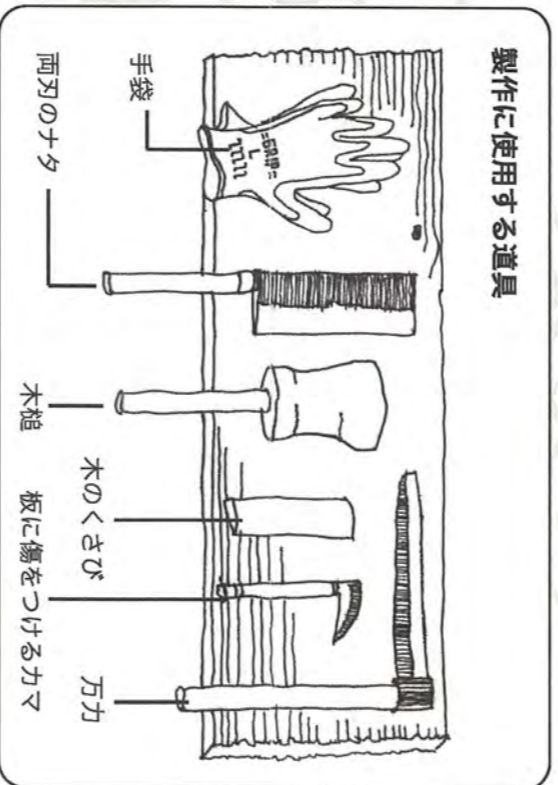
樽板の作成の流れ



樽板製作作業の様子



万力と木槌を使い、板をへぎます



屋根仕上げには若者が協力



加子母中学校 全校生徒81名が石に将来への願いを込めました。



石置きの施工は、加子母木匠塾の学生達も協働で行いました。



セメント瓦の屋根



瓦の下に眠っていた創建時の樽葺き

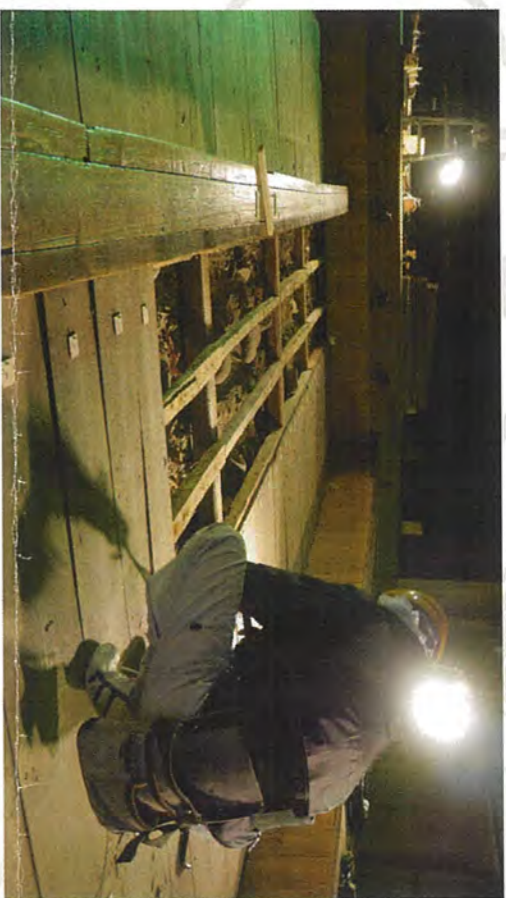


樽葺き石置き屋根

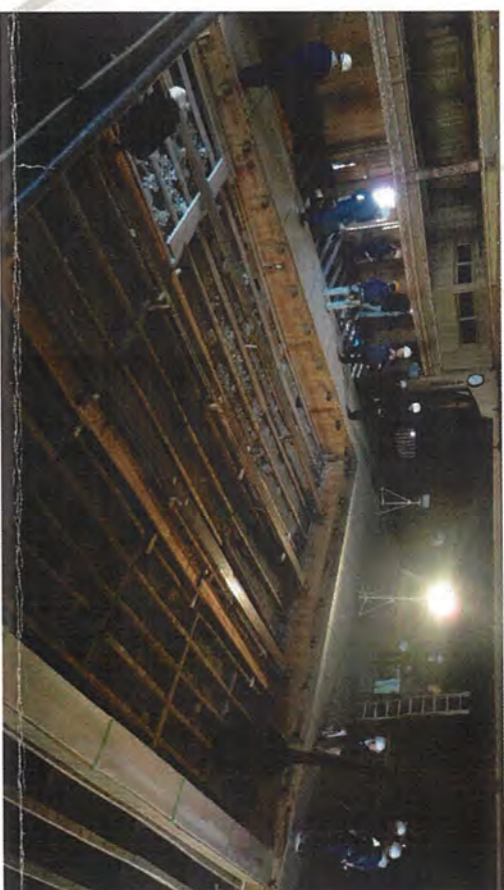
この文化財の修復工事は「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用して整備しました。

★明治座

伝統構法による改修 - 石場建てを残す技



床板撤去作業 一枚一枚丁寧にはがしていきます。



床板撤去後 腐朽箇所があらわになりました。

根継ぎ



腐朽した柱



十字目違

金輪継ぎ

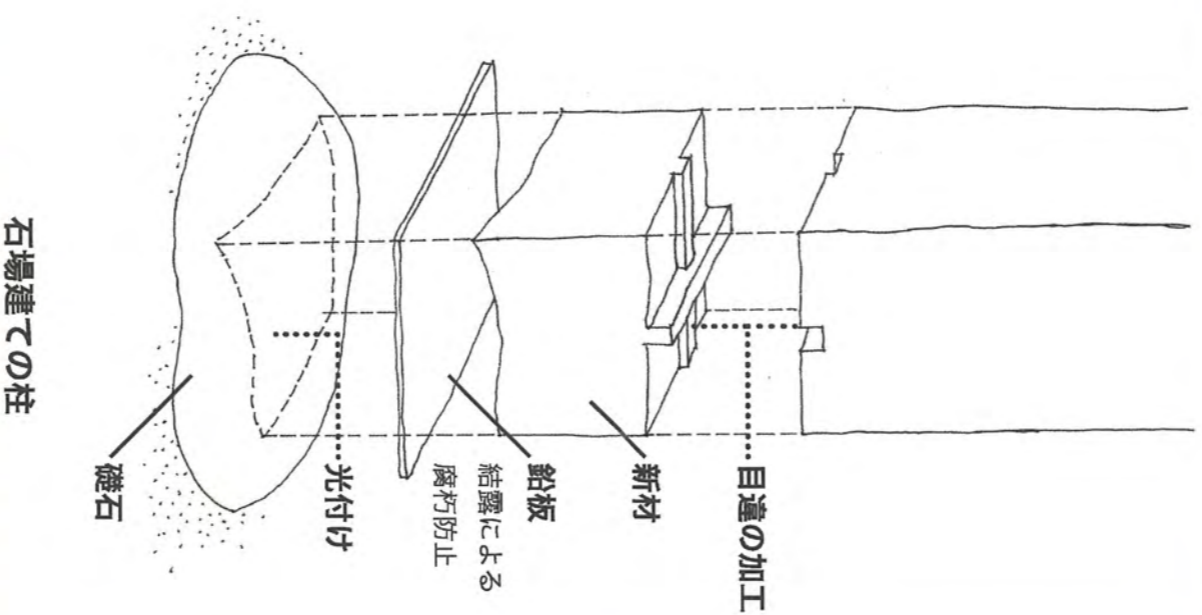
根継ぎにより腐朽箇所の修復と不陸修正を行いました。



床板復旧

根継ぎ作業の流れ

- ① ジャッキアップ
- ② 腐朽箇所の切断
- ③ 柱下目違の加工
- ④ 新材 目違の加工
- ⑤ 新材 光付けの加工
- ⑥ ジャッキダウン
- ⑦ 完了



石場建ての柱



この文化財の修復工事は「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用して整備しました。

明治座

伝統構法による改修 — その他修復



漆喰壁修復 (左官工事)



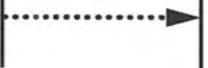
耐力壁による補強



小屋組の修復



根木・大引の修復



改修前



外観：セメント瓦屋根

改修後



外観：樽葺屋根



この文化財の修復工事は「清流の国きふ森林・環境税」を活用して整備しました。

かしも 加子母 × NIT DESIGN PROJECT

NIT DESIGN PROJECT (NDP) とは

「すごい名工大、見つけます」

名古屋工業大学の特色を生かした製品の開発や本学のイメージ向上につながるデザイン業務を学生が主体となって行うことで、本学のさらなる知名度、ブランド価値の向上を目的としています。さらに、学生が自らの思いを形にし、発信することでの実績と多彩な人間関係を構築する機会を増やし、学習意欲の向上と優れた人格の形成を図ることを目的とします。NDPでは、藤岡研究室のデザイン依頼としてプロダクトや明治座グッズ制作を2014年6月より進行中です。

おひねり娘。

「おひねり娘。」は明治座の顔とも言える娘引き幕に描かれているデザインをもとに制作した、おひねり用の包み紙です。青を主体とした色鮮やかな娘引き幕のデザインの紙でおひねりを作ることによって舞台をさらに華やかにし、役者に花を添えてくれます。



おひねりの包み方



紙を裏向きに置き、中心に包む小銭を置きます。



小銭を包むように紙の端を集めます。



紙を束ねて持ち、小銭の部分をひねります。



完成！役者に当たらないよう下から投げてください。

役者に添える花

おひねりは地歌舞伎の大きな楽しみの一つで、小銭を紙に包んで役者達の足下に投げ込むというものです。おひねりを投げるタイミングには決まりはなく、お目当ての役者や子供の晴れ舞台、役者が見えを切ったときなどに投げます。地歌舞伎特有の光景なので初めての方でも舞台を盛り上げるようにおひねりを投げ込んでみてください。

華やかな娘引き幕



2014-0215

加子母木エプロダクト

第1弾として2つの作品(梅田木工・細川工芸 共同)を、「清流の国 森の恵み大賞」というコンペに提出しました。加子母の木工所の技術と名工大生の工学的なアイデアを組み合わせることで制作した作品です。

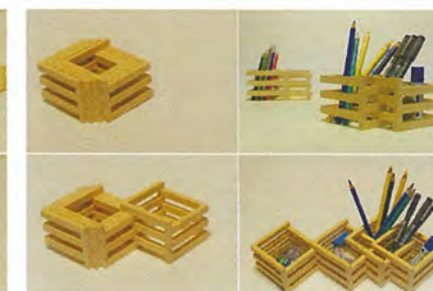


『オリモク』



折り紙の構造と木の素材感を組み合わせた作品です。折るとペン立てに、広げるとテーブルマットのように木がまるで折り紙のように形を変えてくれます！

『Grid Box』

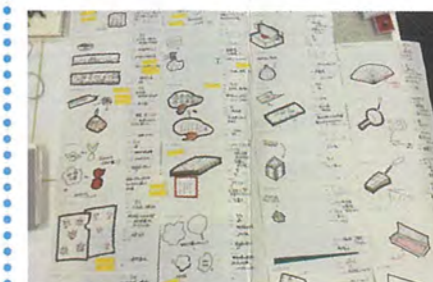


格子状の箱のペン立てです。単純な箱を格子状に変化させることで重なりを持つ箱に変化させました。自分が使いたい形に自由に変形させることができます！

2015-

明治座グッズ

明治座の改修を機に明治座のグッズ制作が始まりました。明治座に来た人たちがより加子母を知り、好きになってもらえるようなグッズを制作しています。第1弾は「おひねり娘。」を制作しました。



明治座グッズ制作のためのアイデアスケッチ。ここからグッズ化するものが選ばれていきます！！



第2弾はマスキングテープを制作しています。加子母の四季折々の風景を描いていきます！乞うご期待！！



2014年9月号 特集：最後の歌舞伎!？ 表紙

3年目の歌舞伎 加子母中学校長 原嘉幸

第42回加子母歌舞伎公演

3年目になっているんな役をやらしてもらって、それぞれの個性が違うでくるといふのを教えてもらって、ひとつひとつの役になりきるといふ役をやりますんで、稽古で常に先生から「もっと悪く」とか、「もっとがそれぞれが違う」といふのが面白いところだと思います。今年も頑張っ

というのがわかって、その役の性格とか背景などが台詞のふしまわしにうことが難しいなと思い、勉強になっています。面白いのは3年とも悪凄みを」とかって言われています。3役とも泥棒であったりするのでやりたいと思います。

稽古の度に満足感 加子母中学校教頭 清水英彦

なかなか普通では体験のできない舞台に立たせてもらって難しいですけど今年出させてもらって良かったなと感じながらやっています。最初は場につれて、思い描ける様になってきたのと、校長の役と掛け合う場面なに立っている校長先生とはだいぶ違うとは思いますが、中学生が稽古しすね。こんなに表現力があるんだあって、学校でも明るく楽しくやっ

ど、心地いい緊張感と快感が有ります。稽古の度に満足感があるので、面や状況がなかなか理解できないままやっていたんですけど少しずつやるんかも状況を理解してできるようになってきました。すでに2回も舞台ているのも見ましたが、小学生の頃からやっているだけあってちがいますけど、学校で見るのとまた違う個性が輝いてみえます。

最後の歌舞伎!?

加子母歌舞伎公演が終ると明治座は、耐震改修工来有るべき姿にもどります。石場建てのまままへと戻り、明治座の魅力が最大限に引き出される。

事に入ります。工事は伝統講法を用い明治座が本に、屋根は現在のセメント瓦から元の板葺き屋根いよいよ現状で最後の歌舞伎公演は9月7日(日)!

職業関係なくいろんな人がでてる

名古屋工業大学 大学院1年 佐野智哉

最初は台詞がたいへんと思いきや、仕草や動作の型がむずかしいです。武士の他に百姓役もやることになったんですけど、まだ百姓の感じかったです。浴衣を着たのも初めてで最初の練習ではテンションがあたり、校長先生や教頭先生がいたりしていろんな方が関わっているのが

役に合った身振りなんかです。台本とビデオ見ただけではできないのがわからないです。稽古の時に浴衣を着てやるっていうのも最初知らなりました。明治座の空間のイメージもわかりました。駐在さんまで面白いです。

vol.115
monthly issue

November 2014

かしも通信



明治座の姿を変えずに残したい

加子母総合事務所長 内木哲朗

2014年11月号 特集：明治座の姿を変えずに残したい 表紙

特集 明治座平成の大改修 第一陣「明治座の姿を変えずに残したい」内木哲朗

「石造りで、木造り」
明治座の耐震改修工事、古くから大工の職人が手作業で、木造りの柱や梁を、石造りの基礎の上に組み立てていく。この工法は、明治座の姿を変えずに残したいという思いから、大改修工事でも採用された。加子母総合事務所長 内木哲朗

明治座の耐震改修工事、古くから大工の職人が手作業で、木造りの柱や梁を、石造りの基礎の上に組み立てていく。この工法は、明治座の姿を変えずに残したいという思いから、大改修工事でも採用された。加子母総合事務所長 内木哲朗

明治座の耐震改修工事、古くから大工の職人が手作業で、木造りの柱や梁を、石造りの基礎の上に組み立てていく。この工法は、明治座の姿を変えずに残したいという思いから、大改修工事でも採用された。加子母総合事務所長 内木哲朗

明治座の耐震改修工事、古くから大工の職人が手作業で、木造りの柱や梁を、石造りの基礎の上に組み立てていく。この工法は、明治座の姿を変えずに残したいという思いから、大改修工事でも採用された。加子母総合事務所長 内木哲朗

明治座の耐震改修工事、古くから大工の職人が手作業で、木造りの柱や梁を、石造りの基礎の上に組み立てていく。この工法は、明治座の姿を変えずに残したいという思いから、大改修工事でも採用された。加子母総合事務所長 内木哲朗

明治座の耐震改修工事、古くから大工の職人が手作業で、木造りの柱や梁を、石造りの基礎の上に組み立てていく。この工法は、明治座の姿を変えずに残したいという思いから、大改修工事でも採用された。加子母総合事務所長 内木哲朗

明治座の耐震改修工事、古くから大工の職人が手作業で、木造りの柱や梁を、石造りの基礎の上に組み立てていく。この工法は、明治座の姿を変えずに残したいという思いから、大改修工事でも採用された。加子母総合事務所長 内木哲朗

明治座の耐震改修工事、古くから大工の職人が手作業で、木造りの柱や梁を、石造りの基礎の上に組み立てていく。この工法は、明治座の姿を変えずに残したいという思いから、大改修工事でも採用された。加子母総合事務所長 内木哲朗

明治座の姿を変えずに残したい

加子母総合事務所長 内木哲朗さんにお話しをうかがいました。



We Love Meijiza

2014年11月号 特集：明治座の姿を変えずに残したい 記事



明治座 工事実況 その①—起工式—

「まだまだやらなきゃならんことがたくさん残ってる。」
 12月11日明治座保存修理工事の起工式が開かれました。
 工事関係者を初め、明治座に関わりの深い面々が集う中、明治座改修検討委員会会長 熊澤和之さんが起工式の挨拶でそのようなことをおっしゃっていました。起工式自体は30分ぐらいの短いものですが、明治座の独特な空気に包まれる中、僕も同じようなことを思いました。集まった人たちも同じ気持ちだったのでしょう。「みんなで守り、大いに活用していきたい。」「建物は良くなるのだから、中身ももっと活用していきたい。」というようなお話を伺いました。
 明治27年に地元住民連の力で建設されてから、120年間で怪しみました。雨漏りを防ぐために屋根替えをしたり、天井を張ったり、多くの人々の手によって、明治座は現在まで守り続けられてきました。そして、またこのように大きな一歩を踏み始めようとしています。「こういうふうになるとは思わなんだ。本当にとってもありがたい。1日でも早く完成してオープニングのことを考えたいと思ってる。」明治座の顔として管理人を続けてきた安江智夫さんはそのように語ります。明治座の姿がこれから先100年200年と続いていくためには、みんなで守っていかねければならない。「まだまだやらなきゃならんことがたくさん残ってる。」これから明治座に関わっていく僕たちが、一緒になって考えていくべきことがたくさんあるようです。

2015年1月号

明治座工事実況その1 起工式

明治座 工事実況 その2

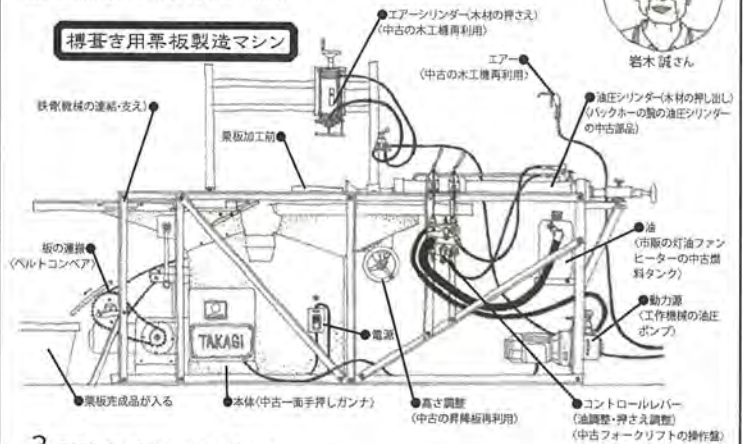
1 明治座改修工事の目玉「樽葺き」

明治座の屋根が、瓦から栗板の安へとガラッと変わります。使用枚数は、7万5千枚とも10万枚とも言われています。その栗板はどこで、どのように作られていくのでしょうか？
 今回、その真相を解明するために、岩木誠さんの工房へ突撃しました！

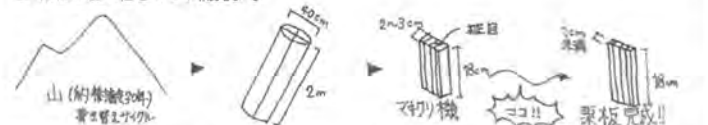


2 「樽葺き用栗板」製造マシンの全貌！

工房に訪れ目に入ったのは、謎のマシン。これはいろいろなパーツを寄せ集め、開発されたようです。では、それぞれのパーツが何の部品なのか、また「パーツ」の役割を解説します。



3 栗板生産工程とマシン開発まで



栗板は雨に強く、耐久性が高いため屋根材として最適です。一方で栗は加工が難しく、現在、板を量産する技術がありません。そこで、人の手による柔軟性と機械の効率性・正確性の双方のメリットを活かした生産方法を探りました。木材のクセに対して機械の正確性を合わせるのは難しく、試行錯誤を繰り返した結果、今回の「樽葺き用栗板製造マシン」が開発されました。マシンにより栗板を量産し、最後は人の手による仕上げを行います。この生産方法による樽葺きは、文化財に使用できるだけの完成度があり、これから明治座だけでなく、各地に点在する文化財の修復に利用できる可能性があります。

2015年2月号 特集：明治座工事実況その2 樽板マシン



明治座 工事実況 その3

屋根の葺替え

工事の様子を治っていく中で、今回貴重な写真をみつけました。(梅田剛作さん撮影) 約40年前の写真。住民が寄り集まって屋根瓦を葺替えています。この写真から、明治座は今までも住民たちの手で「保存修復」が繰り返されてきたことが伺えます。その結果、これまで守り続けられ、今回の保存修復工事に結びついたのだと感じました。明治座保存修復工事のポイントは、屋根が瓦葺きから栗板による樽葺きになること。40年前も、みんなが集まって作業してきたように、これからもこの写真のような姿になれば、...、と思います。

2015年3月号
明治座工事実況その3 昭和の屋根替え



明治座 工事実況 その4

3月7日 セメント瓦の取り外し工事が行われました。いま明治座の前を通りかかってみると素屋根に覆われ、普段とは違った姿になっていることがわかると思います。素屋根は工事中、雨や雪から明治座を守ると共に、足場が組まれているため、いつもとは異なる視点から明治座を見ることが出来ます。
今回は、素屋根に覆われた内部の様子を解説します。
まず足場をのぼっていくと、屋根の目の前まで行くことができます。明治座と記された鬼瓦！！からこいいですね〜。そして屋根の大きさに圧倒されます。7日には、このセメント瓦が一気に取り外され、その下に眠っていた「トントン葺き(樽葺き)」が姿を現しました。
次に明治座内部に入ると床板が取り外され、「石場建て」としての姿を見ることが出来ます。石場建てという工法は、なんとなく理解できますが実際に目の当たりにすると驚きました。本当に石の上に一本の柱だけが立ち、この大きな屋根を支えているのだと実感しました。現在、明治座は床板や瓦が取り外されて解剖されているような状態です。この状態をみなさんに見てもらいたいと思います。
今後、2週間に1度ぐらい見学会を開こうと思いますので、その時にはぜひご参加下さい！！

2015年4月号
明治座工事実況その4 樽葺きと石場建て



明治座 工事実況 その5

トントン葺き(樽葺き)に向けて



現在明治座では、大工さんが柱、左官屋さんが壁の修復工事を行っています。またトントン葺きに向けて、加子母のあちこちから人が集まり、試行錯誤しながら板へぎをする中、下記の日程で研修会も行われました。
3月24日 板へぎ職人山口未造さんの実演見学(飛騨の里)
3月30日 板へぎ講習会(加子母総合事務所の車庫)
4月1日 山口未造さんの明治座見学
24日は、屋根材をつくる岩木工芸・優良材生産クラブ、屋根を葺く安江の方々など約20名で訪れました。その中で板へぎ職人の山口さんが、どんな技術や道具を使っているのかじっくりと見学しました。30日の講習会は、道具が足りなかったり、板へぎが初挑戦であったこともあり、なかなか一筋縄ではいきません。さっそく牧戸の家をまわって、道具(両刃のナタ)を振り出したり、みんなで話し合いながら、板へぎを習得していきました。
トントン葺きへの道のりは本当に大変だと感じますが、いろいろと集まり乗り越えていく過程には、多くのエネルギーや熱意が込められ、知恵が集結し、技術が継承されつつあると感じます。また山口さんの明治座見学後は、お手紙が届き「立派なものに仕上げ、長持ちする技術を伝えたい。自分が経験した技術をすべてお話しし、後世に残してもらえたら」と書かれていました。今回の明治座保存修復工事により、屋根が瓦葺きからトントン葺きになることがいいことか？賛否両論だと思います。しかし、事実として一人の職人さんが元気になり、すべてのことを伝えたいとまで思っています。このことから、明治座は単に修復を行っているだけでなく、(伝統や文化、技術を継承していく実験)を行っている真ん中だと感じます。

2015年5月号
明治座工事実況その5 トントン葺きに向けて



明治座 工事実況 その6

へぎ板募金の開始



5月5日に下郷神社春祭りが行われました。
それに併せて明治座見学会が開かれ、同時に「明治座維持補修基金」の取り組みも始まりました。明治座では、これまでも1口3000円のキッズを募り、約2000万円の寄付金が集まりました。(平成14年〜26年)その結果が、今回の保存修復工事へとつながっています。
明治座工事は今秋完成し、11月には加子母歌舞伎のこけら落とし公演が行われます。今年で12年目を迎えた武蔵野美術大学の歌舞伎舞台演出や17年目のクラシックコンサートの活動も毎年続けられ、今回復活するトントン葺きは30年に一度、葺替えをしています。
今後それらの活動を続け、明治座を維持していくためにも、そして次の100年へとつなげていくためにも、「へぎ板募金」を行っていきます。へぎ板募金は、実際に屋根材として使うへぎ板に名前を書いて寄付して頂くものです。
明治座工事を完了に向けて、この他にもいろいろなお話が起りつつあると思います。今後その動きを追い、明治座について考えていこうと思います。
《明治座 維持補修にご協力ください》
へぎ板募金
(大)1000円 (小)500円

2015年6月号
明治座工事実況その6 へぎ板募金の開始

明治座 工事实況 その8



石にメッセージを

明治座は現在、屋根板を葺き床板を戻し、徐々にもとの姿に戻りつつあります。舞台の完成が近づく中、暑さもぐっと増してきて、子供たちの待ちに待った夏休みに入りました。いよいよ歌舞伎の稽古もはじまります。

そんな夏休み直前の7月14日、加子母中学校のホールに、ごろごろと石が並び、全校生徒81名が自分の夢や願いをその石に書いていきました。「楽しい生活が送れるように」や「明治座が残り続けるように」というような内容が思い思いに書かれ、この石が明治座の屋根に置かれていきます。今後、明治座はどうなっていくのか。子供たちや加子母の将来はどうなるのか。

楽しそうに生き活きと書く姿をみると、こうした活動の一つ一つが良い方向へ向かっていきつかけになるのだろうと感じます。

2015年8月号

明治座工事实況その8 石にメッセージを

明治座 工事实況 その9

歌舞伎の稽古開始

夏が過ぎ、工事も終盤に差し掛かってきました。例年だと歌舞伎も本番間近となり、明治座が賑やかになる頃です。しかし、今年は工事中のため、加子母歌舞伎公演の時期がずれ、11月29日が本番です。稽古も例年より遅めの8月5日から始まりました。会場は、ささゆり会館。いつもと違うことばかりで、慌ただしい中、やはり明治座のゆったりとした雰囲気の良いさを改めて感じます。

歌舞伎の役者には、小中学校の先生や駐在さん、子供たちなど普段は違う役柄の人たちが地域のおちこちから集まります。その役者たちが、同じ舞台を作り上げていく。稽古中は、なんだか不思議な時間が流れ、地域のつながりを強く感じます。

今年は、リニューアルされた明治座での公演。「こけら落とし公演」となります！
どうなるか楽しみですね。



2015年9月号

明治座工事实況その9 歌舞伎の稽古開始

明治座 工事实況 その10

明治座が金髪!?

屋根が葺き終わり、工事の柵も外れました。外観が見えるようになったので、もう明治座の姿を見た人もいると思います。どう思ったでしょう？中には、明治座が金髪だ!!という意見もありました。改修工事を終え、若い姿に生まれ変わった明治座。その姿を見られるのは、今だけです。そのうち、茶髪になって、黒髪になって、洗い明治座に戻ります。そういった屋根の表情の変化を見られるのも、楽しみです。もうまもなくで完成し、10月4日にはオープニングイベント。ぜひ、完成したばかりの若い明治座を見にお越しください!



2015年10月号

明治座工事实況その10 明治座が金髪!?

特設ページ「明治座改修工事」の構成

- 0：歌舞伎 2014年7月～9月7日
- 1：工事前記録撮影① 2014年8月14日・25日
- 2：工事前記録撮影② 2014年10月18日・11月2日
- 3：片付け① 2014年11月6日～8日
- 4：工事前記録撮影③ 2014年12月4・9日
- 5：起工式 2014年12月11日
- 6：片付け② 2014年12月19日
- 7：栗板生産 2014年10月～2月
- 8：畳取り外し+番付 2015年1月13・14日
- 9：床板取り外し 2015年1月17～2月
- 10：現場の気づき 2015年2月9日



<http://meijiza.jp/>

参加イベント・プレゼン活動一覧

- 1：第42回加子母歌舞伎公演 2014年9月7日
- 2：平成26年度域学連携活動報告会 2015年2月21日
- 3：岐阜女子短期大学【講義】 2015年5月29日
- 4：岐阜県活性化ファンド申請【明治座活動概要プレゼン】 2015年7月3日
- 5：加子母上桑原区老人クラブ【明治座改修工事プレゼン】 2015年7月18日
- 6：H&C財団 活動報告会 2015年9月5日
- 7：加子母中桑原区老人クラブ【明治座改修工事プレゼン】 2015年9月11日
- 8：全国育樹祭サテライトイベント「改修工事のあゆみ」 2015年10月4日
- 9：ローカルナイト～京都で出会う岐阜～ 2015年10月8日
- 10：高校生のための街なかオープンカレッジ 2015年10月18日
- 11：第43回加子母歌舞伎公演 2015年11月29日
- 12：平成27年度域学連携合同報告会 2015年12月17日



プレゼンの様子 (6：H&C財団 活動報告会 2015年9月5日)

平成26年度 加子母域学連携活動報告会



2015年2月21日(土)
ふれあいのやかたかしも

人口約3000人の山村、加子母。ここは、地域全体がフィールド、自然が教科書、地域住民が先生、そんな本来の学びの場が広がっています。

今度、オープンキャンパスを通じて、大学・産地・地域、それぞれの関係をまたいだ学びの場「加子母る大勢」を築き、これからの加子母の未来を共に考えていこうと願います。

1	体験イベント 13:00-17:00 ①農づくり ②古馬家次郎コンペ ③味噌づくり	地域住民が先生！ どなたもご参加ください。 ④山仕事・薪割り体験 ⑤歌舞伎舞台合演 ⑥自然体験
2	産産報告会 19:00-21:00 ①加子母木更敷(金7次郎) ②名古屋外灘大学 ③武蔵野経済大学有馬 コーディネーター 千田良仁氏 (一般社団法人R&D)	今年1年の活動レポート！ ぜひお聴きください。 ④名古屋工業大学 ⑤日本福祉大学
3	大交歓会 21:00-	大学・産地・地域をまたぐ ネットワークづくり

【企画】加子母むらづくり協議会 【実施】中津川市、かしも水産漁業行徳委員会、加子母Lab、ハウジングアンドコミュニティ財団 【協賛】朝陽【問い合わせ】加子母産産事務所 tel:0573-76-2111 mail:saishinno-office@city.nabotsugawa.lg.jp 【会場】〒505-0421 岐阜県中津川市加子母3800-3

第27回開づくりシンポジウム 「山村文化の伝承とこれからの地域づくり」
日時：2月22日 10:00-16:00 会場：ふれあいのやかたかしも

あわせてご参加ください！

20th

加子母産産事務所
ハウジングアンドコミュニティ財団 協賛

2：平成26年度域学連携活動報告会 チラシ

地域連携プロジェクト 岐阜大学地域科学部・岐阜市立女子短期大学・中央学院大学
後援：恵那市・中津川市・岐阜県

高校生のための街なかオープンカレッジ 2015 在東美濃

東濃を学ぶ：A Train = 明知鉄道で行く、岩村城下町

高校生の皆さん、今、受験や進学に向けて、どのような大学や学部で学びたいのか、いろいろと考えていませんか。岐阜県の三つの大学が共同で開催する街なかオープンカレッジは、こんなことを皆さんに伝えたいと思っています。

■多彩な分野から学べる：経済学・経営学、まちづくり・自治・環境・文化・社会、デザイン・ファッション
まちづくりなどのテーマについて、いろいろな専門分野の見方を通じて、大学での学び方を体験してもらいたいと思います。

■大学から、就職、社会や地域に関わっていくために
大学で学ぶの先で、職場や地域に自分にとって何があるのか、イメージしてみませんか！
市民の皆さん、行政とも連携して、岩村城下町の中で地域に関わったオープンカレッジを行います。

10月18日(日) 恵那駅：9時28分発、復路は岩村駅 16時45分 (30人まで車高値り切りで、乗車費は不要です) □連絡先：岐阜大学地域科学部
整理の都合上、できるだけ事前にお申し込みください。
9月1日より30日まで、郵送、FAX、e-mailのいずれでも可、高校でまとめていただくと幸いです。
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学地域科学部
tel: 058-293-3002 fax: 058-293-3008
e-mail: chikkie@flu-u.ac.jp
□会場：岩村コミュニティセンター
〒509-7403 恵那市岩村町 1657 番地 1
tel: 0573-43-3722

午前部：9時半～12時
① **明知鉄道と地域づくり**：車中で説明
丸山朝夫(明知鉄道)・関谷次博(中央学院大学)
② **東濃の歴史とまちづくりと市町村誌** 西村 幸(岐阜大学)
市町村合併後の地域づくりに関わっている大学の先生のミニ講義
③ **地域と学生をつなぐ**：佐野智博(名古屋工業大学大学院・加子母)
大学での勉強や生活、学生と地域との関わりについて、
大学生と高校生の皆さんで、一緒に話してみたいと思います。

(昼食は、各自持参してください)

午後部：13時～16時
④ **岩村城下町の町並みのまち歩きとワークショップ**
榊田良造・畑中久美子(岐阜市立女子短期大学)
関谷次博・須藤大(中央学院大学)
富樫幸一(岐阜大学)
岩村の城下町(重要伝統的建造物群保存地区)を歩きます。建築や経営、まちづくりの視点から新しいことに気づかすです。まち歩きのとほ、まちづくりワークショップを体験します。




申し込み用紙 (10月18日の街なかオープンカレッジに参加します)

高校 _____ 学年 _____
氏名 _____

10：高校生のための街なかオープンカレッジ チラシ



昭和の大改修一屋根の葺替え

明治27年、地元住民がお金を出し合い、材料を山から伐り出し、汗水流して建てられた明治館。時には、雨漏りを防ぐために屋根葺きをしたり、天井を張ったり、多くの人々の手によって、明治館は現在まで守り続けられてきました。昭和48年の屋根の葺き替えは、住民が協働で行い、写真にもその様子が残っています。

今回の大改修のポイントは、屋根がセメント瓦葺きからトントン葺き(樽葺き)に変わることです。40年前も、みんなが集まって作業してきたように、またみんなで屋根の葺き替えができたら嬉しい活動を進めています。

平成の大改修一トントン葺きへ

起工式

「またおだやらなきやならんことがたくさん残っております。」12月1日、明治館改修工事 起工式の挨拶で明治館世話人代表の熊澤和之さん(76才)がそのようにことをおっしゃっていました。

起工式自体は30分ぐらいの短いものでしたが、明治館の独特な空気に包まれる中、集まった皆さんも同じ気持ちだったでしょう。「みんなを守り、多に活用していきたい」「建物は良くなるのだから、中身ももっと活用していきたい」というようなお話を伺いました。

また、明治館の職として管理人を続けてきた安江智夫さん(79才)は、「こころうふふになるは思わなんだ、本当にどうもありがとう、1日でも早く完成してオープンングのことを考えたいと思っている。」と語ります。

明治館の姿がこれから100年200年と続いていくためには、みんなで守り、みんなで考えていく必要があります。

地域と大学生たちの繋がりを深めるために地域の広報誌である「かしも通信」や工事記録を「明治館記録映像」により、工事の様子を発信・記録する中で、次の活動へとつなげていきます。

青年文化発祥の場

平成26年度も、5月にはクラシックコンサート、8月は加子母木塾、9月は加子母歌舞伎が行われ、加子母じょうで地域と大学が連携した取り組みが行われました。

その中で、平成27年2月21日には「郷学連携活動報告会「加子母の大学オープンキャンパス」」が開催され、山仕事や歌舞伎舞台づくり、古民家改修工への6つのイベントを行いました。

翌日には「山村文化の継承とこれからの地域づくり」といったシンポジウムも開催され、その中で明治館は「青年文化の発祥の場」であったことが発表されました。かつて明治



館では、歌舞伎だけでなく青年団の主演大会や演劇(バンド)など若者たちによる多くの活動が行われ、その過程で常に手が入られ守られてきました。現在の若者たちとの連携も、明治館が文化を創造してきた延長線上にあるのだと感じます。

120年の歴史をつなぐ

3月7日は、改修が進む中でセメント瓦が一枚一枚取り外され、その下に隠れていたトントン葺き(樽葺き)が姿を現しました。明治館内部に入ると床板が取り外され、「石畳」としての姿を見ることができ、石の上に一木の柱が立ち、大きな屋根を支えている明治館の骨格を目の当たりにし、これまで支えてきた偉大さを感じます。

このように今回の文化財としての修理工事は、床や屋根、壁などを一度取り外し、腐食部分の修復をしていきます。その後、一枚一枚、元の位置に戻していくため、屋根はガラッと変わるものの、内部は何も変化がなかったかのようになります。

工事中の明治館は、まるで解体されているような状態であり、これまで地域住民の手で修復されてきた遺跡を一望することができず。そこで、この状態をみんなに見てもらいたいと思い、地域住民向けに見学を開き、定期的に見学する機会を設けています。

トントン葺き(樽葺き)に向けて

明治館では、大工さんや左官職さんなど職人さんたちが修理工事をしていますが、トントン葺きに向けては、加子母のあちこちから地域住民が集まり、試行錯誤しながら板へぎを行っています。



54 加子母のつくり継承(後編)中継(1)

6：H&C 財団 活動報告会パンフレット 3/4



3月24日には、へぎ板の製造に携わっている木工所や林業グループの方など約20名で、高山市にある飛騨長谷村飛騨の里を訪れました。そこでは、奥内での板へぎ職人 山口未通さん(90才)に、数年前に板へぎの実演を行ってもらい、どんな技術や道具を使っているのかについて学びました。

しかし、道具が定かなくなったり、板へぎが初挑戦であったことにより、なかなか一筋縄ではいきません。そこで加子母じょうの家をまわって、かつて使われていた板へぎ道具(両方ウチ)を出し出し、みんなで話し合いながら、山口さんに学んだ技術を実践してみました。

また4月1日からは、山口さんが明治館見学に訪れ、懐かしいお手帳には「立派なものに仕上げ、長持ちする技術を伝えたい、自分が経験した技術をすべてお話し、後世に残してあげたい」と書かれていました。

今回の明治館工事により、屋根が瓦葺きからトントン葺きに変わることがいよいよか。加子母地域内で、メンテナンスや維持管理のことを考えると賛否両論です。しかし、事実とし

て一人の職人さんが元気にやり、すべてのことを伝えたいとまで思っています。このことから、明治館は順に修復を行っているだけでなく、伝統や文化、技術を継承していく実験を行っている員と一緒です。なんとこの知恵や技術を継承し、生業として定着していければと思います。

今後の予定

明治館維持補修基金

明治館の保存修理工事は今秋完成し、11月には加子母歌舞伎のこけろ祭りと公演が行われます。今年で、12年目を迎えた武蔵野美術大学と連携した加子母歌舞伎の舞台演出はこれからは続けられ、同様に21年目を迎えた加子母木塾塾生の活動も続いています。

今回復活するトントン葺き、少なくとも30年に一度は葺き替えが必要になります。そのためには、技術の継承はもちろんだこと、屋根材となるケシの育成や資金の確保が大きな課題です。今回の改修にも、平成14年から「明治館維持補修基金」として、1日300円で寄せられた寄付金約2,000万円が活用されました。今後さらに明治館を維持していくための資金確保に向け、実際に屋根材として使われていた「へぎ板基金」の取り組みも始めています。

明治館改修の広がり

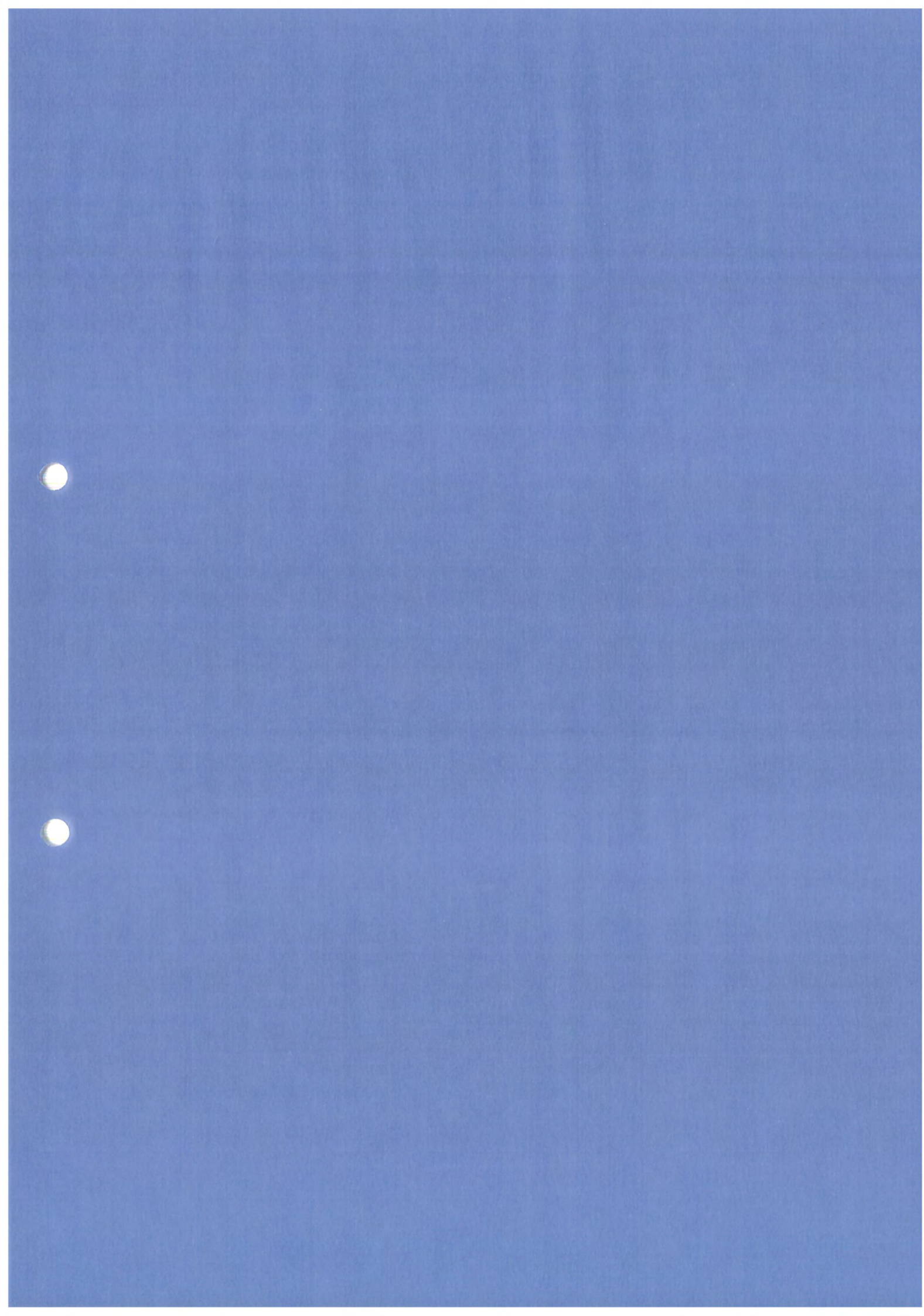
「明治館 平成の大改修」は、もう一方地域のひとと明治館との関わりを結び出す転機となり、新たな可能性が多生み出され、試行錯誤を繰り返しています。その中で生まれたつづきの活動としては、

- ・木の家を活かした生業づくり
- ・多様な多岐づくり
- ・過剰消費の削減
- ・板へぎの技術継承
- ・木匠塾を巡った伝統工法の継承
- 明治館を活かした地域づくり
- ・維持保存のための補修基金
- ・自主運営に向けた組織の強化
- ・地歌舞伎の伝承
- 地域と大学が連携した拠点づくり
- ・加子母通信や記録映像などの情報発信
- ・加子母 LAB 設立と木匠塾 古民家拠点の整備

これまでも明治館があるから活動が継続し、活動があるから明治館が残り続けられてきたように、新たな活動や関わりを育む中で、次の100年へ向け取り組みを模索しています。

56 加子母のつくり継承(後編)中継(2)

6：H&C 財団 活動報告会パンフレット 4/4



付録資料Ⅳ 広告・パンフレット

- ①明治座
- ②明治座改修工事
- ③加子母歌舞伎
- ④明治座クラシックコンサート

明治座ガイド

岐阜県指定重要有形民俗文化財

カブキの時は、『落首』さんに、青髪を絞ってもらいます。

化粧部屋

衣装部屋

壁の落書き
明治〜大正の落書きや昭和の青年団の落書きが落書きの宝庫です。
今は、落書き禁止!!

大道具部屋
大道具方の控え室。
40リある部屋です。

小道具部屋

小道具部屋

奈落 (からく)
舞台・花道下の総称。
廻り舞台をまわしたりスポンから出る役者が通ります。

小道具は、公演に合わせて、手作りしたものをたくさんあります。

下座 (げざ)
三味線・鐘・太鼓などのおはやしする場所。

天井を見上げると巨大な『廻り舞台』(はまりぶたい) 樹齢400年、H.5mもある巨木です。

カブキの時はココに美木太夫の跡をくります。

110才を超えるおばあさん幕せりおさわらないでネ。

娘引き幕 (むすめひきまく)
創建当時、地区の娘さんから贈られた引き幕。それぞれの風情と名前が精々模様の中に染められています。

廻り舞台 (はまりぶたい)
舞台セットを回転させ、場面転換をするカブキ独特の舞台機構。
直径5.5mの盆っ人カドまわします。

目前列は「おひかり」ひけるの「ココ」!!

スポン
七三の位置にあるセリ穴。芝居では、妖怪や七重などの役が登退場につかいます。

花道

平場 (ならば)
(客席)

仮花道

役者控
場の明れ舞台。
七三 (しちさん)
お花道と七三に分けて舞台が広い方の位置) には、役者が見得を切ります。

あゆみ
売子さんの歩く道。前の席の人が通ったり、もたれて座ったり、木にしたり。

飲食できるのも歴々の1つです。エチケットは守ってねの「みすみ」を志!

鳥屋口 (とりやぐち)
花道から出る役者が出番を待つところです。

後者の席でも舞台が見えるように平場には傾斜がついています。

板割看板 (いたわりかんぱん)
公演後に上げられた記念の看板。古いものは創建当時のものも残っています。

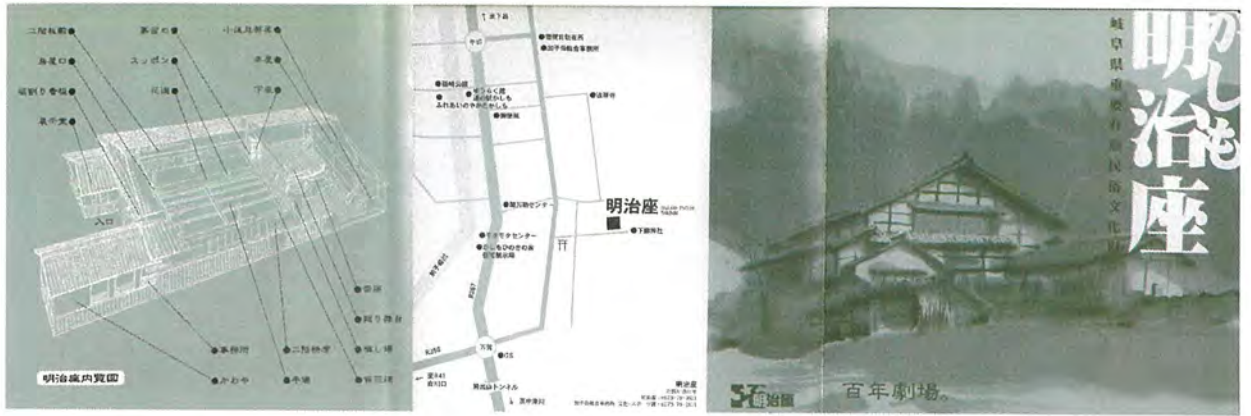
かしも 明治座
中津川市加茂町下巻原
TEL 0573-79-3611
月休/9AM-5PM
http://meiji-za.jp/

明治座を守ろう!!
入口で、明治座維持機構基金受付中。1口300円〜よろしくおねがいします。

明治座は、明治27年生まれ。たくさんの人口が、木をせりだし、石を運び、すべて手作業で建設されました。110才を超えた今も、地区の人々に守られ、毎年、地歌舞伎やコンサートの舞台として、活やくしています。

行方不明は11時20分まで10.15

明治座館内案内



明治座パンフレット 表



明治座パンフレット 裏

明治座

Kashimo MEIJIZA Theater



明治27年創立。山びつとつむむ目をひいた「建物が見えません。明治27年、村の有志たちによって建てられた芝居小屋「明治座」です。廻り舞台やスッポン、両花道を備えた劇場形式の農村舞台で、県指定有形民俗文化財に指定されています。

①明治座入り口
入り口の看板「明治座」の文字は、元村長 丹羽太郎64によって

②花道
舞台に向かって左側（下手）にあるのが花道で、七三の位置に切り穴があります。舞臺に向かつて右側（上手）には役花道があります。

③スッポン
スッポンは花道の7/3の位置にある切り穴でそこから登場する様子をスッポンのようであることからスッポンと呼ばれる。

④下座
舞臺下手にある黒板の付いた歌舞伎の始末書である下座音楽が演奏される場所。

⑤小道具部屋
歌舞伎の外題ごとに小道具が置かれている部屋。ほとんどの小道具は手巾。

⑥廻り舞台と客席
廻り舞台は客席で人力で回します。真には花道の七三へと続く通路があります。

⑦巻引き幕
創立当初に下座長有馬の主導によって制作されたもので、各家の屋号の入った旗幟が染め込まれている。

⑧落し置き
花道の壁には昔に公演した歌舞伎の「落し置き」がある。十八代目 中村錦三郎の落し置きもある。

⑨平場・歩み 「平場」と呼ぶ客席には縦横に「歩み」が敷いてあり、上演開始の客席の移動はこの上を通る。

⑩二階席 この字間に二階席があり、当初は二階席上側に1段高くなった客席があった。

形式	三方に下座を持つ切妻通り、後入り	舞台構造	高直し式の廻り舞台（建の両側 5.5m）
規模	開口 19.60m 奥行 25.71m	花道	両花道 半花道 1.45m 役花道 0.4m
客席	（一階）147㎡（二階席）140㎡	楽屋	中二階席
舞台	幅（廻り舞台含む）19.6m 奥行 7.85m		

明治座パンフレット 表

東濃の劇場群

かつてこの地方には、60棟以上の劇場形式の農村舞台がありました。今でも明治座のほかに、下呂の鳳凰座と白雲座、福島の常盤座、白川町の東座、津川の經子座など、現在も歌舞伎が上演される生きている芝居小屋が数多く残っています。これらの劇場は、廻り舞台をはじめとした本格的な設備を誇っており、当時この地域の人々を中心に歌舞伎への関心と熱意が湧きあがっていました。中でも、明治座はその規模、設備、建築形式などからいっても大変立派なもので、明治前期当時、力仕事を手伝えない主婦達が寄附した引き幕は「巻引き幕」と呼ばれ各家の屋号と名前が特な模様の中に染められていて、今も色あせず当時の人々の心象を伝えています。

8間以上ある舞材

中に入ると、広々とした空間、100年以上前に造られた小屋は、寛政およそ400年、長さ8間（14.5m）以上もある巨木を壁に、しっかりと組み上げられています。この巨木を壁にし、客席に支柱を入れずにすく、芝居の場所からでも舞台が見やすくなっています。

明治座の舞台機構

客席左手には舞台に続く「花道」があります。花道の、舞台から三対七の位置は「七三」と呼ばれ、役者はここで思い家技をしたり見得を切ったりします。その七三には「すっポン」と呼ばれる切り穴があり、芝居では旗幟や衣裳などがこの穴から登場します。舞台中央には、直径 5.5mの扇形式の「廻り舞台」があります。廻り舞台でセットの入れ替えや、幕を開いたまま舞台を回転する時に使われます。1日の舞台が一瞬にして変化するダイナミックな仕掛けは得意。今も人力での廻り舞台を回しています。

明治座の主な公演歴

明治27年	開演式（大芝居）
明治28年	初演（大芝居）
明治30年	初演（小芝居）
明治32年	初演（大芝居）
明治34年	初演（大芝居）
明治36年	初演（大芝居）
明治38年	初演（大芝居）
明治40年	初演（大芝居）
明治42年	初演（大芝居）
明治44年	初演（大芝居）
明治46年	初演（大芝居）
明治48年	初演（大芝居）
明治50年	初演（大芝居）
明治52年	初演（大芝居）
明治54年	初演（大芝居）
明治56年	初演（大芝居）
明治58年	初演（大芝居）
明治60年	初演（大芝居）
明治62年	初演（大芝居）
明治64年	初演（大芝居）
明治66年	初演（大芝居）
明治68年	初演（大芝居）
明治70年	初演（大芝居）
明治72年	初演（大芝居）
明治74年	初演（大芝居）
明治76年	初演（大芝居）
明治78年	初演（大芝居）
明治80年	初演（大芝居）
明治82年	初演（大芝居）
明治84年	初演（大芝居）
明治86年	初演（大芝居）
明治88年	初演（大芝居）
明治90年	初演（大芝居）

地歌舞伎は空

名のあつて演じる歌舞伎を「大芝居」それ以外の歌舞伎を「小芝居」農村で行われている市民参加型歌舞伎は「旗芝居」と呼ばれます。岐阜県東濃地方は「地歌舞伎」が盛んで、津川川村、長原村とらら「日本三大地歌舞伎」のひとつとされています。この子母でも昭和48年に加子母歌舞伎保存会が発足し、「加子母歌舞伎」として親しまれ、現在も毎年秋には明治座で地歌舞伎が上演される方からも多くの方が訪れます。この地歌舞伎には大芝居には見られなかった演目や地歌舞伎特有の型がこの地域の祭行活動によって継承され、地歌舞伎の見どころの一つにもなっています。この「東濃の地歌舞伎と芝居小屋」は岐阜の宝物に認定されています。

明治座維持修復基金のお願い

岐阜県指定重要有形民俗文化財「明治座」は、明治27年生れ、村人の情熱と郷土愛で建設された以来、明治座を愛する人たちの地道な努力で今まで守り続けてこられ、今もかわらぬ姿を見ることが出来ます。明治座は、其の昔と異なる時期を迎えています。十分な維持修復が必要で、明治座を完全に復活し、今後とも文化遺産として残すために、皆様から「明治座維持修復基金」寄付のご協力をお願いしています。

（寄付の方法）
明治座にて1,500円の割符を購入していただき、お名前を書いていただいた年表は明治座内に残さず置いておきます。

明治座パンフレット 裏

平成25年度「域学連携」地域活力創出モデル実証事業 講演会

岐阜県重要有形民俗文化財としての 明治座の現状と未来への展望

名古屋工業大学大学院教授 麓和善 氏



- ◆と き 平成25年10月19日(土) 加子母明治座
- 14時 開会
- 14時10分 学生による域学連携活動発表
・名古屋工業大学 藏野洋美
- 14時30分 麓和善 氏 講演
- 16時 質疑応答、意見交換会
- 17時 閉会

- ◆主 催 加子母むらづくり協議会
- ◆後 援 木の家スクール名古屋
中津川市

第27回 国づくりシンポジウム

山村文化の伝承と これからの地域づくり

平成27年2月22日(日) 13:00~15:30

会場: ふれあいのやかたかしも
長野県中津川市加子母 422004-3

基調講演
 「森林の江戸学～裏木曾を育む森林の歴史～」
一過去から現在、そして未来へ～
 講師: 徳川林政史研究所 特任研究員 太田尚志氏

パネルディスカッション
 「山村文化の伝承とこれからの地域づくり」

エクスカージョン (1,000円 ※事前申し込み必須)
 明治座改修工事の現場、尾張藩山守役・内木家、木曾馬の馬舎などの見学会を予定しています。こちらは事前申し込みが必要です。(詳しくは要項をご覧ください)

参加費 無料

主催: 中津川市 加子母むらつり協議会 (一財) 国土計画協会 全国育樹祭
 後援: 岐阜県 農林部古事の育育成協議会

お問合せ

- 中津川市加子母総合事務所 岐阜県中津川市加子母 3519 番地 2
 TEL: 0573-79-2111 FAX: 0573-79-2700 kashimo-office@city.nakatsugawa.lg.jp
- 一般財団法人 国土計画協会 東京都千代田区一橋町 13 番地 3 号
 TEL: 03-3511-2187 FAX: 03-3511-2188 info@kok.or.jp

国づくりシンポジウム 表

プログラム

受付 9:30

第一部 エクスカージョン(事前申し込みが必要です) 10:00

①明治座改修工事見学会と板へぎ体験 (協カ: 明治座委員会)
 ②木曾馬による木材の搬出体験 (協カ: 木曾町 木曾馬の里 中川誠氏)
 ③尾張藩山守役・内木家見学 (協カ: 中津川市文化財部管理課 杉村節雄氏)

休憩・昼食(各自) 11:30

第二部 シンポジウム 13:00

●主催者あいさつ

基調講演

「森林の江戸学～裏木曾を育む森林の歴史～」
 講師: 徳川林政史研究所 特任研究員 太田尚志氏

パネルディスカッション 14:00

「山村文化の伝承とこれからの地域づくり」

パネリスト
 熊澤和之氏 (明治座世話人)
 本間希代子氏 (画家・かしも産産社)
 大江忍氏 (建築家・NPO法人 藤の川ネットワーク代表)
 コーディネーター
 藤岡伸子氏 (名古屋工業大学教授)

閉会 15:30

2027年に開業予定のリア中央駅周辺、その中間駅が建設される中津川市は、古くから木曾の産地として伊勢神宮大御所宮村はじめ各地の城郭・寺社仏閣など歴史的建造物の木材を供給し、日本の木造文化を支えてきた。現在改修が進められている明治座27年祭の記念として地域住民によって大切に守られてきた、かけがえのない文化遺産を次世代に引き継ぎ、さらにそれを活用して地域の活性化につなげる取り組みをします。

国づくりシンポジウム 裏

第39回全国育樹祭 東濃圏域サテライトイベント



なかつがわ森林文化伝承 森の恵みフォーラム

加子母地歌舞伎の拠点である、かしも明治座が全面改修され、こけら落としの式典が開催されます。

開催場所 **かしも明治座** (中津川市加子母四七九三の二)

◇開会直前催事(獅子道行き・木遣り・竣工式) 午前八時四〇分

午前10時~
明治座改修記念式典(こけら落とし)

- 開会アトラクション(獅子舞)
- 匠の改修技術の上映会
- 歌舞伎舞踊「釣女」(加子母歌舞伎保存会)
- 餅投げ

午後2時~
明治座改修記念フォーラム

第一部 基調講演

「平成の大改修と地域で支える人々」(上映会)

改修前から二年間に渡り、建物と地域の人々を記録した映像を、映像作家の解説を交えてご覧いただけます。(遠藤協氏)

第二部 パネルディスカッション

「日本の伝統文化を支える木造建築と地域再生」

改修を通して見えた木造建築の課題とこれからのあるべき姿を討論します。
(藤岡伸子氏・大江忍氏・川端眞氏・中村武司氏・遠藤協氏)



10/4日
入場無料



舞台峠うまいもん祭と併催

地元の名産や名品をお楽しみください

※加子母明治座⇄舞台峠ドームの無料シャトルバスを運行します。

主催:中津川市



お問合せ・申込 中津川市加子母総合事務所 Tel.0573-79-2111 Fax.0573-79-2700

この事業は、岐阜県の清流の国ぎふ森林・環境税及び清流の国ぎふ推進補助金を活用しています。

かしも通信 特別編集 里山の地芝居

2015 KASHIMO

SATOYAMA STYLE MAGAZINE

KABUKI

里山の地芝居。



かしも通信特別号「SATOYAMA STYLE MAGAZINE KABUKI」

第四十二回

加子母歌舞伎公演

平成二十六年九月七日(日) 午前十一時開演 (無料)

かしも明治座 (岐阜県指定重要有形民俗文化財)

一、御目見得だんまり 歌舞伎絵巻 『雪月花』 歌舞伎保存会他にて相務め申し候

二、本朝廿四孝 『十種香ノ段』 加子母中学生と保存会にて相務め申し候

三、浮世柄比翼稲妻 『仲の町鞆当場』 小学生にて相務め申し候

四、歌舞伎舞踊 『雪の連舞』 松扇会にて相務め申し候

五、菅原伝授手習鑑 『寺子屋ノ段』 歌舞伎保存会他にて相務め申し候

振付指導 松本団友

主催 加子母歌舞伎保存会

後援 中津川市、中津川市教育委員会、加子母文化協会、加子母松扇会、
加子母風起こし実行委員会、明治座活用委員会、かしも通信

お問い合わせ 0573(79)2111 加子母総合事務所 <http://mejiza.jp>



第 42 回 加子母歌舞伎公演

かしも明治座改修 こけら落とし

第十四回
加子母歌舞伎公演

出 演：加子母歌舞伎保存会他
兼付指導：松本団女
主 催：加子母歌舞伎保存会

平成27年11月29日(日)
11:00開演(10:00開場) 入場無料

一 寿式三番叟
二 繪本太功記十段目 尼崎閑居の場
三 舞踊 手習子
四 舞踊 わらべ獅子
五 三國一曾我礎 由比ヶ浜の場
六 寿曾我対面 工藤館の場
七 縁結神 釣女

明治座
www.meijiza.com

第43回 加子母歌舞伎公演

Vol.01

2015 KASHIMO



かしも通信 [保存版] 里山報

SATOYAMA STYLE MAGAZINE

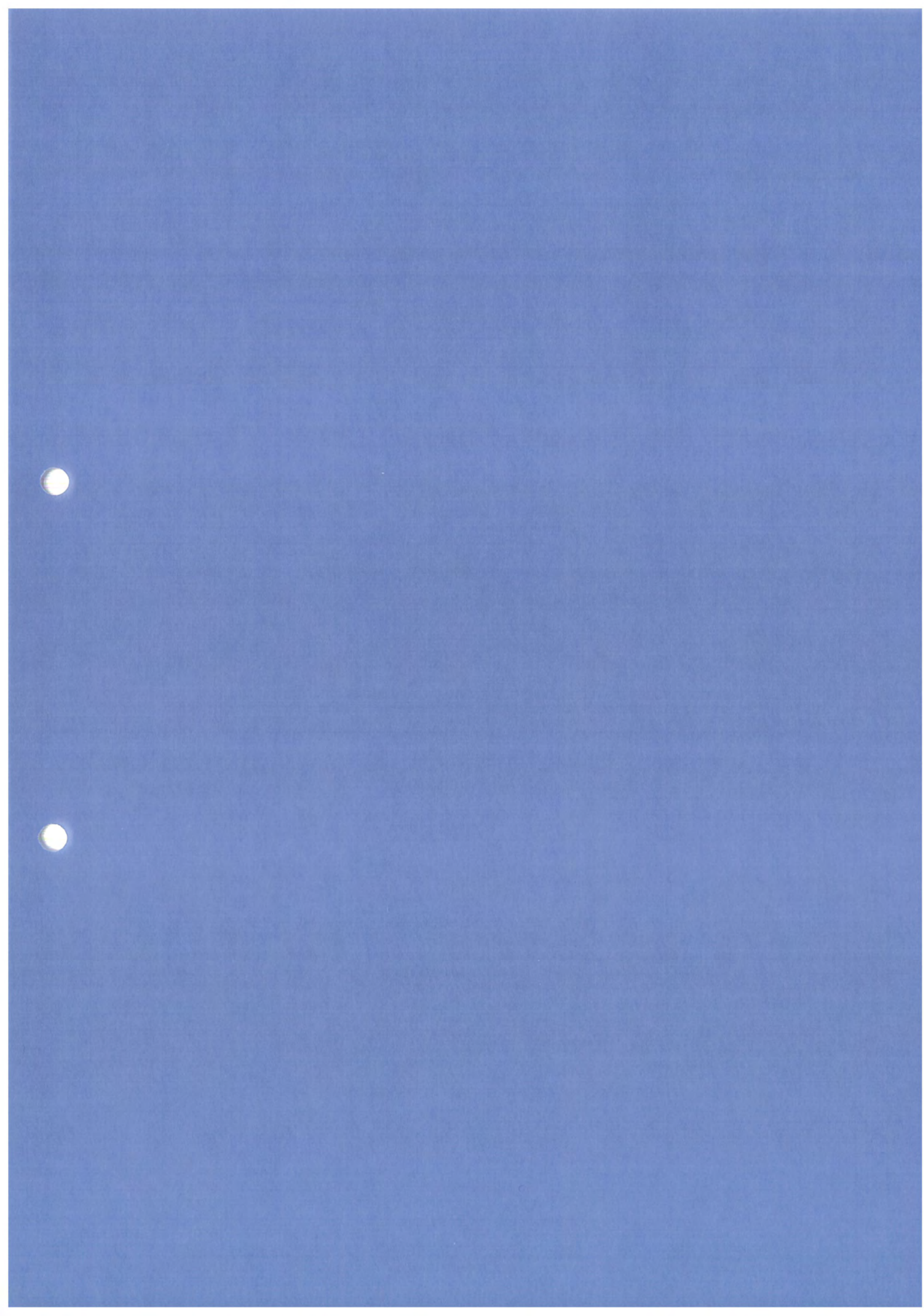
SOUND

里山の音。



別荘ない山荘の生活こそ、忘れかけた懐かき日本がある。

かしも通信特別号「SATOYAMA STYLE MAGAZINE SOUND」



付録資料V 新聞記事

- ①明治座改修工事
- ②映像記録活動
- ③加子母歌舞伎
- ④明治座クラシックコンサート

中津川市の芝居小屋、伝統工法で耐震改修



県産材を使い、伝統工法で改修される明治座＝5月30日、中津川市加子母



「明治座」再生へ

中津川市は今秋、1894年に地元有志の手で建てられ、地域の娯楽文化を支えてきた同市加子母の芝居小屋「明治座」（県重要有形民俗文化財）の耐震改修工事に着手する。県産材を使い、伝統工法で創建当時の姿に近づける。5日、施工方法を協議する有識者の検討委員会が設立された。来年秋季までに完成させ、県内で開かれる全国育樹祭で県産材や建築技術を全国にPRし、将来的には国の重要文化財指定を目指す。（有枝友香理）

今秋着工 国重文も視野に

明治座は、地歌舞伎と林業の盛んな加子母地区を象徴する木造建築。石の土台の上に建設され、江戸時代の代表的な芝居小屋にない、舞台上で人力で回す回転舞台や両側に花道を備える。修繕は過去にも行われたが、骨組みは創建当初のまま

で、柱が朽ち、板と板の間に隙間が空くなど老朽化が進んでいる。委員会は鈴木祥之立命館大教授ら有識者と地元代表者ら16人でつくる。改修には業者のほか住民や建築を学ぶ学生らも携わる。朽ちた柱の根元を差し替えるほか、セメントの瓦で覆われている屋根の一部を創建当初と同じ栗の板で葺く予定。事業費は県と市が5千万円ずつ負担し、残りは2002年から来場者らに呼び掛けて募った寄付金約2千万円を活用する。

市は、木材を適材適所で活用した明治座の建物の改修が森林整備の促進につながる効果を期待する。ヒノキやスギだけでなく、栗やナラ、ケヤキなど多様な木材を使い、需要を拡大することで、かつての豊かな森林を自指した住宅の普及にもつながると、工事は可能

回転舞台や花道を備える館内。柱や床が老朽化している＝同

岐阜新聞 2014年6月6日

芝居小屋改修で当地流

中津川の明治座 来秋 育樹祭で紹介

老朽化が進む岐阜県中津川市の県重要有形民俗文化財の地歌舞伎小屋「明治座」について、県は県産材を使った伝統工法で改修を計画している。揖斐川町で二〇一五年秋に開かれる全国育樹祭で、工事の様子を映像などで紹介し、県の木材や木工建築技術を全国にアピールする。



県産材を使った伝統工法で改修される明治座＝岐阜県中津川市で

県によると、築百十年の建物は一部の柱が曲がるなど危険箇所があり、本年度中に改修工事を始める。石の土台に柱を載せた伝統的な木造建築の特徴を残すため、朽ちた根元部分を新しい木材に差し替えるなどして、現在の構造を保存する方針。

木材には、地元の東濃ヒノキやケヤキなどを使う。旧中山道が通る東濃地方は、江戸時代から農民らによる地歌舞伎が盛んだった。明治座は一八九四（明治二十七年）年に地元の有志らが建設。舞台上から人力で回転させる「回り舞台」など昔ながらの舞台装置が残る。地歌舞伎やクラシックコンサートの公演に使われて

いる。一億二千万円の改修費は、建物管理する市と県が五千万円ずつ負担し、残りは明治座で集めた募金約三万円を充てる。高樹祭は、昭和天皇が植樹したスギがある揖斐川町の県営林で開催する。例年は皇太子さまが出席し、木を手入れされる。

県産材を活用 復元進める

芝居小屋「明治座」



県産材を使い伝統工法で改修される明治座
＝中津川市加子母



工事の本格着手を前に幕を取り外す地域住民ら＝同

地歌舞伎と林業が盛んな中津川市加子母地域を象徴する、1894（明治27）年創建の芝居小屋「明治座」の改修工事が始まった。県産材を使用し伝統工法で創建当時の姿に近づける計画。市は復元後の明治座を広くPRすることとしており「伝統工法を生かした木材による住まいづくりと、多様な山づくりを推進するきっかけとなれば」と期待している。

明治座は石の土台に柱を乗せた伝統的な工法で造られ、適材適所で約20種類の木材を使用。修繕は行われてきたが、骨組みは創建当初のまま。老朽化が問題となっていた。市では、6月に有識者らで検討委員会を立ち上げ、施工方法を検討してきた。今月11日に起工式が行われた。

屋根部分は、創建当初と同じ栗の板で拭く予定。繊維を壊さないように板を薄くはぐいで、水はけや空気の通りをよくすることができ、今後8万枚を準備する。加子母地域は94%が森林だが、大部分を占めるのはヒノキの人工林。適材適所の木材利用を推進することで、多様な山づくりを目指す。

※今回は三世代で取り組む持続可能な森林づくりを紹介し、県では「清流の国さふ」づくりが政策の柱として推進され、清流の根幹をなしている森林などへの関心も高まっている。森林づくりなどに積極的に関わる県内の人々や取り組みをシリーズで紹介する。次回は1月8日に掲載。



手から手へ 豊かな緑で ぼくらの未来

岐阜新聞

住民参加が伝承の鍵

加子母 地域づくりで討論

山村文化の伝承や地域づくりを考えるシンポジウムが、中津川市加子母の研修交流施設「ふれあいのやかた かしも」で開かれた。加子母で木造建築の実習に参加した県外の学生や住民ら百三十人が参加。徳川林政史研究所の太田尚宏特任研究員が江戸時代からの森林伐採や植林、保全の歴史を説明した。築百二十年を超す地元の芝居小屋「明治座」をめぐり、世話人の熊沢和之さん、イラストレーター本間希代子さん、建築家大江忍さんが語り合った。熊沢さんは地域の娯楽の場として親しまれた歴史を紹介。大江さんは創建当時の姿に戻すため昨年十二月に始まった改修工事を解説



シンポジウムで明治座の歴史や改修工事の内容を話し合う参加者＝中津川市加子母の「ふれあいのやかた かしも」で

新生明治座へ着々

中津川市で耐震改修工事

中津川市加子母の芝居小屋「明治座」で進められている耐震改修工事は今月から、屋根を「樽板」で葺く作業に着手し、徐々に創建当時の姿に近づいている。築120年の木造建築を相手にした、一大事業の進捗状況を紹介します。

(有我友香理)

日曜 映写記

事を開始。石の土台の上に建造されており、最大で9センチ沈んだ地盤を戻し、柱の朽ちた部分を新しい木で継ぐ作業を行った。屋根部分は今月からは、板の上に新しい樽板を葺く作業が始まった。

今月、屋根の樽葺きに着手



サワラの樽板が葺かれ、徐々に創建当時の姿に近づく屋根部分＝中津川市加子母、明治座



セメント瓦が外され、創建当時の樽葺き屋根が見えた屋根部分＝同、今年3月

板で覆って保護した。今月からは、板の上に新しい樽板を葺く作業が始まった。樽板はサワラを2万枚、クリを6万枚使用する。地元の林業団体などが、繊維を壊さないようにはくごで水はけを良くする「板へぎ」を行い、半分ほどが準備できた。高山市の飛騨の里で長年、樽葺き屋根の世話をしてきた山口未造さんの指



朽ちた柱を新しい木で継ぐなど、改修が進められる建物内＝同

導で、地元の瓦店が一枚一枚書いている。各家庭から持ち寄った、5〜10センチの石約8000個で押さえて完成する。工事は秋までの予定。今月28日午前9時30分からは、現場見学会も開かれる。予約不要。



急ピッチで進められる板へぎの作業＝同、加子母総合事務所横

「明治座」の歴史体感

親子連れら改修現場見学

中津川・加子母

一八九四年の創建当時の姿を復元するため、改修工事が進む中津川市加子母の芝居小屋「明治座」（県重要有形民俗文化財）で二十八日、一般を対象に見学会が開かれた。

（平野誠也）

市内外から親子連れ 補修された柱、床板を
ら三十八人が参加。市外した屋内を見て回っ
職員らの案内で屋根やた。



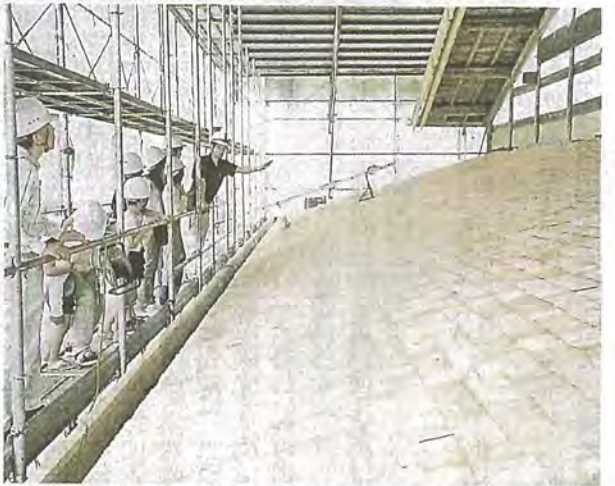
市職員らの案内で工事中の屋内を見学する参加者＝中津川市加子母の明治座で

屋根はセメント瓦が撤去されていた。瓦の下には建築時にふいた樽板が残っており、板や防水シートで覆われていた。今後、板の上にクリとサワラの新たな樽板八万五千枚をふき、住民らが持ち寄った石で押さえる。職員は「地元の人たちの熱い思いで当時のまま守られてきた」と説明した。参加者が有料で樽板にサインする企画もあった。家族と訪れた苗木の木工樋田光治さん（@）は「木造建築は直せば使える。代々受け継がれれば」と話した。工事は昨年十一月に始まり、九月末に終わる。秋にはこけら落としがあり、十一月には例年九月の地歌舞伎公演も予定される。

中日新聞 2015年6月30日

新「明治座」に熱視線

耐震工事 市民ら屋根や屋内見学



改修が進む屋根部分を見学する参加者＝中津川市加子母、明治座

伝統構法による耐震工事が進められる中津川市加子母の芝居小屋「明治座」で、市民らを対象とした見学会が開かれ、参加者が今しか見られない明治座の姿を見て回った。明治座は1894年の創建。昨年11月に工事を開始し、ことし秋の完成を予定している。一般向けの見学会は初めてで、地元や名古屋、岐阜市などから37人が参加した。参加者は、市職員の案内で屋根や屋内を見学。屋根を創建当時と同じサワラとクリの「樽板」で葺く作業や、朽ちた柱を新しい木

「この規模で板葺きの芝居小屋は全国でも珍しく、自慢できるものになる」と説明した。6年前に加子母に転居してきたという吉川直さん66は、「建物の歴史と匠の技術を感じた。自分も工務店に勤めていたので感慨深い」と話した。（有我友香理）

岐阜新聞 2015年7月1日

明治座に加子母中生の心

芝居小屋「明治座」(中津川市加子母)の改修工事の一環で、板ぶきの屋根に重しの石を置く作業が始まるのを前に、加子母中学校の全生徒八十一人が石にメッセージや夢を書き込んだ。

(平野誠也)

屋根の置き石に記入

後世が受け継ぐ機運を高めようと、地元の学校やPTA関係者らでつくる加子母教育協議会が企画。工事に加わる地元の中島工務店が九十個の石を学校に搬入した。

市加子母総合事務所の内木哲朗所長が生徒に工事の概要を紹介。加子母では一九七〇年代前半まで民家の屋根に置き石が使われたことを説明した。

生徒は油性ペンで「明治座よ永遠なれ」「加子母の自然



屋根の置き石にメッセージや夢を書き込む生徒たち＝中津川市加子母の加子母中で

と文化が残りますように」と記入。「高校合格」「学力アップ」といった書き込みもあった。

石は生徒の分を含む四百五十百個が工事最終盤の九月に設置される。

明治座は一八九四年に板ぶき屋根で建造。一九二〇年に瓦、七三年にセメント瓦で改修された。

工事は当初の姿を復元するため昨年十一月から続いている。

中日新聞 2015年7月18日

明治座に夢載せて

られる予定。

(有我友香理)

中津川市加子母の加子母中学校生徒が15日、現在改修工事が進められる同所の芝居小屋「明治座」の「樽板」で葺いた屋根に載せる石に、思い思いのメッセージを記した。

「この先も子どもたちに明治座に愛着を持ってもらいたい」と市民団体の「加子母教育協議会」が発案し、施工業者の中島工務店(同所)が協力。同社が8、10月の石約90個を同校に運び込んだ。

市加子母総合事務所の内木哲朗所長が、改修工事の概要や石の役割を説明。全校生徒81人が一人1個ずつの石に、将来の夢や、高校合格などの目標、加子母の発展を願うメッセージをペンを記した。

加子母中生 屋根の石にメッセージ記す



石は8月下旬から9月上旬に、明治座の屋根に載せ

明治座の屋根に載せる石にメッセージを書く生徒たち＝中津川市加子母、加子母中学校

岐阜新聞 2015年7月17日

大学生が「トントン葺き」

屋根の葺き替え工事
大学生たち＝中津川
市加子母、明治座



明治座創建時の屋根復活へ体験

9月末の完成を控え、耐震改修工事が大詰めを迎えている中津川市加子母の明治座で、建築を学ぶ大学生が、薄く削いだ板で屋根を葺く「トントン葺き」による屋根改修の一部を体験し、匠の技に触れた。
(有我友管理)

「押え棧」の木材並べ、石設置

明治座は1894年の創建で、柱が朽ちるなど老朽化が進んでいたため、改修工事が行われている。屋根はセメント瓦を撤去して創建当時と同じトントン葺きにする計画で、27日までにサワラとクワの板計8万枚を葺く工程が完了した。現在、「押え棧」と呼ばれる木材と、重さ10kg前後の石で板を押さえる作業が行われている。

9大学の学生約250人が同地区に滞在して木造建築を学んだ「かしも木匠塾」の参加者のうち、京都造形芸術大、東洋大の学生15人が参加。屋根に上った学生たちは、木材を搬入して板の上に並べ、地域住民のメッセージが書かれた石を丁寧に設置していた。

京都造形芸術大3年の堀遥香さん(20)は「2月に足場から建物を見学したが、初めて屋根の上を歩いて作業の様子を実感できた。皆で改修に携わってよかった」と話していた。

岐阜新聞

中津川の「明治座」

来月4日こけら落とし

岐阜川町で十月一日に、改修は、老朽化が進む建開かれる「築五九回全国育樹祭」のサテライトイベントとして、昨年十一月に開始。中津川市加子母の歌舞伎小屋「明治座」の屋根から葺き初めの「トントン葺き」と呼ばれる板屋根に戻すこととし、木目に沿って削いたサワラとクワの板で葺き、重さ七、八十kgの石を押し、石を押さえた。

明治座は一八九四(明治二十七年)に地元の有志が、せた伝統的な建築様式は残された。舞台下から入り、朽ちた柱は新しい木を継ぐなど、文化財としての価値を損なわないよう補修。

改修記念フォーラム 歌舞伎保存会の舞

板屋補強などで耐震性も補った。フォーラムの中で改修記念式典があり、映像作家の



改修された明治座の中津川市加子母の明治座で

連綿と伝承されてきた改修中の記録映像を上映。こけら落としとして地元歌舞伎保存会による舞踊「釣女」が上演される。保存会や子どもたちがお披露目の口上を述べ、その映像は育樹祭会場でも流される。

フォーラムでは、遠藤さんが「平成の大改修と地域を支える人々」と題して基調講演。「日本の伝統文化を支える木造建築と地域再生」をテーマにしたパネルディスカッションもある。入場無料。徳市加子母総合事務所0573(7)2111 (要予約)

(第3種郵便物認可)

文化



「根接ぎ」で補修され、礎石の上に載る柱=いずれも岐阜県中津川市加子母の明治座で

1894年に岐阜県加子母村（現中津川市）に建てられた歌舞伎小屋「明治座」（県重要有形民俗文化財）が、約120年を経て大改修されている。創建当初と同じ伝統構法で耐震補強し、屋根をふき替え

る。「100年保つ改修」で文化財の価値も上げ、伝統構法の技術を守り、山を守ることも狙う。全国的には、伝統構法の技術や人を世界文化遺産に登録しようという動きも進んでいる。（野村由美子）

岐阜・旧加子母村「明治座」120年経て改修



2012年に岐阜県獅子芝居公演が開かれた際の明治座

旧加子母村の高台にある明治座の改修現場で「根接ぎ」という補修がされた柱を見せよう。古い柱の腐った部分を真新しい木に置き換えはめ込む。柱は石場建てとい

伝統構法の技術継承

う伝統構法で礎石の上に載る。たわんだ柱には添え柱がされてきた。明治座にはミミ、クリ、スギなど約二十種類の木が使われ、補修も同じ類の木を使います。いろいろな木の特性を生かす方が丈夫な建物になる」と同市加子母総合事務所長の内木哲明さんが説明する。

明治座は住民たちの手で建てられた。細かな修復を重ねてきたが、雨漏りや傾きなど老朽化が深刻で、耐震補強も急がれていた。以前と同じ姿にとの住民の希望もあり、市は、建築や文化財保存を専門とする研究者らと耐震改修検討委員会を組織し、文化財と



手作業で割いたへぎ板で葺かれた樽葺きの屋根

しての価値を損なわない修理に着手した。県の支援と募金も合わせた予算は一億三千万円。できる

限り地元産材を使い、創建当時の構法で傾きを直し、耐力壁による補強、土台修理などを施した。

屋根を樽葺きに戻すのも目玉。手作業で木目に沿って割いた板で屋根を葺く。その板へぎ技術を持つ県内唯一の職人、山口末造さん（60）の指導を受け、地元の人たちが、水に強いクリやサワラの木で八万枚を用意した。今後はへぎ板募金などを計画し、来場者を巻き込んだ継続的なメンテナンスで技術の継承も狙う。

委員の一人で文化財保存に詳しい麓和善名古屋工業大大学院教授は「屋根の組み方や

材木も昔のままが多く残る本格的な舞台。国の重文クラス芝居小屋と比べても遜色ない。その価値を下げないよう正しい保存修理が大切」と話す。記録古文書も全て残る幸運もあり、将来に備えて正確な記録も整備していく。設計監理を担う建築士でNPO法人緑の列島ネットワーク理事長の大江忍さんは伝統構法の耐震性の利点を強調する。「石場建ては地面と建物が直接つながらず地震の影響を受けにくい。横に通す貫という柱はしなやかに揺れを吸収

し、樽葺き屋根も軽く負担が少ない。コンクリートと異なり石や木なら百年以上保つ」。壁も強度実験を行い、ヒノキ板で必要最小限の補強を加えた。九月からは覆いが外され、樽葺きの屋根に石を載せる作業が始まる。十月四日に完成イベント、十一月二十九日にはこけら落とし公演が控える。内木さんは「見学者に木の良さを体感してもらいたい。改修が山の多様性を守る起爆剤になれば。大きなモデルハウスです」と期待している。

現在の建築基準法では、ボルトや鉄骨など金物に頼らず、木材をうまく組み上げる伝統構法では簡単に建てられない。大江さんや麓教授も加わる、国土交通省が設置した「伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験検討委員会」は二〇一〇―二〇一二年、石場建てを含む伝統的構法建築物の設計法や耐震評価法などについて検討し、全国の伝統建築を調査するなどして伝統的構法の在り方を報告、提言してきた。

「かかわる人も守りたい」

今年からは「かかわる技術者や職人も含めて守ってきたい」（大江さん）、哲学者の梅原猛さんを呼び掛け人代表に建築関係者や文化人ら個人と団体が伝統不造技術文化遺産準備会を設立し、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産登録を目指す運動も始まった。麓教授は「本来それぞれの地域にふさわしい建築様式があり、建築技術に支えられていた。明治座も屋根下の小屋組みに当時新しい洋風の様式を混ぜるなど、大工の技術と強い思いが分かり興味深い。建物がなくなればそんな歴史も消える。伝統建築を正しい修理で残していくことは、歴史と文化の豊かさを守ることに

加子母全体、キャンパスに

大学生が地域の課題解決やまちづくりに取り組む「域学連携」が盛んな中津川市加子母で、名古屋工業大大学院1年の佐野智哉さん(23)が、加子母に住まいを移して「地域全体をキャンパス」にしようと活動している。「地域にはいろいろな技術を持った人がいる。教える人と学ぶ人が、自然と集えるサテライトキャンパスを増やし、空間の提案をしていきたい」と話している。
(有我友香理)

移住の名工大院生・佐野さん活動

東濃 アラウンド

佐野さんは建築デザインが専門で、名古屋工業大4年生だった昨年5月に初めて加子母を訪問。当初は「元気がない



「地域全体をキャンパスにしていきたい」と語る佐野智哉さん(中津川市加子母)

過疎地を想像していたが、おろかな人柄と地域性にひかれた。「建築でコミュニケーションをつくる」のではなく「地域の豊かさに対して建築で空間を与えたい」と

過疎地を想像していたが、現在は週5日加子母に滞在し、宿泊施設を一つ目のサテライトキャンパス「加子母1a b」にして、現在改修中の歌舞

豊かな自然や古民家を活用



付小屋「即洋団」の館舎を残したり、ネットワーキングに励むなど活動をしている。先月には、域学連携の活動報告会「加子母の大学オープンキャンパス」の企画に携わり、自然体験や古民家改修など地域を舞台に六つの体験イベントを開いた。
「加子母の大学オープンキャンパス」の企画に携わり、自然体験や古民家改修など地域を舞台に六つの体験イベントを開いた。

ラボ通信

地域全てがキャンパス

域学連携研究所 加子母Lab 主宰
名古屋工業大大学院2年 佐野智哉さん 23

1894年(明治27年)に建築された岐阜県中津川市加子母地区の地歌舞伎小屋「明治座」。10月の完成に向け、改修中の明治座を古田肇・同県知事が先月27日、視察に訪れた。関係者に工事の進み具合などを訪ねるその姿を、佐野さんがビデオに収録していた。「加子母に欠かせない明治座。完成までの映像はデータとして不可欠です」

加子母地区は、中津川市の山あいにある林業が盛んな地域。高齢化や過疎化が進む里山で、学生たちが1995年から、地元の仕事店などをつくる「かしも木匠塾」で木造建築の基礎や技術を学び、明治座で秋に行われるクラシックコンサートに参加するなど、地域と大学が協力し合う「域学連携」が早くから実践されている。

交流と学び 実践



「域学連携」に取り組む佐野さん

付けた。明治座の記録を残したり、学生と地域とのネットワークづくりを励んだりしている。

建築デザインを専攻していた佐野さんが加子母地区を初めて訪れたのは、大学生だった2年前の5月。在籍していた研究室に「域学連携」という研究課題が設けられたのがきっかけだ。

佐野さんが加子母を訪れた驚いたのは、住民に根付いた

びの場として設定。先生は地域住民、学生は林業や農業、歌舞伎など教えてもらいたい住民のところへ通う。老朽化した公民館を改築して図書館にしたり、神社を大学のホールとして活用したりするなどして、大学としての機能も備えさせた。

大学院に進んだ後、昨年8月から、加子母に空き家を借りて、週5日加子母、残る2日を名古屋という生活を始めた佐野さん。今年1月から、名古屋との二重生活をやめて本格的に加子母に移住した。

翌2月には、市加子母総合事務所の協力も得て、域学連携の報告会「加子母の大学オープンキャンパス」を開催。雪の山道散策や、炭作り体験のほか、かしも木匠塾に参加した京都大や金沢工業大、明治座の舞台道具の製作に携わった武蔵野美術大の学生らの活動報告会を行った。

今後、仲間を増やしていくことが目標という佐野さんは「田んぼや畑、森で学生と地域住民が交流しながら学び、協力していくことで、地域活性化に役立てば」と話す。(松原輝明)

域学連携

地域と大学が協力し合っ

地域社会を研究する名工大院生

佐野 智哉さん(22)＝名古屋市



本番を間近に控えて舞台稽古に取り組む佐野智哉さん＝中津川市加子母の明治座で

あす加子母歌舞伎に出演

中津川市加子母の芝居小屋「明治座」で七日、第四十二回加子母歌舞伎公演が開かれる。地元住民に交じり、名古屋工業大学院生佐野智哉さん(三)＝名古屋市＝が初めて舞台を踏む。地域社会の研究で通ううち、山村の土地柄に魅了され、出演の機会を得た。
(平野誠也)

「おそばに付き添う一五日夜にあった大詰めのは大学四年だった昨年の家臣は剣持六郎」。名稽古。配役は武士で、立五月。コミュニティづくりを上げる佐野さんのち回りの演技も練習しくりを促す建築を学んだせり心は築百二十年の木た。初めて加子母を訪れた 地域社会の実態を見よう

が、行き詰まっていた。

と、研究室の現地調査に参加した。下の名前と呼び合う中津川市職員と住民の姿に、役所は縁遠いという先入観が揺らいだ。二度目の訪問では、地区総出で国道沿いに花を植える活動を目にした。「ここでは当たり前のことに豊かさを感じた」

ほぼ毎月通い、行事を見学。住民への聞き取り調査もした。「人も風景も土地に根付いている。土地を見つめることで空間を浮かび上がらせる大切さを知った」

八月から田舎暮らしのモデルハウスを借りて滞在。地域全体を学びの場にできないか模索する。

出演は、親しくなった野菜農家田中省吾さん



土地柄に愛着 住民に交じる

(三)の妻浩子さんから二月に誘われたのがきっかけ。田中さんは舞台係として運営に参加していた。

剣持を演じるのは第一幕「御目見得だんまり歌舞伎絵巻 雪月花」。第五幕「菅原伝授手習鑑 寺子屋ノ段」にも百姓役で登場する。

主催する加子母歌舞伎保存会の丹羽貞蔵役者部会長(六)は「みんなと一生懸命に取り組んでいよう」と目を細める。

役者、指導者、裏方。大勢の人が関わって舞台が成り立つことを佐野さんは日々実感している。「一緒につくっていると、どんどん面白くなる。観客も含めて一体感を味わいたい」

開演は午前十一時。全五幕で、保存会員や地元の小中学生らも出演する。無料。問い合わせは市加子母総合事務所＝電話0573(79)2111＝へ。

堂々の見えに掛け声

中津川で加子母歌舞伎公演

中津川市加子母の芝居小屋「明治座」で、第四十二回加子母歌舞伎公演が開かれた。建物の老朽化に伴い、秋

から始まる改修工事前の最後の舞台となり、県内外の六百人が詰め寄り、歌舞伎絵巻「雪月花」など五演目を上演した。役者が見えを切ると、客席から掛け声やおひねりが飛び交った。



熟の込もった演技を見せる役者たち＝中津川市加子母の明治座で

明治座は一八九四年に住民有志が建設した。一九七二年に県重要有形民俗文化財となつたのを受け、七三年から毎年公演が開かれている。改修はこれまで部分的に行われてきた。伝統工法で創建当時の姿に近づけ、来秋の公演には間に合わせる方針。

(平野誠也)

中日新聞 2014年9月12日

観光客誘致に地歌舞伎活用

中津川で意見交換会

「岐阜の宝もの」に認定される「東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋」を活用して観光客誘致を図ろうと、古田知事と中津川市で活動する歌舞伎保存会の会長らが

伊藤隆・東濃歌舞伎中津川保存会長、市川尚樹・岐阜自慢ジカブキプロジェクト会長が出席した。

27日、同市加子母の尾張藩・山守役「内木家」で意見交換会を行った。

中島会長らが「歌舞伎保存のためには、後継者育成が必要」「最近、歌舞伎見物を楽しむ外国人、特に欧米人が増えている」と現状などを説明。古田知事は「歌舞伎の保存・継承のためには、技術継承は

意見交換会は、県が今年度、初めて開催。古田知事のほか、中島敏明・加子母歌舞伎保存会長、山内総太郎・坂下歌舞伎保存会長、

もちろん、マネジメントの部分の継承者も必要にな



地歌舞伎の保存会長らと意見交換する古田知事（右）

る」と指摘し、「歌舞伎小屋の多い中津川から下呂までの国道を歌舞伎小屋にちなんでネーミングするなどして、外国人観光客らと呼び込んで」と提案した。

2014 5/20 新



モーツァルトの楽曲を演奏する出演者—中津川市加子母の明治座で

文化財に音楽が融合

中津川・加子母 明治座でコンサート

中津川市加子母の芝居小屋「明治座」で、クラシックコンサートが開かれ、築百二十年の県重要有形民俗文化財の建物に弦楽、管楽器の音色が響いた。

主に東京芸術大の卒業生でつくる「レボリユーション・アンサンブル」の三十一人が出演。市民五百人を前に、モーツァルトの「フルートとハープのための協奏曲」「交響曲40番」など三曲を演奏し、アンコールの拍手に一曲応えた。

コンサートは一九九八年に始まった。バイオリン奏者の故田中千香士東京芸大名誉教授が「生のクラシック音楽に親しむ機会が少ない山村の子どもたちのために」と教え子らに呼び掛けた。

田中さんが二〇〇九年に亡くなった後も教え子や地元の有志らが引き継いでいる。

実行委員会の秦雅文会長(四七)は「一流の音に触れる貴重な機会。子どもの数は減っているが、これからも続けていきたい」と話した。

(平野誠也)